



**THE NIPPON
FOUNDATION**

For Social Innovation

日本財団子どもの生きていく力サポートプロジェクト
『日本財団第5回自殺意識調査』報告書

目次

I. 調査概要	1
(1) 背景	1
(2) 調査目的	1
(3) 調査対象・割付	1
(4) 調査方法	2
(5) 調査期間	2
(6) 調査に際しての倫理的配慮	2
(7) その他留意事項	2
(8) 日本財団調査チーム	2
(9) 報道に際しての留意事項	3
II. 調査結果	4
1. 回答者属性	4
(1) 性別×年齢	4
(2) Q1.出生届の性別	4
(3) Q2.性自認	5
(4) Q3.今の認識に最も近い性別	5
(5) Q4.性的指向	6
(6) Q5.同居家族	6
(7) Q6.持病	7
(8) Q29.抑うつ感や不安感の状態 (K6 得点)	11
(9) Q7.逆境的小児期体験 (Adverse Childhood Experience : ACE)	13
(10) Q7.ACE スコア	14
2. これまでの性被害経験	15
(1) Q8.性被害経験の有無	15
(2) Q8.これまでの性被害の内容	17
(3) Q9.これまでに経験した被害の総回数	18
(4) Q10.これまでに経験した被害の総加害者数	18
(5) Q11.これまでに経験した被害の加害者との関係性	19
(6) Q12.2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無	20
(7) Q13.最初に性被害を受けた年齢	21
(8) Q14.直近で性被害を受けた年齢	21
3. 最も深刻な性被害	22
(1) Q15.最も深刻な性被害の内容	22
(2) Q16.最も深刻な性被害が始まったときの年齢	23
(3) Q17.最も深刻な性被害の加害者との関係性	28

(4)	Q18.最も深刻な性被害の継続期間	34
(5)	Q19.最も深刻な性被害に遭ったときの感情	38
(6)	Q20.最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無	39
4.	性暴力被害後の援助要請	43
(1)	Q21.性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手	43
(2)	Q22.性暴力被害に関する現状の支援の認知度	49
(3)	Q23.性暴力被害について誰にも相談しなかった理由	50
(4)	Q24.性被害に遭ったときに利用しやすい／利用を勧めたいサービス	51
5.	希死念慮・自殺未遂・自殺準備経験	52
(1)	Q25.希死念慮の有無	52
(2)	Q26.自殺未遂・自殺準備経験の有無	58
(3)	Q25.Q26 希死念慮／自殺未遂・自殺準備のあった時期	63
(4)	Q27.希死念慮の要因になりうる経験	64
(5)	Q28.希死念慮の要因になりうる経験（詳細）	73
6.	希死念慮や自殺未遂・自殺準備に関する援助要請	77
(1)	Q30. 希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手	77
(2)	Q31.自殺に関する現状の支援の認知度	86
(3)	Q32. 希死念慮が生じた際に誰にも相談しなかった理由	87
(4)	Q33.希死念慮が生じた際に利用しやすい／利用を勧めたいサービス	88

1. 調査概要

(1) 背景

日本財団はこれまで、自殺意識について把握するため 2016 年から計 4 回の自殺意識調査を行っている。2021 年 4 月に 13～79 歳の男女を対象として実施した第 4 回目の調査では、若年層の自殺に関する以下の実態がわかった。

- ✓ 自殺念慮、自殺未遂ともに 15～20 代のリスクが高い。
- ✓ 15～19 歳の 1 年以内の自殺念慮は、男性より女性が多く、特に女性 17 歳・18 歳で多い。
- ✓ 15～19 歳のうち、自殺念慮があった層のストレス要因は、家族からの感情的な暴言、家族時間の増加／一人時間の減少など同居家族やコロナ禍の生活環境の変化に起因するストレスが目立つ。

(2) 調査目的

第 4 回自殺意識調査の結果を受け、本調査は若年層に調査対象を限定し、若年層の希死念慮の実態と希死念慮に影響のある要因として考えられるものを明らかにするとともに、要因の一つとして考えられうる性被害の実態について把握し、実際の支援に繋げることを目的として実施した。

(3) 調査対象・割付

全国の 18 歳～29 歳の若者 14,000 人を対象とした。

調査対象の抽出にあたっては、以下の通り、2020 年の国勢調査における全国構成比に基づく性・年齢構成比にて割付を行った。しかし、「男性／出生届時の性別と同じ／18-19 歳」と「男性／出生届時の性別と同じ／20-24 歳」については調査期間内のサンプル回収ができず、割付数よりも回収数が小さくなっている。最終的には、14,819 人からの回答が得られた。

No	セル	配信数	割付	実際の回収数
1	男性／出生届時の性別と同じ／18-19 歳	-	1,161	521
2	男性／出生届時の性別と同じ／20-24 歳	-	2,956	2,548
3	男性／出生届時の性別と同じ／25-29 歳	-	3,015	3,094
4	女性／出生届時の性別と同じ／18-19 歳	-	1,106	1,147
5	女性／出生届時の性別と同じ／20-24 歳	-	2,857	2,968
6	女性／出生届時の性別と同じ／25-29 歳	-	2,905	2,987
7	トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答	-	割付せず、回答があった人数分を採用	1,554
	合計	501,018	14,000+α	14,819

(※1) No1～3 は、Q1 (調査票上では「あなたの性別をお答えください。(出生時の戸籍・出生届の性別) ※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことを指します。」と記載) にて「男性」、Q2 (調査票上では「あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別 (Q1 で選択したもの) と同じだととらえていますか。」と記載) にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、No4～6 は、Q1 にて「女性」、Q2 にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、No7 は、Q2 で「別の性別だととらえている」「違和感がある」「答えたくない」を選択した者を示す。

(※2) 調査期間中は、モニター登録時の登録情報をもとにアンケートの配信を行った。各属性への配信数は以下の通り。なお、本調査において「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」に分類される属性情報は

モニター登録時に取得していない。

「男性／18-19 歳」 28,942 件、「男性／20-24 歳」 102,845 件、「男性／25-29 歳」 82,376 件、「女性／18-19 歳」 55,252 件、「女性／20-24 歳」 139,409 件、「女性／25-29 歳」 92,194 件

(4) 調査方法

調査会社への登録モニターを対象としたインターネット調査を実施した。なお、調査テーマを踏まえ、回答者の自由意志を尊重する観点から各設問で途中離脱を可としたため、対象者条件が同じ設問であっても n が一致しないことがある。なお、最終設問である設問 Q33 の回答者数は 14,444 人（※うち、(7)記載の通り分析対象外とした回答が 1 件あったため、実際の分析対象は 14,443 人）であり、途中離脱は当初の 2.5%にとどまった。

(5) 調査期間

2022 年 11 月 10 日（木）～2022 年 11 月 18 日（金）

(6) 調査に際しての倫理的配慮

調査設計に際しては侵襲性の高い表現を避けるべく性被害者支援や自殺予防を専門とする有識者からの助言を得るとともに、金沢大学人間社会研究域「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会の承認を経たうえで実査を行った。

(7) その他留意事項

本調査においては登録モニターの上限から前回の有効回答数同様の 20,000 件¹の回答を集めることが困難であったことから、前回とは異なり開始時の予定割付を超えた回答についても分析の対象とした。また、選択肢「その他」に付随する自由回答欄について、不適切なことばや英数字・記号の羅列など、意味をなさない回答がないかを確認し、一部の設問（Q24、Q32、Q33）において確認された場合は、各設問にて当該回答を分析の対象外²としている。

また、設問全体を通して回答負担が非常に高いことを踏まえ、調査サイト設計において、以前の設問の回答結果と不整合があった場合に強制的に前の設問に戻る機能や、回答をエラー表示する等の制限機能は意図的に設けていない。そのため、設問間の回答数に整合性が取れない場合もあるが、分析の対象としている。

(8) 日本財団調査チーム

- ・調査委員会委員（五十音順、敬称略）

伊藤次郎（特定非営利活動法人 OVA 代表理事）

岩本健良（金沢大学 人間社会研究域人間科学系 准教授）

遠藤智子（一般社団法人社会的包摂サポートセンター 事務局長）

齋藤梓（目白大学心理学部心理カウンセリング学科 准教授、公益社団法人被害者支援都民センター 臨床心理士）

¹ 前回調査においても事前の検定力分析は実施していない点に留意は必要。

² Q24 において 3 件、Q32 と Q33 において各 1 件を分析の対象外とした。

橘ジュン（特定非営利法人 BOND プロジェクト 代表）

西本幸恒（株式会社文藝春秋 月刊「文藝春秋」編集部 統括次長）

田上幸治（NPO 法人子ども支援センターつなぐ 代表理事、神奈川県立こども医療センター
医師）

飛田桂（NPO 法人子ども支援センター つなぐ 代表理事、ベアヴェニュー法律事務所
弁護士）

- ・ 日本財団公益事業部国内事業開発チーム 調査事務局
- ・ 調査実施委託機関 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

(9) 報道に際しての留意事項

- ・ 下記の子どものメディア報道の原則（UNICEF の倫理的ガイドライン）に準じ、子どもや若者のさらなるスティグマや差別、非難をしないような報道を心がけるよう、強くお願いしたい。

①Respect the dignity and rights of every child in every circumstance.

（あらゆる状況において、あらゆる子どもの尊厳と権利を尊重すること³）

②In interviewing (and reporting on) children, pay special attention to each child's right to privacy and confidentiality, to have their opinions heard, to participate in decisions affecting them and to be protected from harm and retribution.

（子どもへのインタビュー（及び報告）では、プライバシーと守秘義務に対する各子どもの権利に特に注意を払い、意見を聴いてもらい、子どもに影響を与える決定に参加し、危害や報復から保護すること）

③Protect the best interests of each child over any other consideration, including advocacy for children's issues and the promotion of child rights.

（子どもの問題の擁護や子どもの権利の促進など、他の考慮事項よりも、子どもの最善の利益を保護すること）

④When trying to determine the best interests of a child, give due weight to the child's right to have their views taken into account in accordance with their age and maturity.

（子どもの最善の利益を判断しようとするときは、年齢と成熟度に応じた視点を考慮に入れたうえで子どもの権利を十分に重視すること）

⑤Consult those closest to the child's situation and best able to assess it about the political, social and cultural ramifications of any reportage.

（子どもの状況に最も近く、ルポルタージュの政治的、社会的、文化的影響について最もよく評価できる人に相談すること）

⑥Do not publish a story or an image that might put the child, their siblings or peers at risk, even when their identities are changed, obscured or not used.

（身元を変更する、隠す、使用しないといった場合であっても、子ども、そのきょうだいや仲間を危険にさらす可能性のある話や画像を公表しないこと）

（<https://www.unicef.org/eca/media/ethical-guidelines>）

³ 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社による仮訳。以下同様。

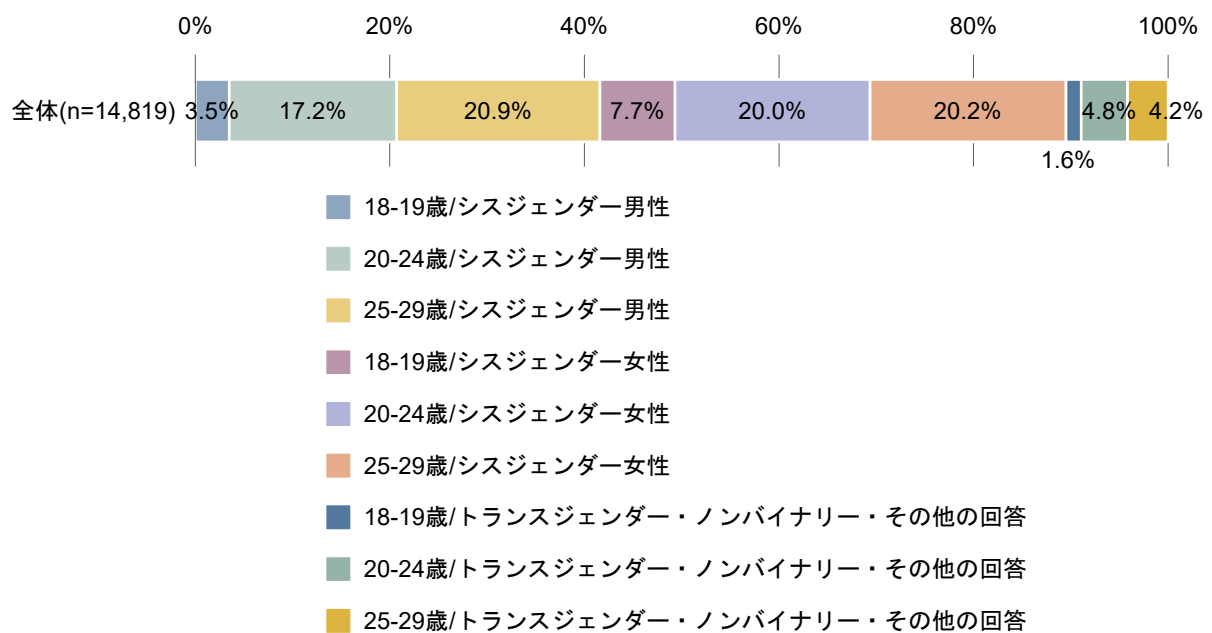
II. 調査結果

1. 回答者属性

(1) 性別×年齢

「25-29歳/シスジェンダー男性」が20.9%で最も割合が高く、次いで「25-29歳/シスジェンダー女性」が20.2%、「20-24歳/シスジェンダー女性」が20.0%となっている。

図表 1 性別×年齢:単数回答

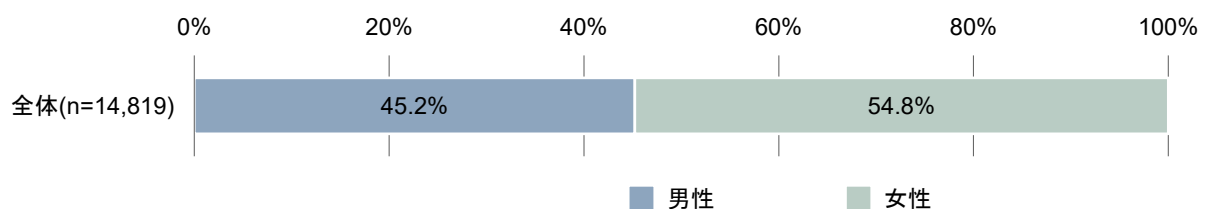


(※1) グラフ内、「シスジェンダー男性」は、Q1(調査票上では「あなたの性別をお答えください。(出生時の戸籍・出生届の性別)※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことを指します。」と記載)にて「男性」、Q2(調査票上では「あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(Q1で選択したもの)と同じだと考えていますか。」と記載)にて「出生時の性別と同じ」を選択した者を指す。グラフ内「シスジェンダー女性」は、Q1にて「女性」、Q2にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」は、Q2で「別の性別だと考えている」「違和感がある」「答えたくない」を選択した者を示す。

(2) Q1.出生届の性別

「男性」が45.2%、「女性」が54.8%となっている。

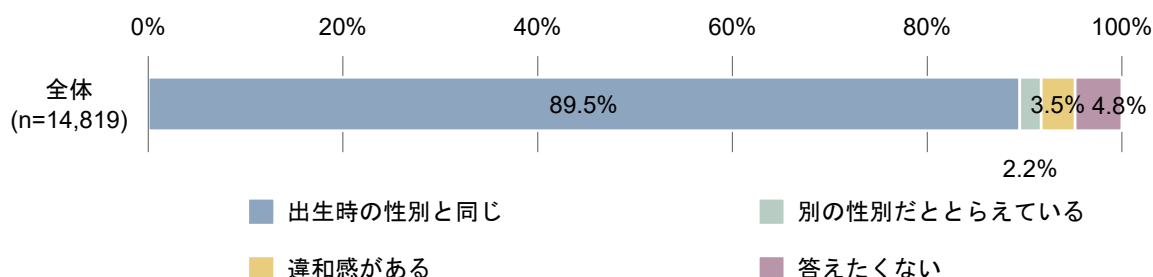
図表 2 Q1.出生届の性別:単数回答



(3) Q2.性自認

「出生時の性別と同じ」が89.5%で最も割合が高く、次いで「答えたくない」が4.8%、「違和感がある」が3.5%となっている。

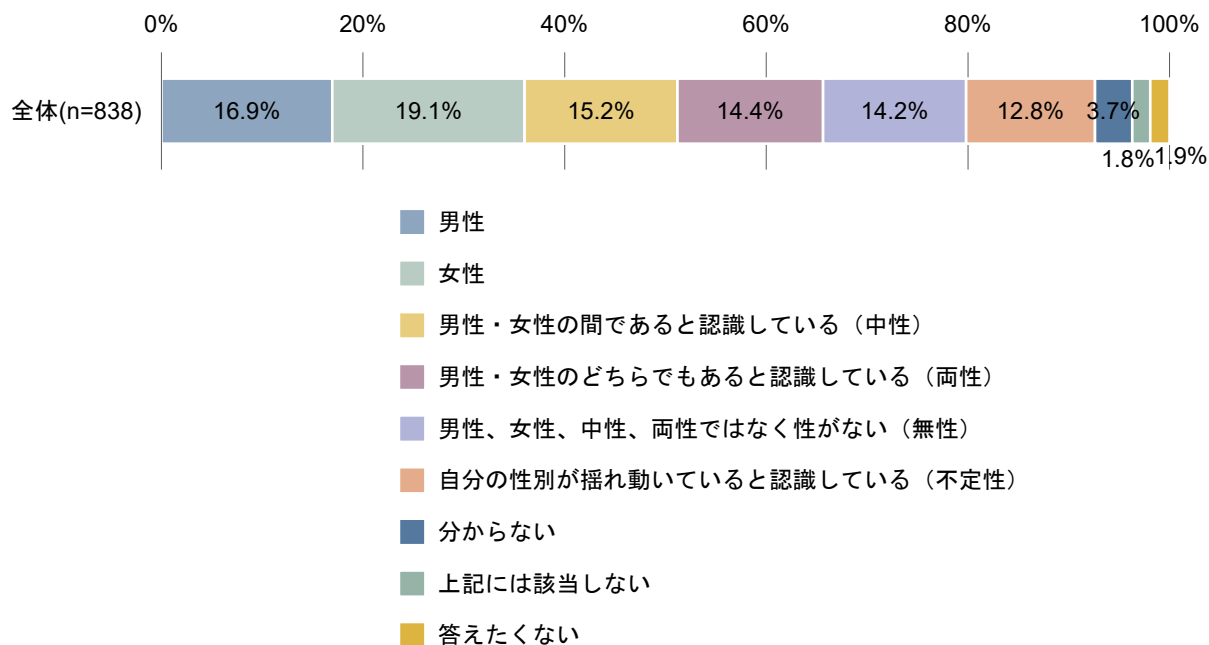
図表 3 Q2.出生届の性別に対する違和感:単数回答



(4) Q3.今の認識に最も近い性別

Q2にて「別の性別だととらえている」「違和感がある」と回答した者について、今の認識に最も近い性別を把握した。「女性」が19.1%で最も割合が高く、次いで「男性」が16.9%、「男性・女性の間であると認識している（中性）」が15.2%となっている。

図表 4 Q3.今の認識に最も近い性別:単数回答

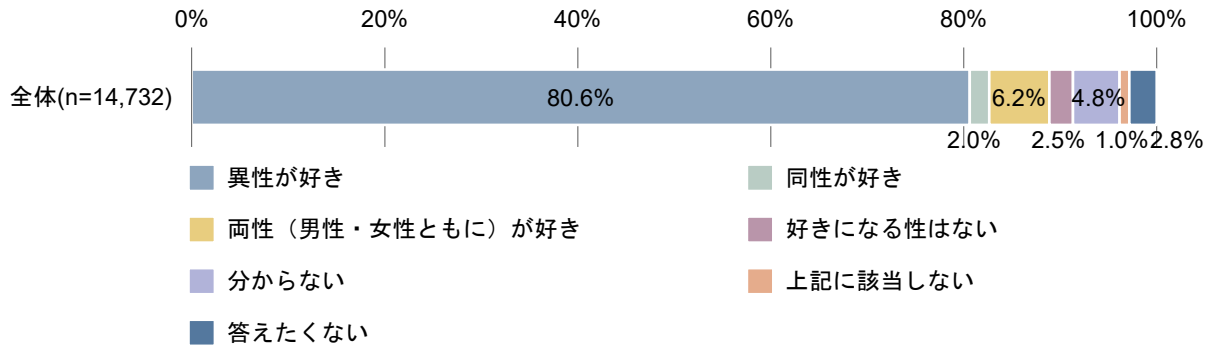


(※)本設問は、Q2にて「別の性別だととらえている」「違和感がある」と回答している者のみが対象となる設問だが、実際には、Q1の出生届上の性別と同じ性別を回答している者も含まれている。(Q1=「男性」かつQ3=「男性」は119名、Q1=「女性」かつQ3=「女性」は141名)

(5) Q4.性的指向

「異性が好き」が80.6%で最も割合が高く、次いで「両性(男性・女性ともに)が好き」が6.2%、「分からない」が4.8%となっている⁴。

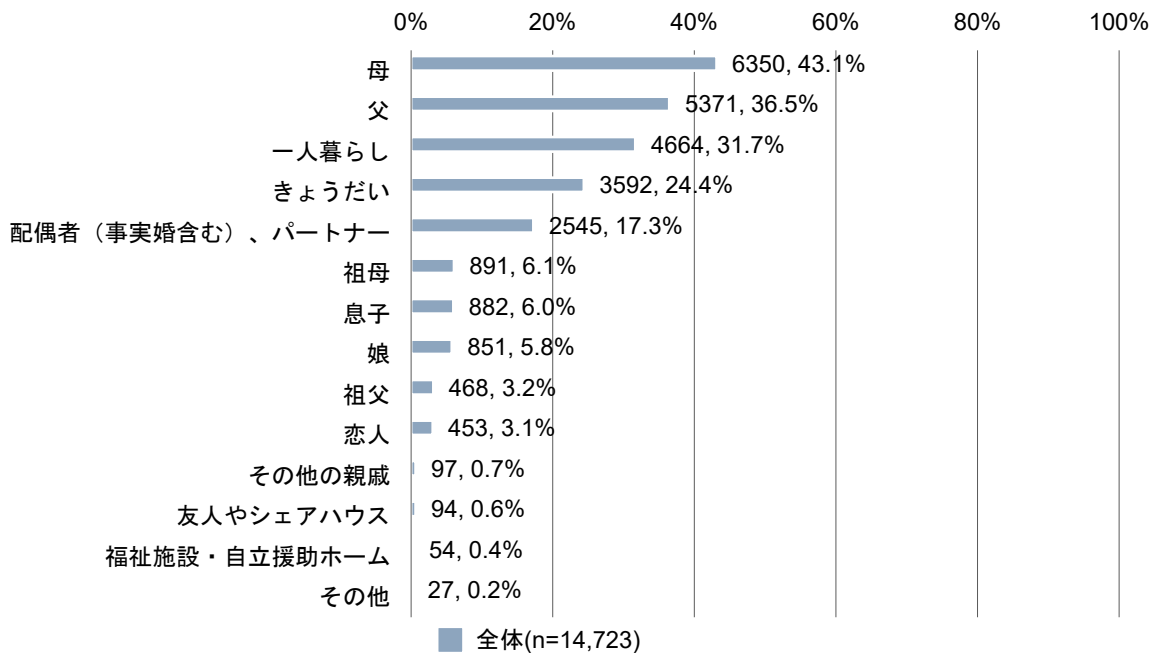
図表 5 Q4.性的指向:単数回答



(6) Q5.同居家族

「母」が43.1%で最も割合が高く、次いで「父」が36.5%、「一人暮らし」が31.7%となっている。

図表 6 Q5.同居家族:複数回答

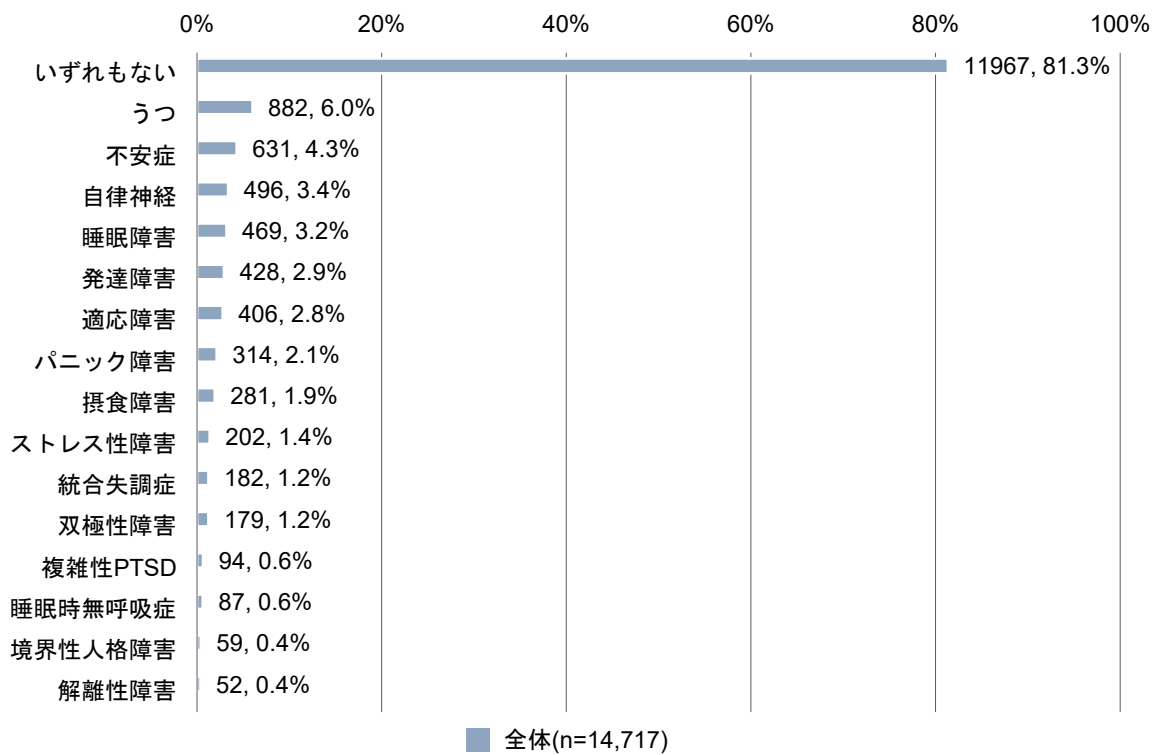


⁴ 電通ダイバーシティ・ラボ (2021) 「LGBTQ+調査 2020」 (<https://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf-cms/2021023-0408.pdf>、2023年1月12日最終確認) によるセクシュアリティの割合をみると、「異性愛」以外の性的指向に当てはまる者は全体の8.65%であった。(「ゲイ」:1.94%、「レズビアン」:1.33%、「バイセクシュアル+パンセクシュアル」2.94%、「アセクシュアル・アロマンティック」:0.81%、「性的指向のクエスチョニング」:1.63%)

(7) Q6.持病

「いずれもない」が81.3%で最も割合が高く、次いで「うつ」が6.0%、「不安症」が4.3%となっている。

図表 7 Q6.持病:複数回答

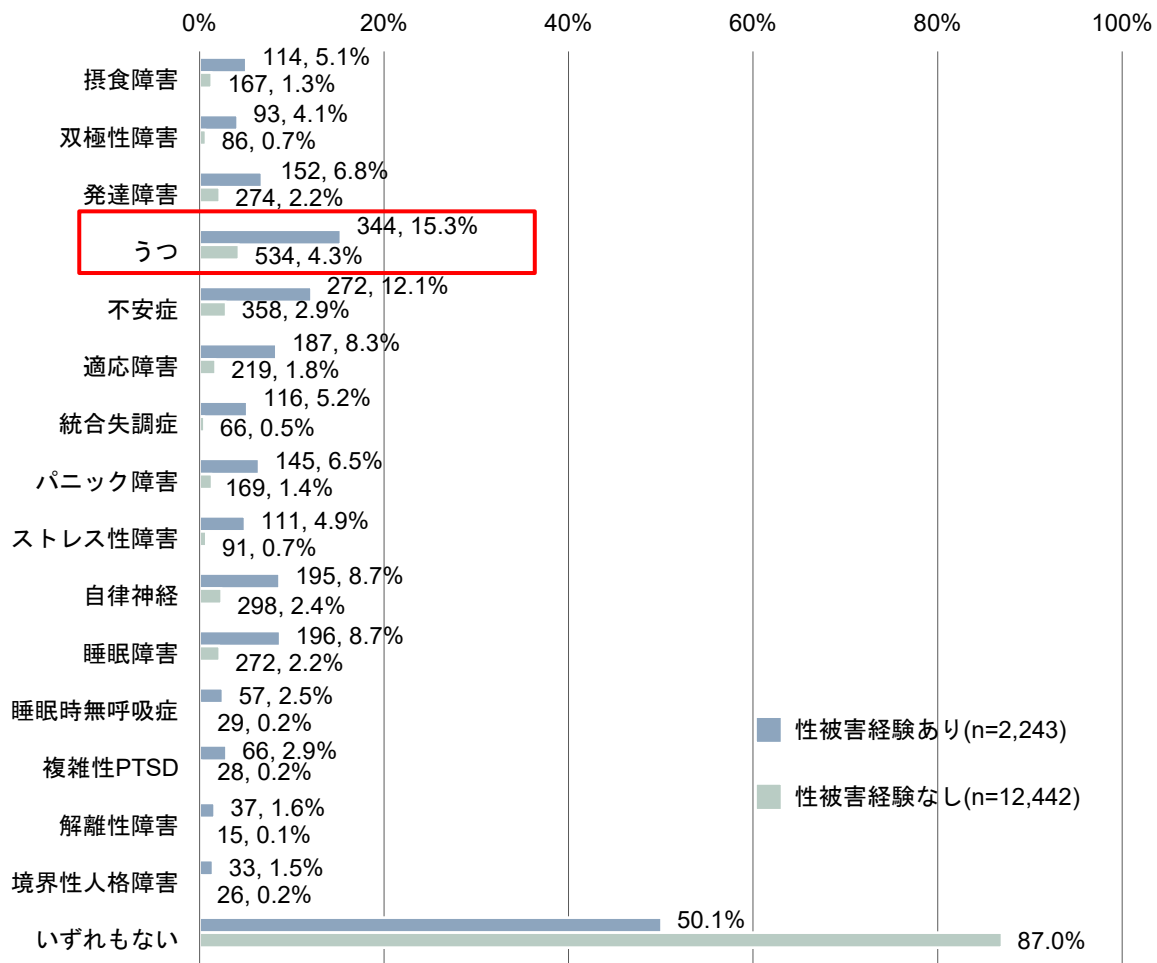


持病について、性被害経験の有無別（図表 8）、希死念慮の有無別（図表 9）、自殺未遂・自殺準備経験の有無別（図表 10）にみると、「いずれもない」を除く全ての選択肢において「性被害経験あり」「希死念慮経験あり」「自殺未遂・自殺準備経験あり」がそれぞれ「なし」を大きく上回っている。特に「うつ」についてはいずれも 10 ポイント以上差が開いている。（下図において「いずれもない」を除いて 10 ポイント以上差があるものを赤枠囲みとしている。）

なお、希死念慮や自殺未遂・自殺準備経験については、これ自体が「うつ」の診断基準にも関わるため慎重に解釈する必要がある。同様に、持病と性被害経験の関係についても、性被害経験があり持病が発症したという状況だけに限らず、持病のある人が被害に遭った等の状況も考えられるため、結果の解釈には留意が必要である。

① 性被害経験の有無別

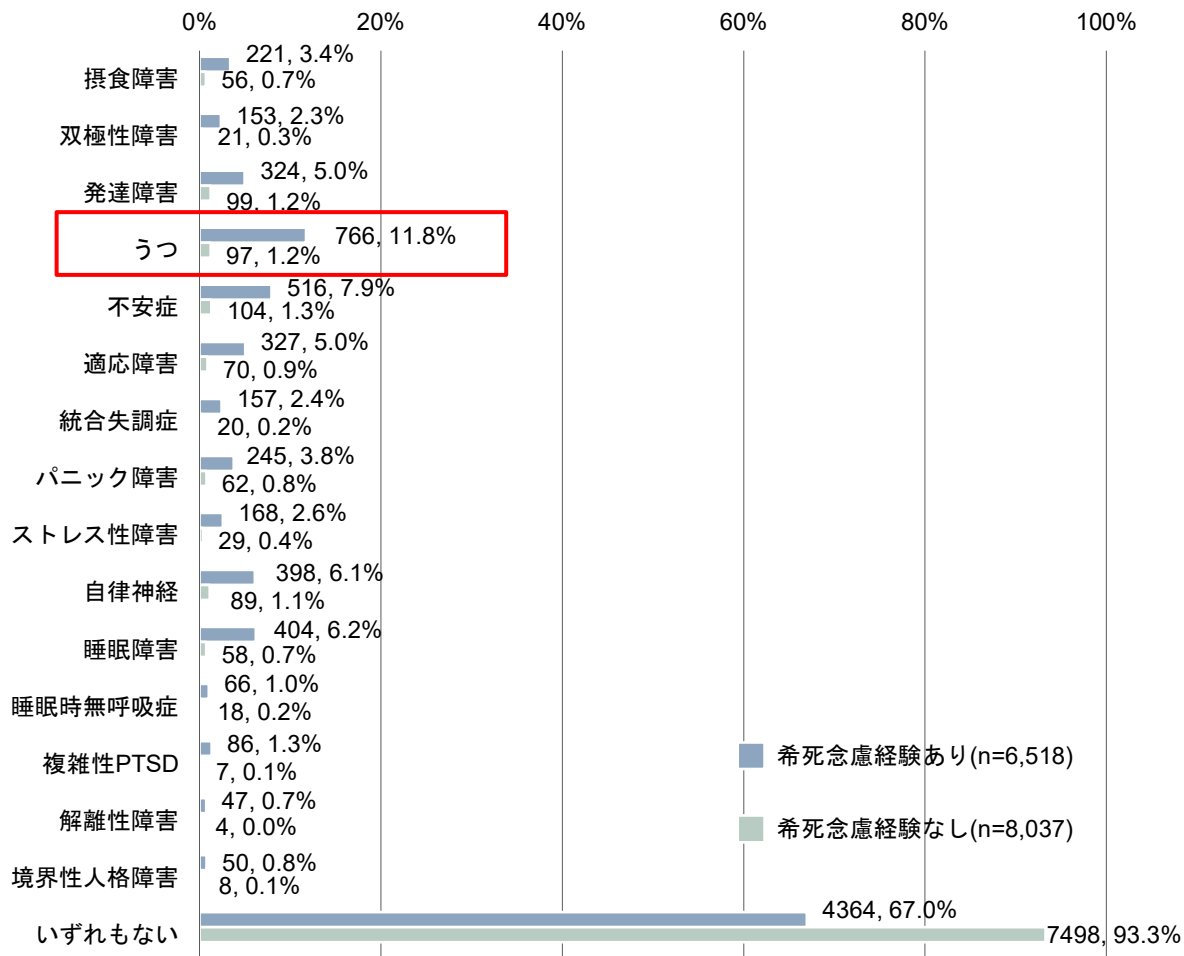
図表 8 Q6. 【性被害経験の有無別】持病:複数回答



(※)グラフ内、Q8「あなたはこれまでに次のような性被害を受けたことがありますか。」との設問に、「言葉による性暴力」「視覚による性暴力」「身体接触を伴う性暴力」「身体接触を伴わない性暴力」「性交を伴う性暴力」「情報ツール等を用いた性暴力」「その他」を選択した者を「性被害経験あり」、「いずれもない」を選択した者を「性被害経験なし」と分類している。以下、同様。

② 希死念慮の有無別

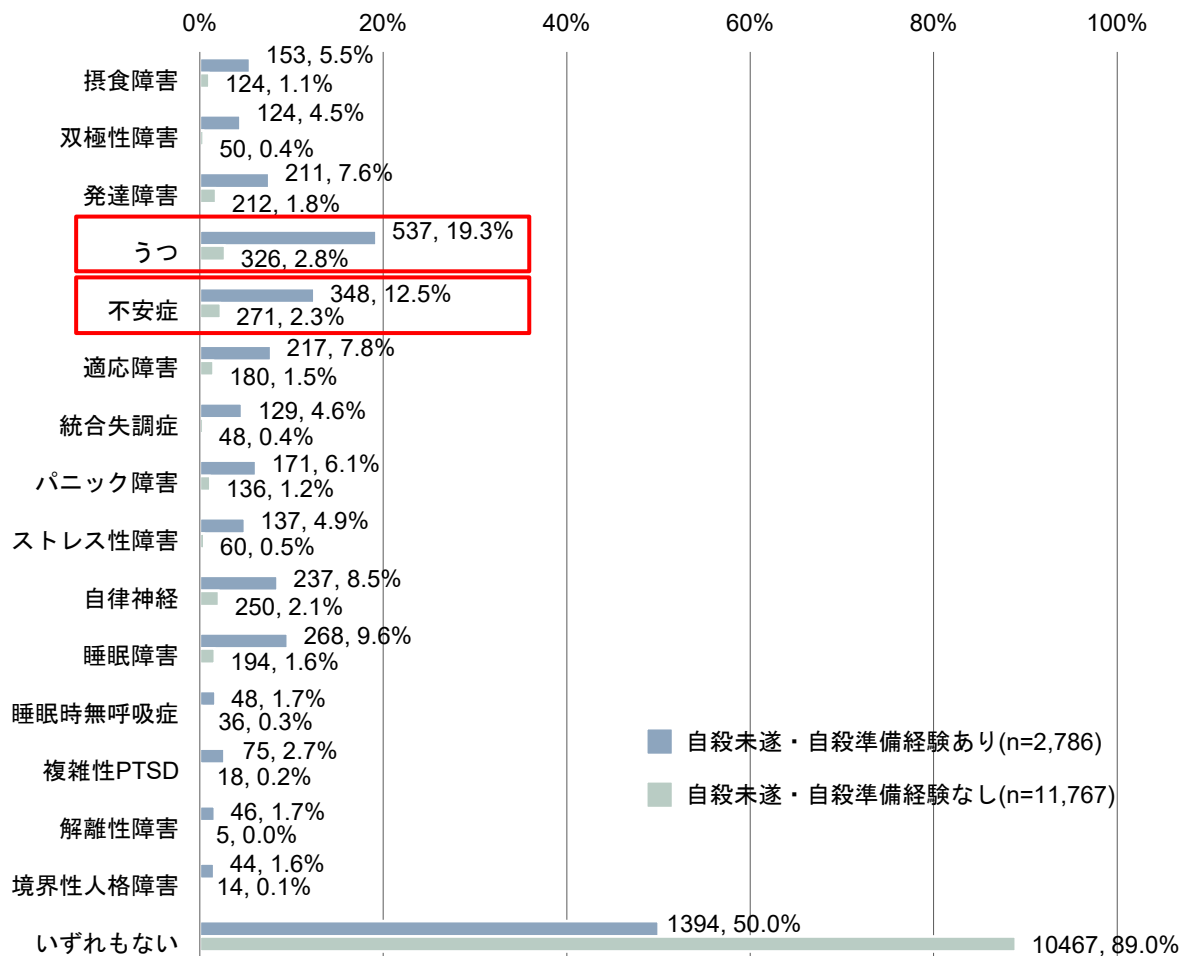
図表 9 Q6.【希死念慮の有無別】持病:複数回答



(※) グラフ内、Q25「あなたはこれまでに死ねたらと本気で思った、または自死の可能性を本気で考えたことがありますか。ある方は、そう思ったのはいつですか。」との設問に、「小学校入学前」「小学生」「中学生」「高校生(16～18歳になる年)」「大学生・専門学校生(19～22歳になる年)」「23歳以上」「時期は覚えていないが、ほとんどいつもこの状況である」「時期は覚えていないが、この状況になったことがある」を選択した者を「希死念慮経験あり」、「いずれもない」を選択した者を「希死念慮経験なし」と分類している。以下、同様。

③ 自殺未遂・自殺準備経験の有無別

図表 10 Q6.【自殺未遂・自殺準備経験の有無別】 持病:複数回答

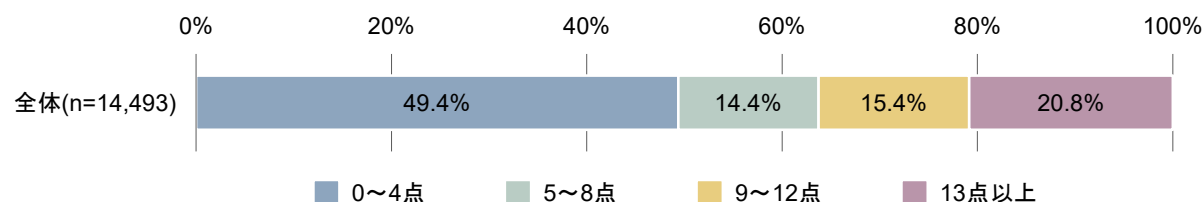


(※) グラフ内、Q26「あなたはこれまでに自殺を図った、または遺書を書くなどの自殺の準備をしたことがありますか。」との設問に、「小学校入学前」「小学生」「中学生」「高校生(16～18歳になる年)」「大学生・専門学校生(19～22歳になる年)」「23歳以上」「時期は覚えていないが、ほとんどいつもこの状況である」「時期は覚えていないが、この状況になったことがある」を選択した者を「自殺未遂・自殺準備経験あり」、「いずれもない」を選択した者を「自殺未遂・自殺準備経験なし」と分類している。以下、同様。

(8) Q29.抑うつ感や不安感の状態 (K6 得点)

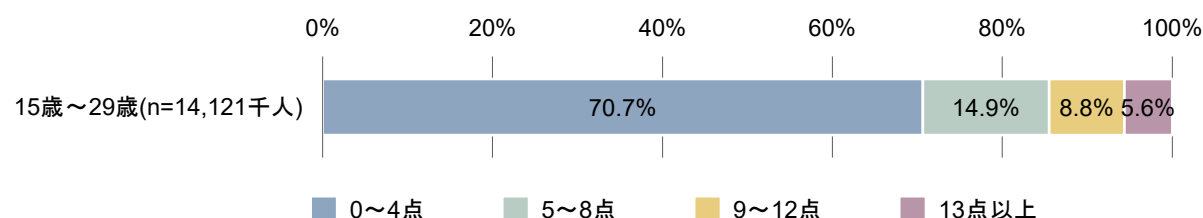
抑うつ感や不安感の状態について「K6 得点⁵⁾」を用いて測定した。全体では、「0～4点」が 49.4%で最も割合が高く、次いで「13点以上」が 20.8%、「9～12点」が 15.4%となっている。

図表 11 Q29.抑うつ感や不安感の状態 (K6 得点) :単数回答



<参考：令和元年国民生活基礎調査 K6 得点>

図表 12 令和元年国民生活基礎調査 15歳～29歳 総数:単数回答



⁵⁾ K6 はうつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的に、Kessler ら (2003) ※1 によって開発された尺度。「神経過敏に感じましたか」、「絶望的だと感じましたか」、「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」、「気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか」、「何をしても骨折れだと感じましたか」、「自分は価値がない人間だと感じましたか」の 6 つの設問について、過去 30 日間の状況を 5 段階 (「全くない」(0 点)、「少しだけ」(1 点)、「ときどき」(2 点)、「たいてい」(3 点)、「いつも」(4 点)) で点数化し、合計得点が高いほど精神的な不調が深刻な可能性があるとしてされている。なお、日本語版は Furukawa ら (2008) ※2 によって開発されている。

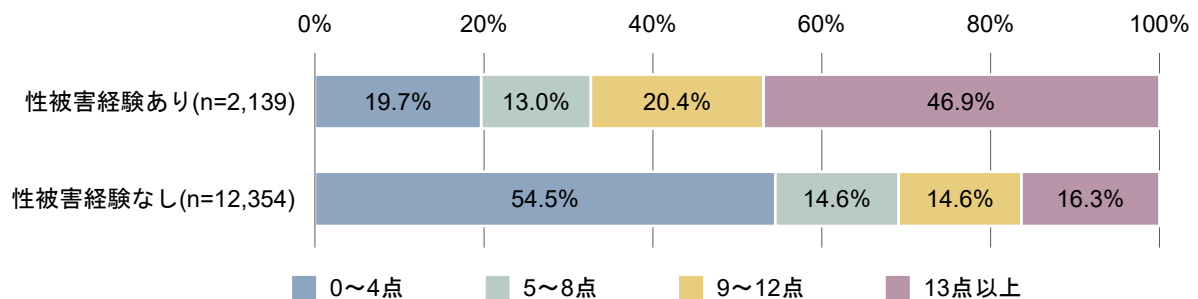
※1 : Kessler, R.C., Barker, P.R., Colpe, L.J., Epstein, J.F., Gfroerer, J.C., Hiripi, E., Howes, M.J, Normand, S-L.T., Manderscheid, R.W., Walters, E.E., Zaslavsky, A.M. (2003) Screening for serious mental illness in the general population Archives of General Psychiatry. 60(2),184-189.

※2 : Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, Ono Y, Nakane Y, Nakamura Y, Tachimori H, Iwata N, Uda H, Nakane H, Watanabe M, Naganuma Y, Hata Y, Kobayashi M, Miyake Y, Takeshima T & Kikkawa T (2008) The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. Int J Methods Psychiatr Res, 17, 152-158.

① 性被害経験の有無別

性被害の有無別にみると、13点以上の割合は、「性被害経験あり」で46.9%、「性被害経験なし」で16.3%と大きな差が見られる。

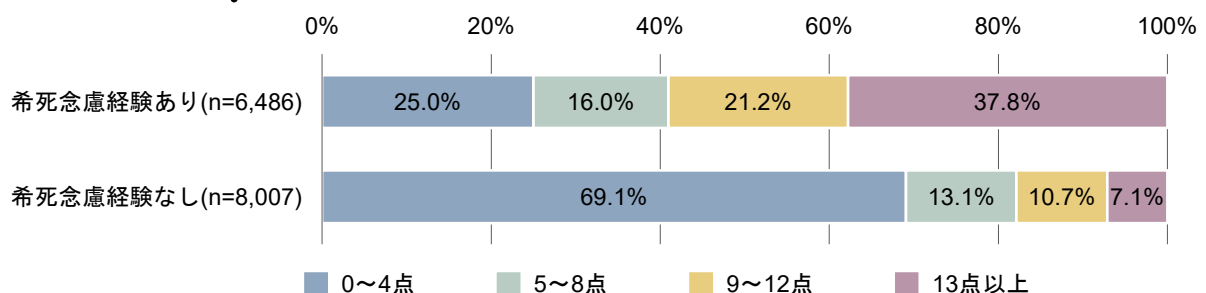
図表 13 Q29.【性被害経験の有無別】抑うつ感や不安感の状態（K6 得点）：単数回答



② 希死念慮の有無別

希死念慮の有無別にみると、13点以上の割合は、「希死念慮経験あり」で37.8%、「希死念慮経験なし」で7.1%と大きな差が見られる。

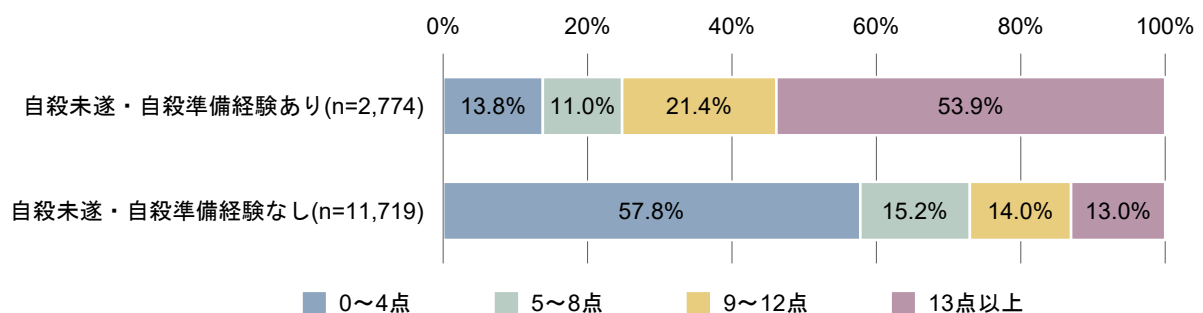
図表 14 Q29.【希死念慮の有無別】抑うつ感や不安感の状態（K6 得点）：単数回答



③ 自殺未遂・自殺準備経験の有無別

自殺未遂・自殺準備経験の有無別にみると、13点以上の割合は、「自殺未遂・自殺準備経験あり」で53.9%、「自殺未遂・自殺準備経験なし」で13.0%と大きな差が見られる。

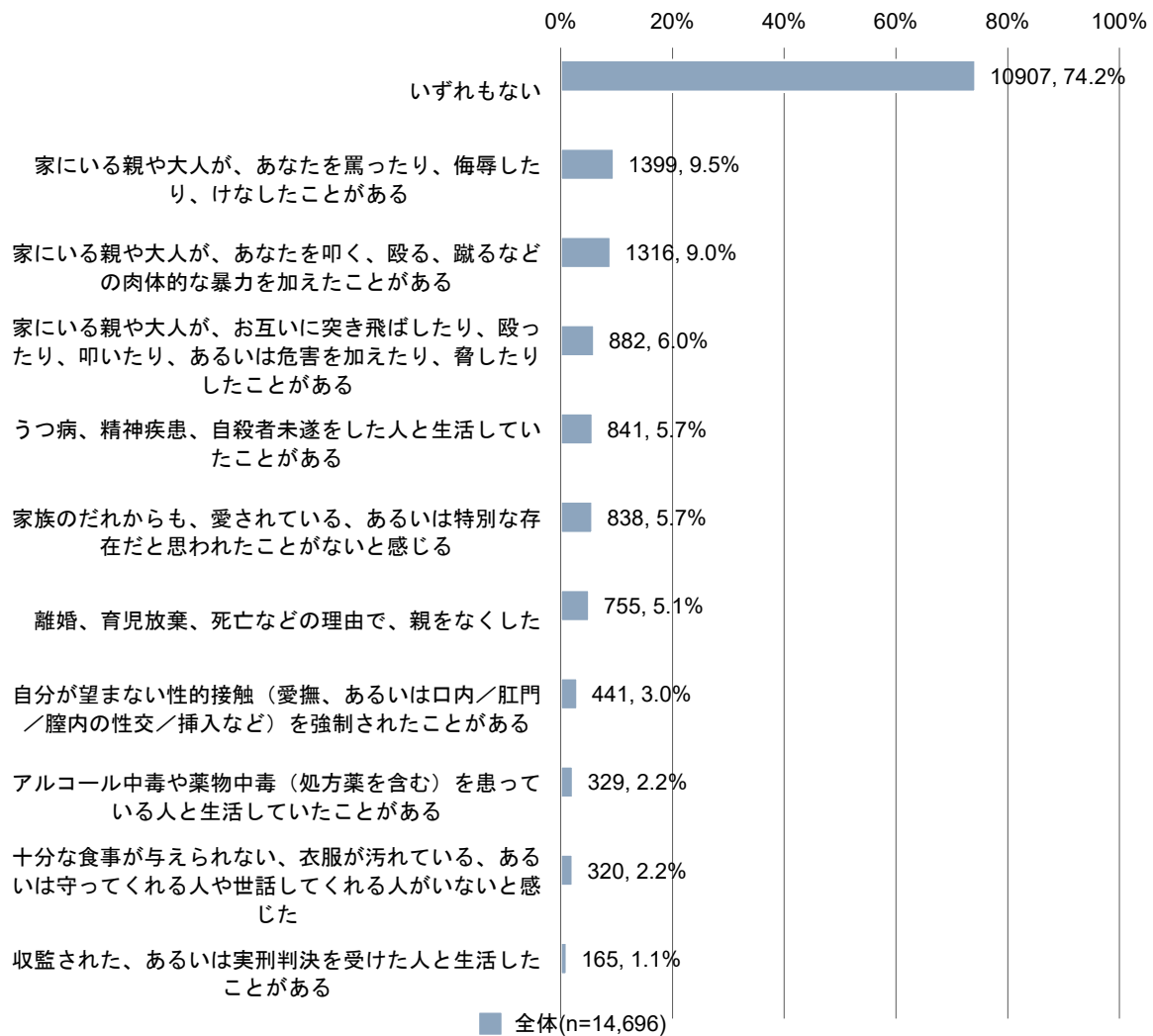
図表 15 Q29.【自殺未遂・自殺準備経験の有無別】抑うつ感や不安感の状態（K6 得点）：単数回答



(9) Q7. 逆境的小児期体験 (Adverse Childhood Experience : ACE) ⁶

「いずれもない」が74.2%で最も割合が高く、次いで「家にいる親や大人が、あなたを罵ったり、侮辱したり、けなしたことがある」が9.5%、「家にいる親や大人が、あなたを叩く、殴る、蹴るなどの肉体的な暴力を加えたことがある」が9.0%となっている。

図表 16 Q7. 逆境的小児期体験 (Adverse Childhood Experience : ACE) : 複数回答

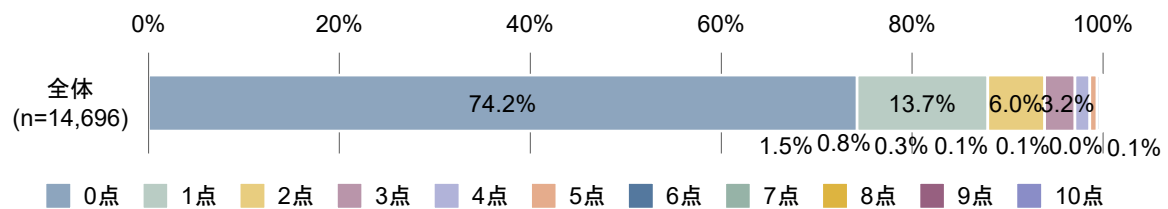


⁶ 18歳未満で遭遇するさまざまな虐待被害や家族機能不全等の困難な体験を指し、成人期以降の心身の健康に影響を及ぼすとされている。

(10) Q7.ACE スコア

「0点」が74.2%で最も割合が高く、次いで「1点」が13.7%、「2点」が6.0%、「3点」が3.2%となっている⁷。なお、4点以上となった割合の合計は、2.9%となっている。

図表 17 Q7.ACE スコア



(※)複数回答である(9)について、選択した数を1点換算し得点化した。

図表 18 Q7.ACE スコア (集計表)

	Q7. ACEスコア											
	全体	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
n	14696	10907	2014	876	468	226	113	44	21	15	4	8
%	100.0	74.2	13.7	6.0	3.2	1.5	0.8	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1

⁷ Fujiwara ら (2011) ※1によると、対象となった1,722人のうち32%が1つ以上の逆境的小児期体験を経験している。

※1: Fujiwara T, Kawakami N, World Mental Health Japan Survey Group (2011) "Association of childhood adversities with the first onset of mental disorders in Japan: Results from the World Mental Health Japan, 2002–2004", Journal of Psychiatric Research, 45(4)

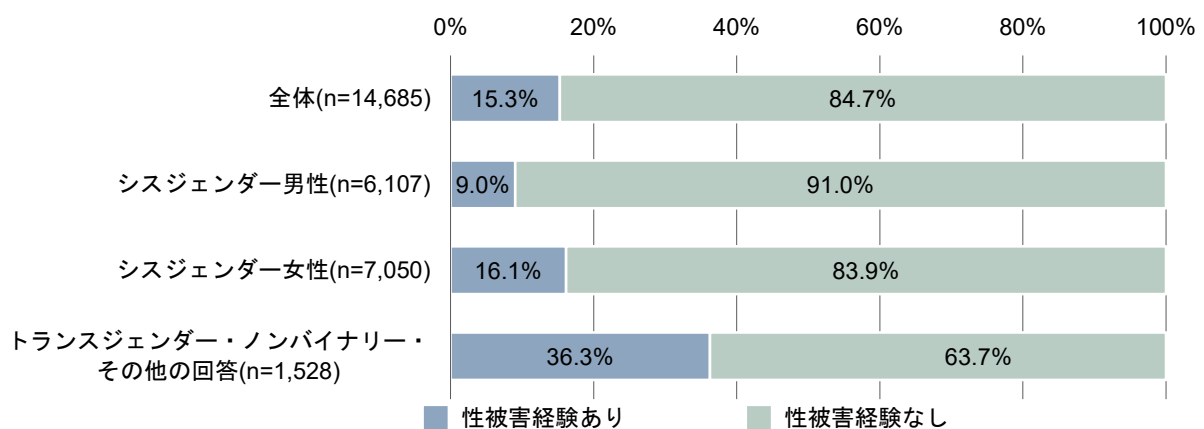
2. これまでの性被害経験

(1) Q8.性被害経験の有無

① 全体・性自認別

全体では、「性被害経験あり」が15.3%となっている。Q1の出生届の性別及びQ2の性自認をシスジェンダー男性、シスジェンダー女性、トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答に区分したうえで、3区分別にみると、「シスジェンダー男性」では9.0%、「シスジェンダー女性」では16.1%、「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」では36.3%となっており、「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」と「シスジェンダー男性」では4倍近く差が開いている。

図表 19 Q8.【性自認別】性被害経験の有無



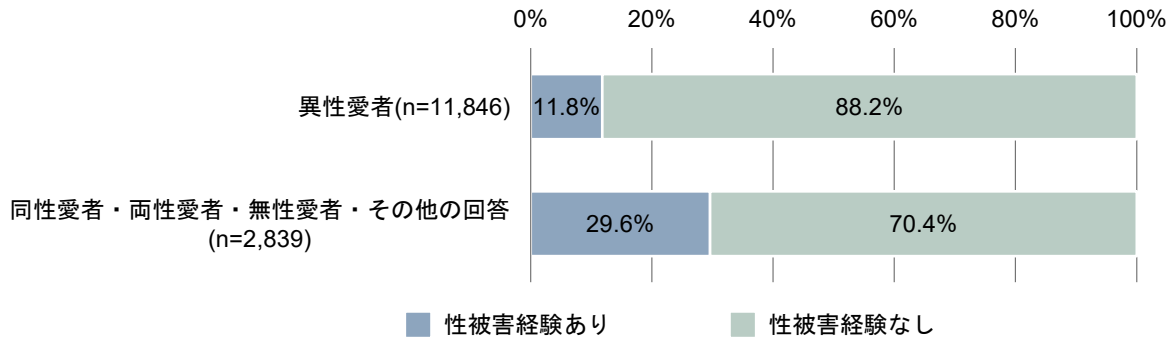
(※1)「あなたはこれまでに次のような性被害を受けたことがありますか。」との設問に、「言葉による性暴力」「視覚による性暴力」「身体接触を伴う性暴力」「身体接触を伴わない性暴力」「性交を伴う性暴力」「情報ツール等を用いた性暴力」「その他」を選択した者を「性被害経験あり」、「いずれもない」を選択した者を「性被害経験なし」と分類している。

(※2)グラフ内、「シスジェンダー男性」は Q1(調査票上「あなたの性別をお答えください。(出生時の戸籍・出生届の性別)」にて「男性」、Q2(調査票上「あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(Q1 で選択したもの)と同じだととらえていますか。))にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、「シスジェンダー女性」は Q1にて「女性」、Q2にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」は Q2 で「別の性別だととらえている」「違和感がある」「答えたくない」を選択した者を示す。

② 性的指向別

性的指向別にみると、「性被害経験あり」は「異性愛者」で 11.8%、「同性愛者・両性愛者・無性愛者・その他の回答」で 29.6%となっている。両者では 17.7 ポイントの差が生じている。

図表 20 Q8.【性的指向別】性被害経験の有無



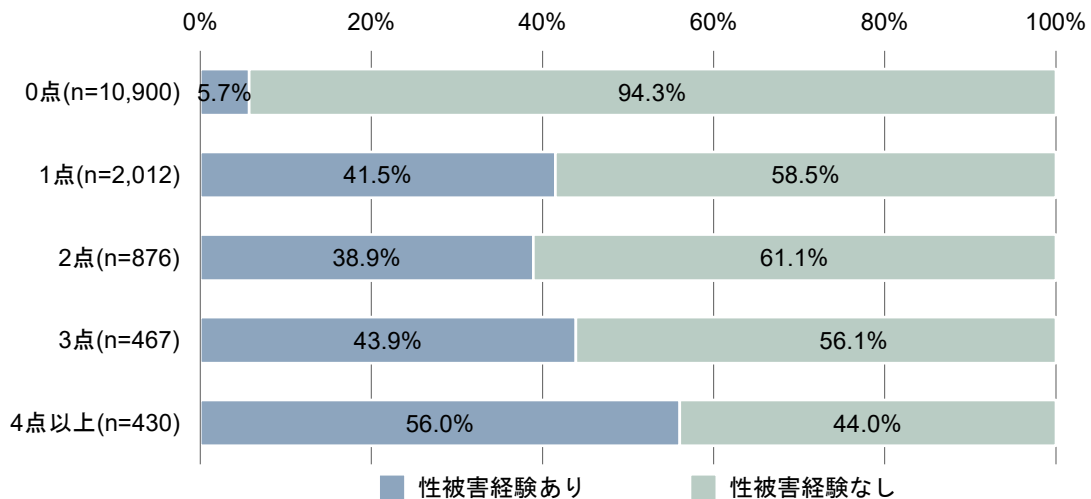
(※)グラフ内、「異性愛者」は Q4(調査票上「あなたの今の状況にもっとも近いものをお答えください」にて「異性が好き」を選択した者、「同性愛者・両性愛者・無性愛者・その他の回答」は Q4にて「同性が好き」「両性(男性・女性ともに)が好き」「好きになる性はない」「分からない」「上記に該当しない」「答えたくない」を選択した者を示す。

(※)グラフ内の数字は少数点第二位を四捨五入しているため、実際の割合の差とグラフ上に表示されている割合の差が一致しないことがある。以下、同様。

③ ACE スコア別

ACE スコア別にみると、「性被害経験あり」は、「0点」で 5.7%、「1点」で 41.5%、「2点」で 38.9%、「3点」で 43.9%、「4点以上」で 56.0%となっている。「0点」と「4点以上」は、50.3 ポイントの差が生じている。

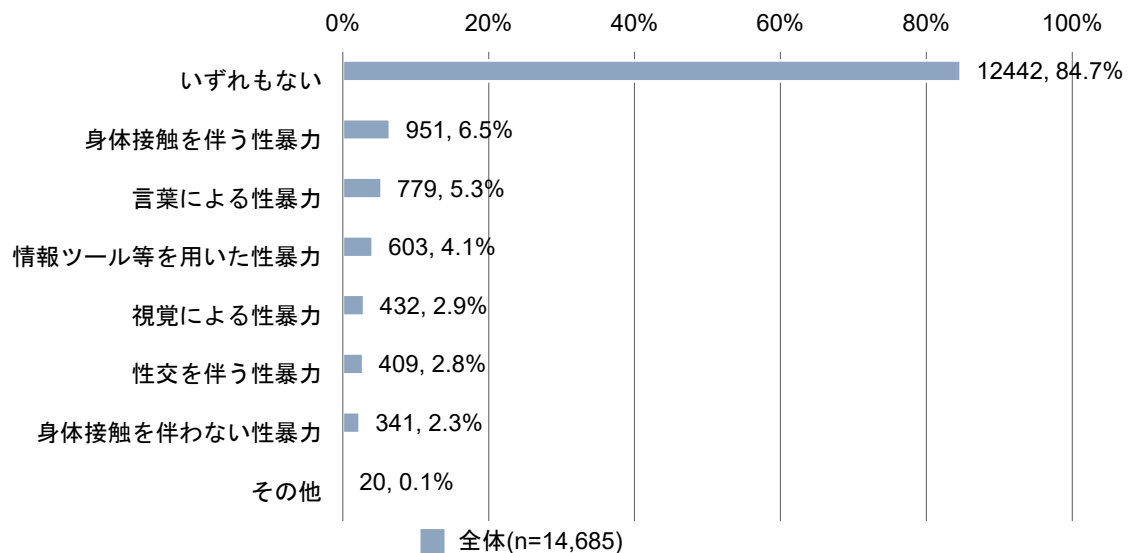
図表 21 Q8.【ACE スコア別】性被害経験の有無



(2) Q8.これまでの性被害の内容

性被害経験の内容をみると、「いずれもない」の他、「身体接触を伴う性暴力」が6.5%で最も割合が高く、次いで「言葉による性暴力」が5.3%となっている。全体から「いずれもない」を除くと、15.3%が何らかの性被害にあっている。

図表 22 Q8.これまでの性被害経験:複数回答

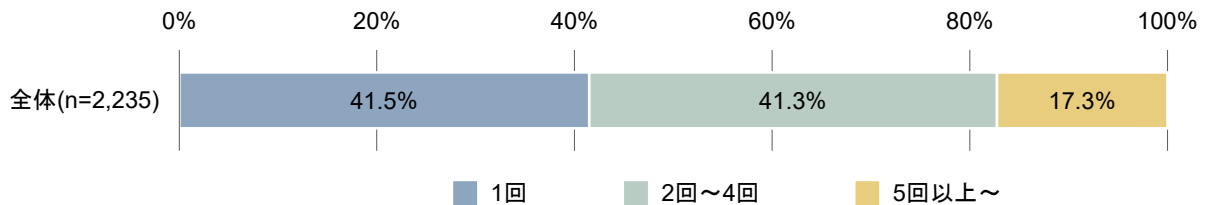


(※)調査票上では、「身体接触を伴う性暴力(体を触られた、抱きつかれた、キスをされた、相手の体を触らせられた、服を脱がされた・脱がさせられた、性器を押し付けられた、体液をかけられた 等)」、「言葉による性暴力(言葉で性的な嫌がらせを受けた、体の特徴についてからかわれた、いやらしいことを言われた 等)」、「情報ツール等を用いた性暴力(インターネット・携帯電話・スマホなどで性的に嫌な経験をした、見たくない画像や動画・本を見させられた、下着や裸を撮影された、下着姿や裸の写真を送るよう強要された、なりすました相手から性的な嫌がらせを受けた 等)」、「視覚による性暴力(相手の裸や性器、胸などを見せられた、性行為を見せられた 等)」、「性交を伴う性暴力(相手の身体の一部や異物を無理やり膣や口、肛門に挿入された／させられた、避妊なしに性交させられた 等)」、「身体接触を伴わない性暴力(着替えや入浴を覗く 等)」と記載した。以下、同様。

(3) Q9.これまでに経験した被害の総回数

「1回」が41.5%で最も割合が高い。次いで「2回～4回」が41.3%、「5回以上～」が17.3%となっており、これまで複数回被害を経験している者が約6割となっている。

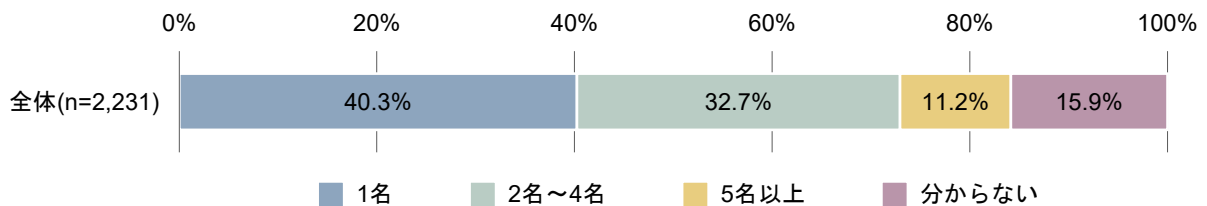
図表 23 Q9.これまでに経験した被害の総回数:単数回答



(4) Q10.これまでに経験した被害の総加害者数

「1名」が40.3%で最も割合が高く、次いで「2名～4名」が32.7%、「分からない」が15.9%となっている。

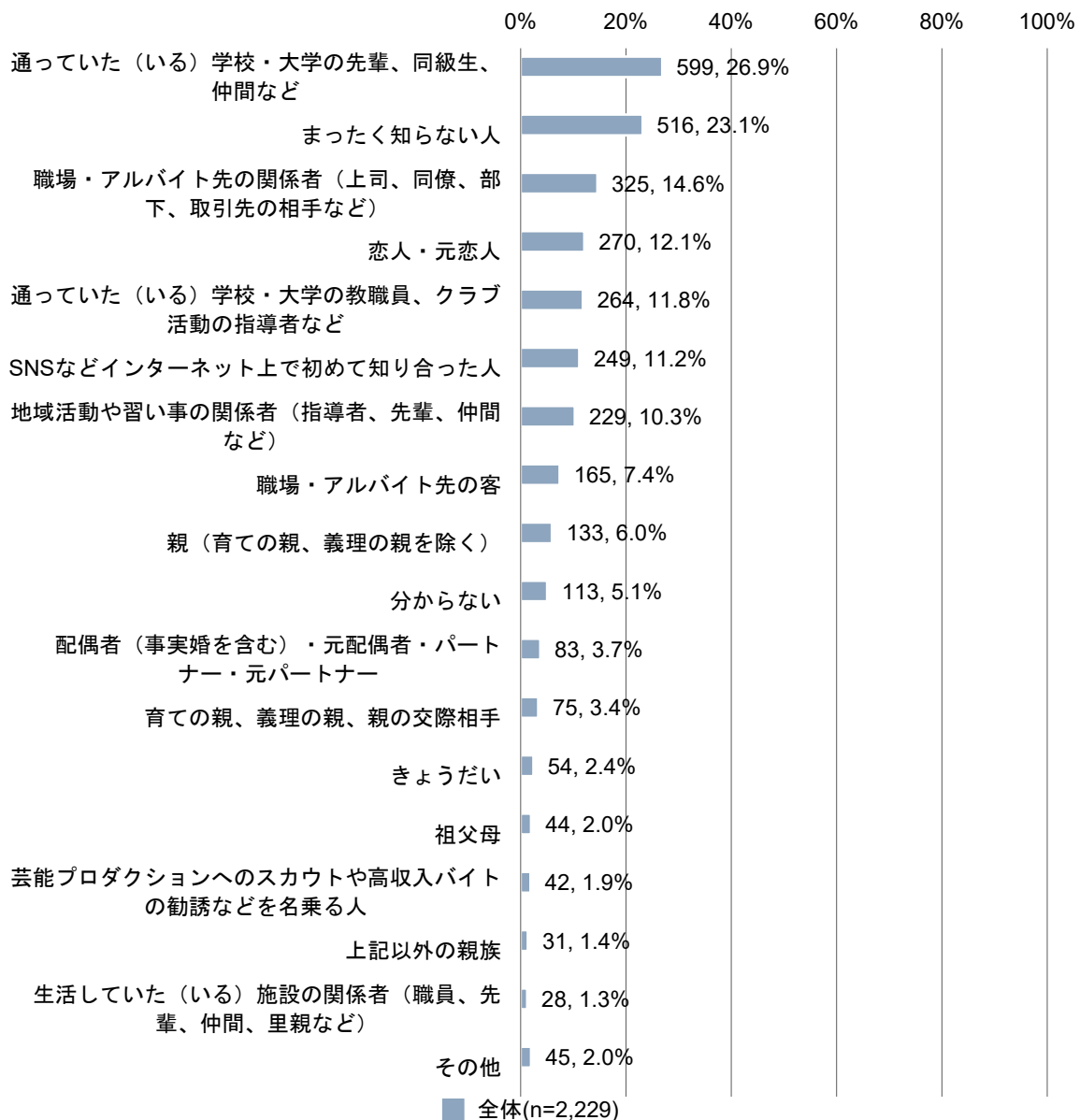
図表 24 Q10.これまでに経験した被害の総加害者数:単数回答



(5) Q11.これまでに経験した被害の加害者との関係性

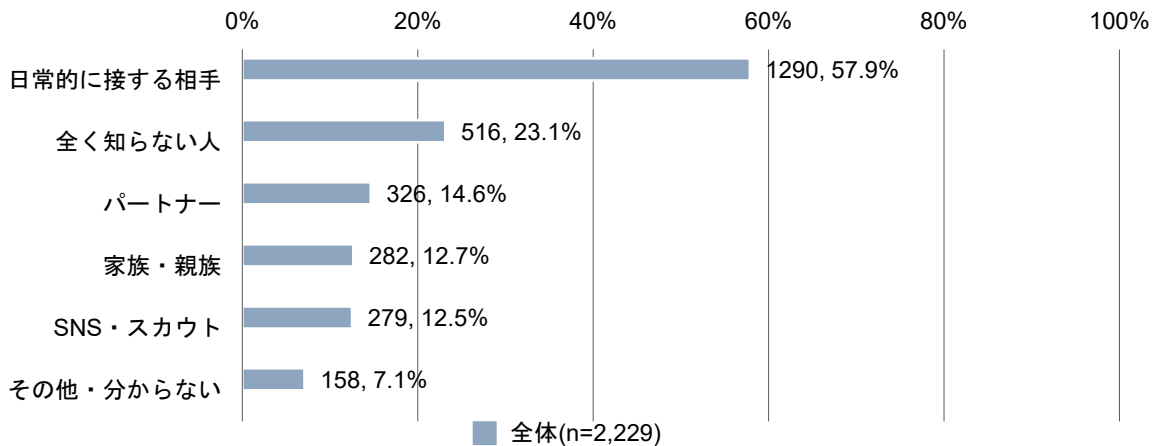
「通っていた（いる）学校・大学の先輩、同級生、仲間など」が26.9%で最も割合が高く、次いで「まったく知らない人」が23.1%、「職場・アルバイト先の関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手など）」が14.6%となっている。

図表 25 Q11.これまでに経験した被害の加害者との関係性:複数回答



図表 25 の選択肢を「日常的に接する相手」「全く知らない人」「パートナー」「家族・親族」「SNS・スカウト」「その他・分からない」に分類・集計したところ、「日常的に接する相手」が 57.9%と最も割合が高く、次いで「全く知らない人」が 23.1%、「パートナー」が 14.6%となっている⁸。

図表 26 Q11.これまでに経験した被害の加害者との関係性 (6 カテゴリ) :複数回答

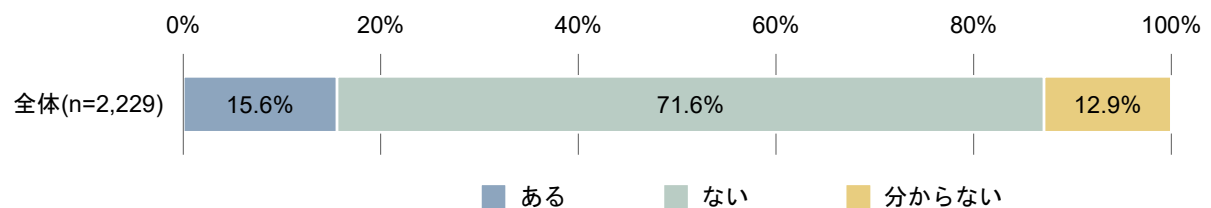


(※)グラフ内、「日常的に接する相手」は、調査票上では「通っていた(いる)学校・大学の教職員、クラブ活動の指導者など」、「通っていた(いる)学校・大学の先輩、同級生、仲間など」、「地域活動や習い事の関係者(指導者、先輩、仲間など)」、「職場・アルバイト先の関係者(上司、同僚、部下、取引先の相手など)」、「職場・アルバイト先の客」、「生活していた(いる)施設の関係者(職員、先輩、仲間、里親など)」を指す。「全く知らない人」は調査票上の「まったく知らない人」を指す。「パートナー」は調査票上の「恋人・元恋人」、「配偶者(事実婚を含む)・元配偶者・パートナー・元パートナー」を指す。「家族・親族」は調査票上の「親(育ての親、義理の親を除く)」、「育ての親、義理の親、親の交際相手」、「祖父母」、「きょうだい」、「上記以外の親族」を指す。「SNS・スカウト」は、調査票上の「SNS などインターネット上で初めて知り合った人」、「芸能プロダクションへのスカウトや高収入バイトの勧誘などを名乗る人」を指す。「その他・分からない」は、調査票上の「その他」、「分からない」を指す。以下、同様。

(6) Q12.2 人以上の加害者から被害を受けた経験の有無

これまでの性被害のケースのうち、2人以上の加害者から被害を受けた経験が「ある」と回答したのは全体の 15.6%であった。

図表 27 Q12.2 人以上の加害者から被害を受けた経験の有無:単数回答

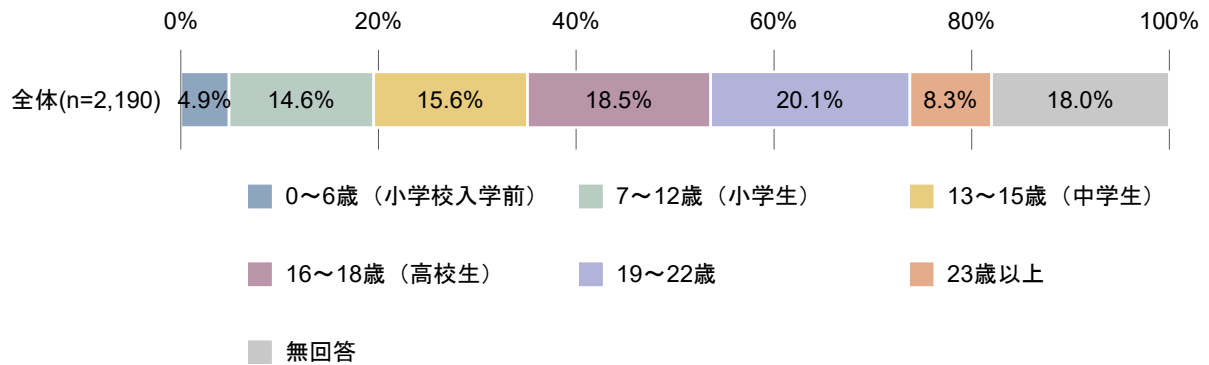


⁸ これまでに経験した被害の加害者との関係性が「家族・親族」または「パートナー」である割合は、これまでに性被害経験のない回答者 (Q8にて「いずれもない」を回答した 12,442名) を含む全体の 3.8%となっている。ただし、Q8からQ11までに途中離脱者が 14名おり、この 14名の加害者との関係性は分からないため、全体における正確な割合は不明である。

(7) Q13.最初に性被害を受けた年齢

「19～22歳」が20.1%で最も割合が高く、次いで「16～18歳（高校生）」が18.5%、「13～15歳（中学生）」が15.6%となっている。また、小学校入学前の「0～6歳」で被害を受けた回答者も約5%いる。

図表 28 Q13.最初に性被害を受けた年齢:数値回答

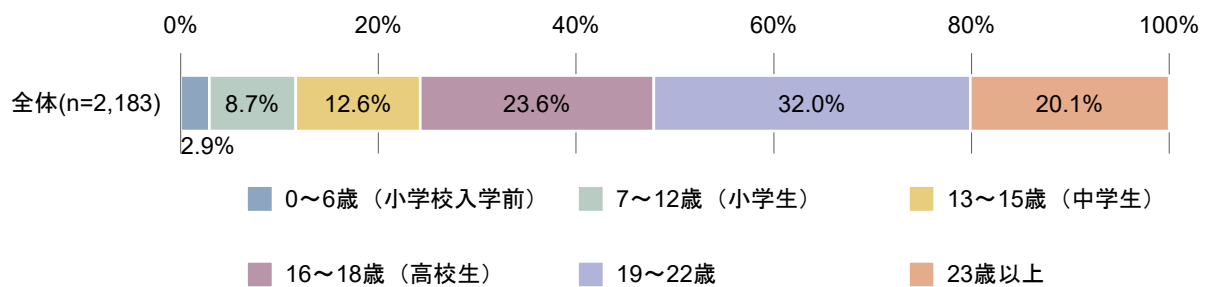


(※)Q13 は任意回答としたため、無回答が[※]18.0%となっている。以下、同様。

(8) Q14.直近で性被害を受けた年齢

「19～22歳」が32.0%で最も割合が高く、次いで「16～18歳（高校生）」が23.6%、「23歳以上」が20.1%となっている。

図表 29 Q14.直近で性被害を受けた年齢:数値回答



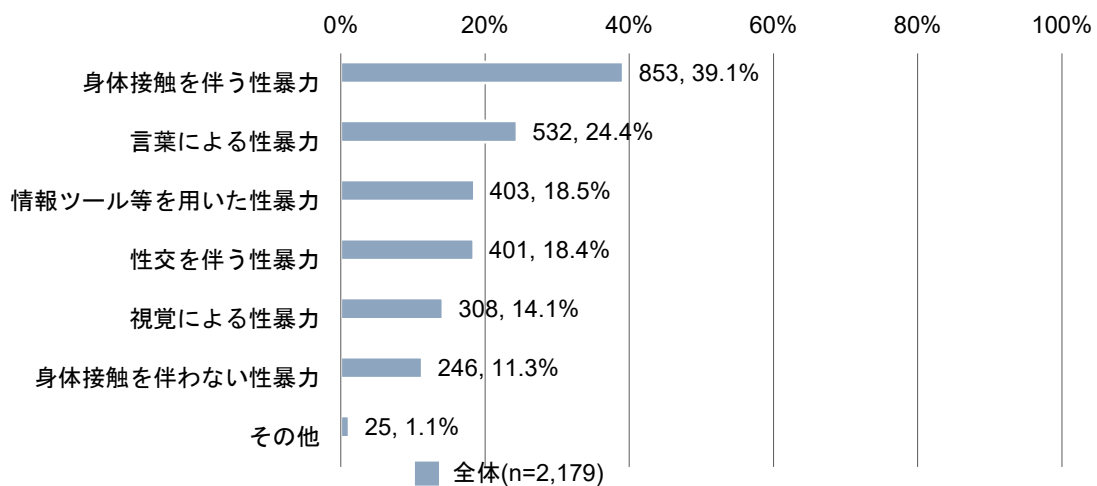
3. 最も深刻な性被害

図表 30～図表 62 では、回答者自身が「これまで受けた性被害の中で最も深刻だったもの」と判断した被害について結果を掲載している。

(1) Q15.最も深刻な性被害の内容

「身体接触を伴う性暴力」が 39.1%で最も割合が高く、次いで「言葉による性暴力」が 24.4%、「情報ツール等を用いた性暴力」が 18.5%となっている。

図表 30 Q15.最も深刻な性被害の内容:複数回答

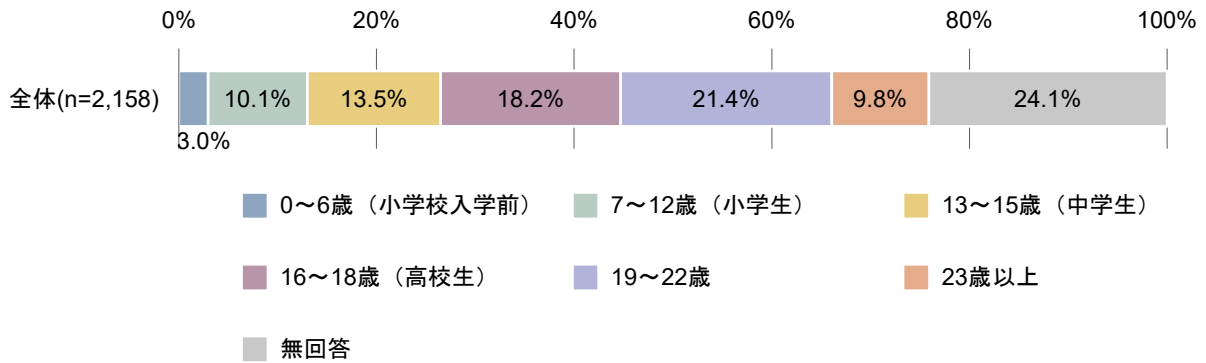


(※)調査票上では、「身体接触を伴う性暴力(体を触られた、抱きつかれた、キスをされた、相手の体を触らせられた、服を脱がされた・脱がさせられた、性器を押し付けられた、体液をかけられた 等)」、「言葉による性暴力(言葉で性的な嫌がらせを受けた、体の特徴についてからかわれた、いやらしいことを言われた 等)」、「情報ツール等を用いた性暴力(インターネット・携帯電話・スマホなどで性的に嫌な経験をした、見たくない画像や動画・本を見させられた、下着や裸を撮影された、下着姿や裸の写真を送るよう強要された、なりすました相手から性的な嫌がらせを受けた 等)」、「視覚による性暴力(相手の裸や性器、胸などを見せられた、性行為を見せられた 等)」、「性交を伴う性暴力(相手の身体の一部や異物を無理やり膣や口、肛門に挿入された／させられた、避妊なしに性交させられた 等)」、「身体接触を伴わない性暴力(着替えや入浴を覗く 等)」と記載した。以下、同様。

(2) Q16.最も深刻な性被害が始まったときの年齢

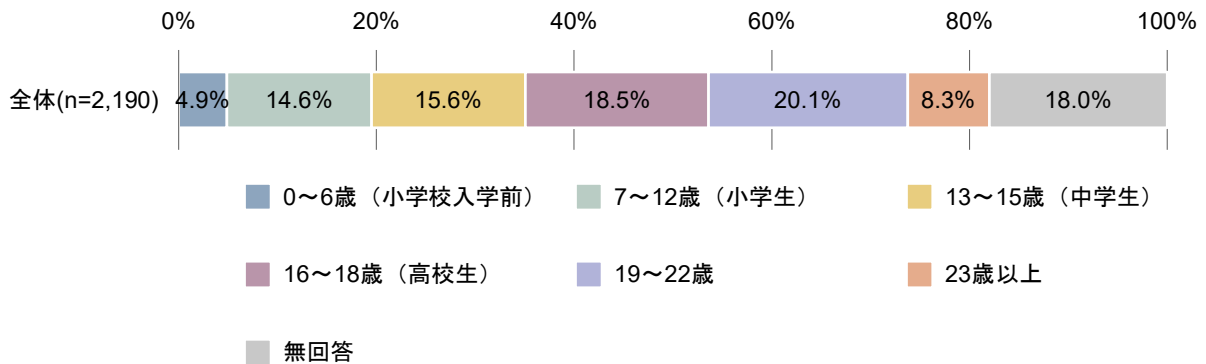
無回答を除くと、「19～22歳」が21.4%で最も割合が高く、次いで「16～18歳（高校生）」が18.2%、「13～15歳（中学生）」が13.5%となっている。なお、Q13の「最初に性被害を受けた年齢」と比べると、12歳以下が6.5ポイント下がっていることが分かる。

図表 31 Q16.最も深刻な性被害が始まったときの年齢:数値回答



(※)Q16 は任意回答としたため、無回答が24.1%となっている。以下、同様。

図表 32 【再掲】Q13.最初に性被害を受けた年齢:数値回答



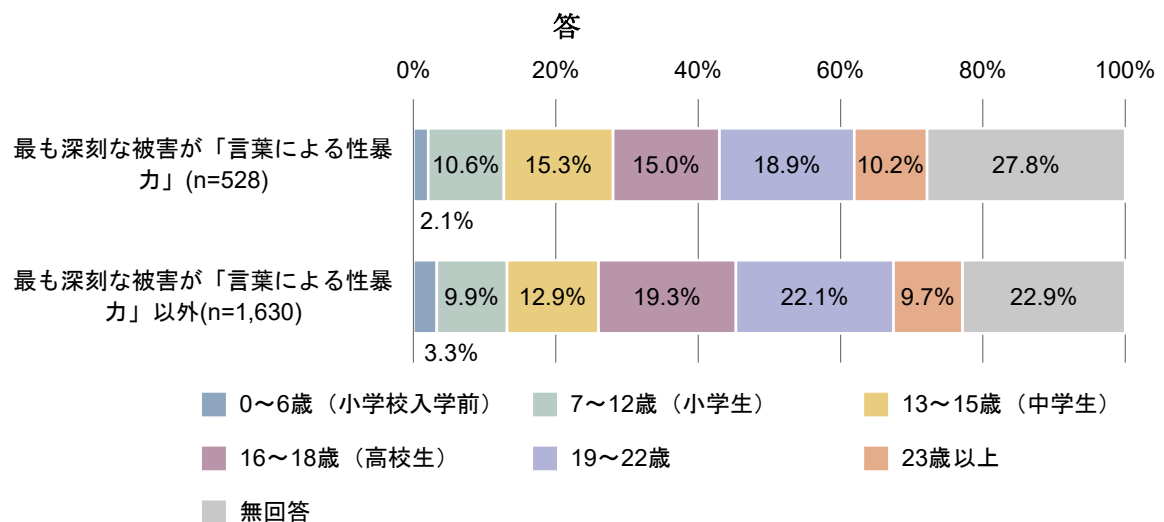
① 最も深刻な性被害の内容別

最も深刻な性被害が始まったときの年齢について、その内容（Q15）別に把握した。（図表 33～図表 38）

<言葉による性暴力の経験>

「最も深刻な被害が『言葉による性暴力』」の場合、「19～22歳」が18.9%で最も割合が高く、次いで「13～15歳（中学生）」が15.3%となっている。

図表 33 Q16.【言葉による性暴力の経験別】最も深刻な性被害が始まったときの年齢:数値回答

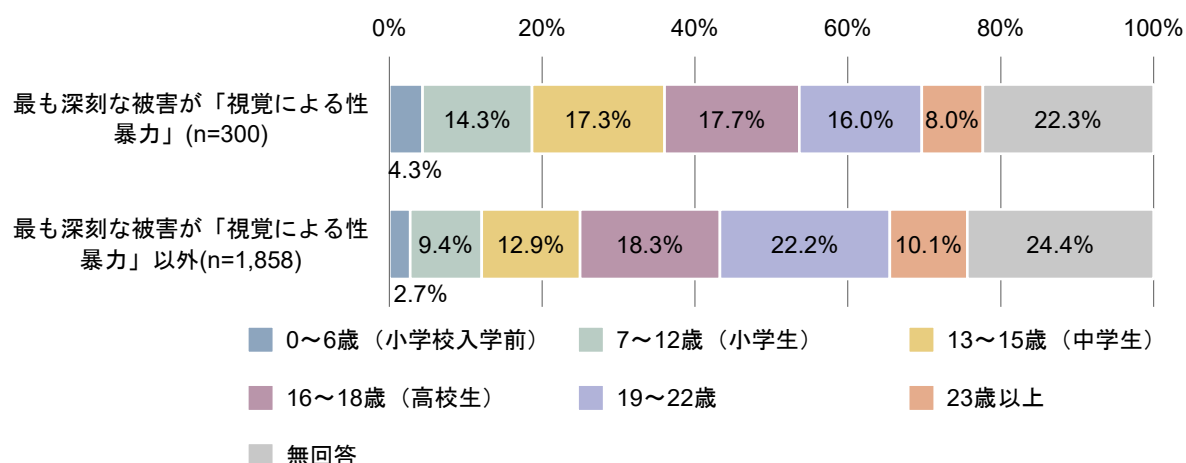


(※)「最も深刻な被害が『言葉による性暴力』」は、Q15にて「言葉による性暴力」を回答した場合を指す。「最も深刻な被害が『言葉による性暴力』以外」は、Q8にていずれかの性暴力経験がある者のうち、Q15にて最も深刻な性被害の内容が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

<視覚による暴力>

「最も深刻な被害が『視覚による性暴力』」では、「16～18歳（高校生）」が17.7%で最も割合が高く、次いで「13～15歳（中学生）」が17.3%、「7～12歳（小学生）」が14.3%となっている。「13～15歳（中学生）」と「7～12歳（小学生）」について、「最も深刻な被害が『視覚による性暴力』以外」と比べると、4ポイント以上高い。

図表 34 Q16.【視覚による暴力の経験別】最も深刻な性被害が始まったときの年齢・数値回答

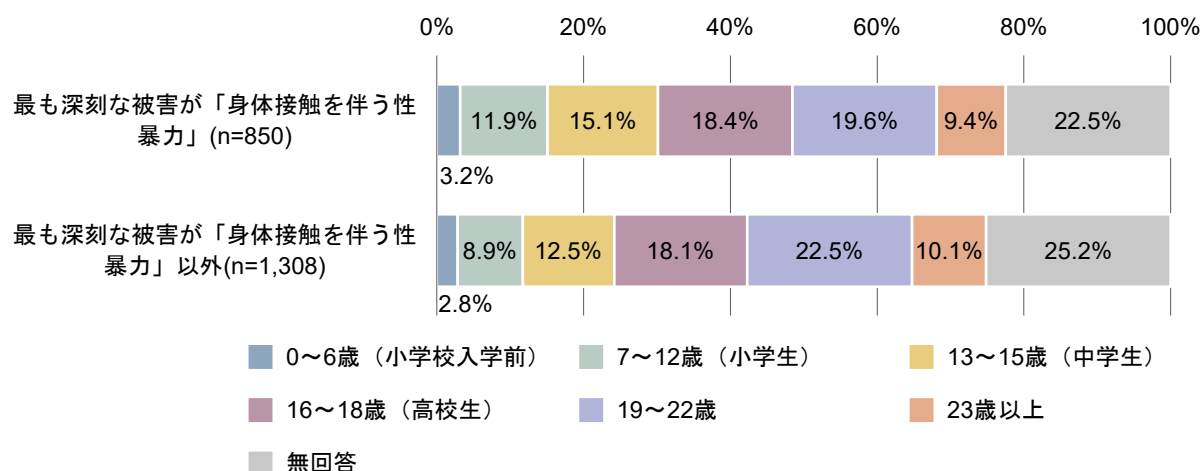


(※)「最も深刻な被害が『視覚による性暴力』」は、Q15にて「視覚による性暴力」を回答した場合を指す。「最も深刻な被害が『視覚による性暴力』以外」は、Q8にていずれかの性暴力経験がある者のうち、Q15にて最も深刻な性被害の内容が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

<身体接触を伴う性暴力>

「最も深刻な被害が『身体接触を伴う性暴力』」では、「19～22歳」が19.6%で最も割合が高く、次いで「16～18歳（高校生）」が18.4%となっている。

図表 35 Q16.【身体接触を伴う性暴力の経験別】最も深刻な性被害が始まったときの年齢・数値回答

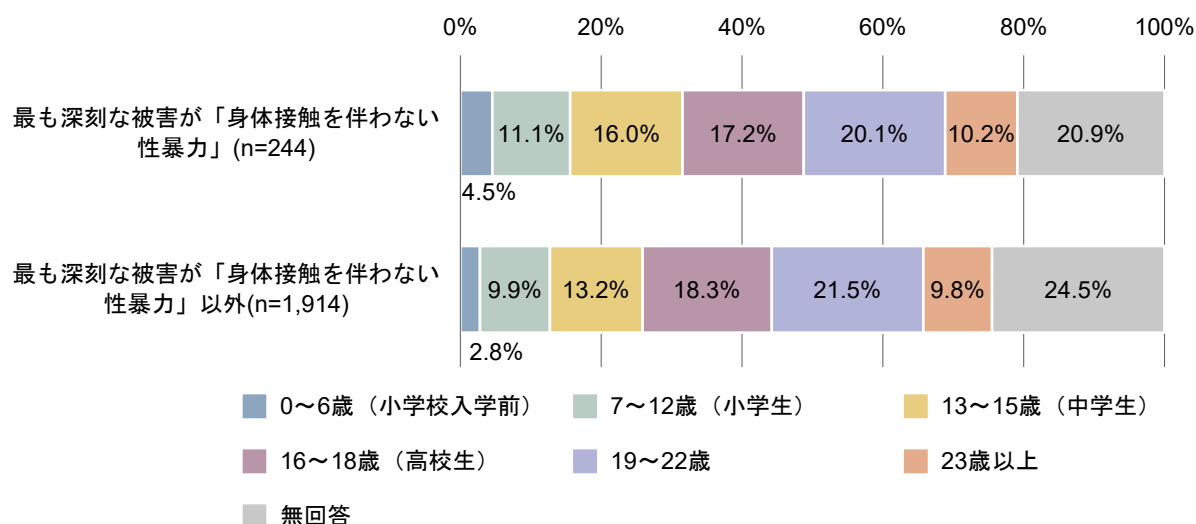


(※)「最も深刻な被害が『身体接触を伴う性暴力』」は、Q15にて「身体接触を伴う性暴力」を回答した場合を指す。「最も深刻な被害が『身体接触を伴う性暴力』以外」は、Q8にていずれかの性暴力経験がある者のうち、Q15にて最も深刻な性被害の内容が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

<身体接触を伴わない性暴力>

「最も深刻な被害が『身体接触を伴わない性暴力』」では、「19～22歳」が20.1%で最も割合が高く、次いで「16～18歳（高校生）」が17.2%となっている。

図表 36 Q16.【身体接触を伴わない性暴力の経験別】最も深刻な性被害が始まったときの年齢:数値回答

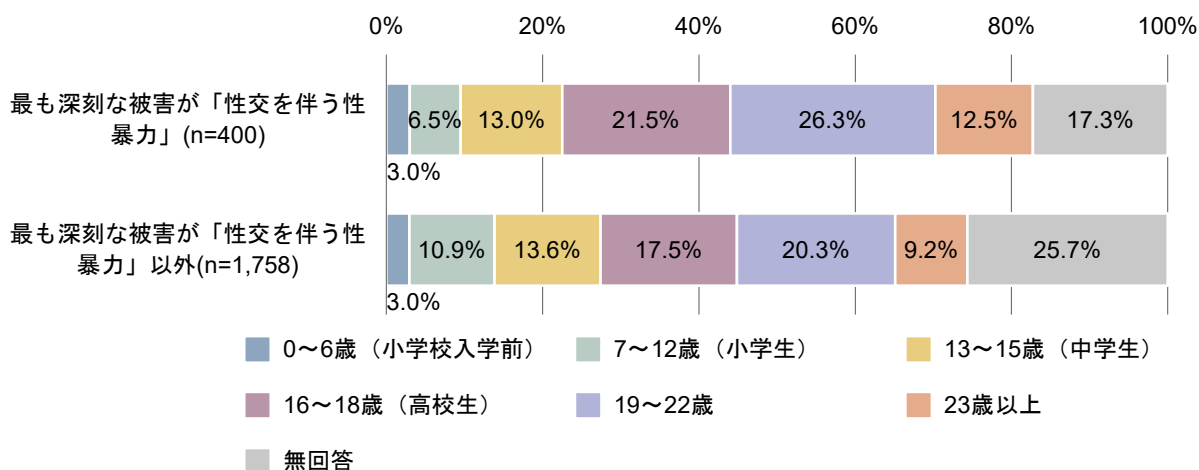


(※)「最も深刻な被害が『身体接触を伴わない性暴力』」は、Q15にて「身体接触を伴わない性暴力」を回答した場合を指す。「最も深刻な被害が『身体接触を伴わない性暴力』以外」は、Q8にていずれかの性暴力経験がある者のうち、Q15にて最も深刻な性被害の内容が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

<性交を伴う性暴力>

「最も深刻な被害が『性交を伴う性暴力』」では、「19～22歳」が26.3%で最も割合が高く、次いで「16～18歳（高校生）」が21.5%となっている。「最も深刻な被害が『性交を伴う性暴力』以外」と比べると、「19～22歳」で6ポイント、「16～18歳（高校生）」で4ポイント高い。

図表 37 Q16.【性交を伴う性暴力の経験別】最も深刻な性被害が始まったときの年齢:数値回答



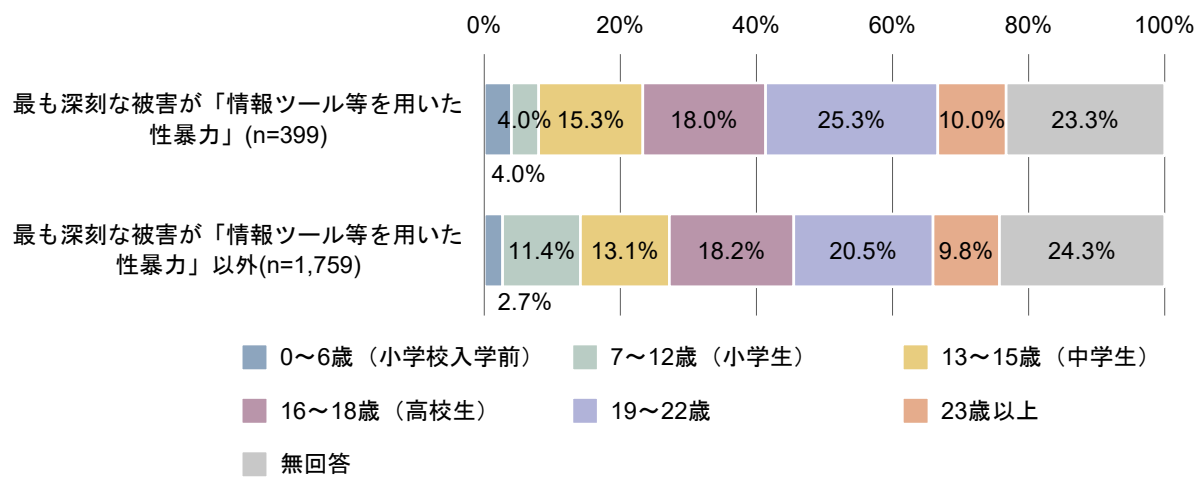
(※)「最も深刻な被害が『性交を伴う性暴力』」は、Q15にて「性交を伴う性暴力」を回答した場合を指す。「最も深刻な被害が『性交を伴う性暴力』以外」は、Q8にていずれかの性暴力経験がある者のうち、Q15にて最も深刻な性被害の内容が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

害が『性交を伴う性暴力』以外』は、Q8 にていずれかの性暴力経験がある者のうち、Q15 にて最も深刻な性被害の内容が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

<情報ツール等を用いた性暴力>

「最も深刻な被害が『情報ツール等を用いた性暴力』」では、「19～22歳」が25.3%で最も割合が高く、「16～18歳（高校生）」が18.0%となっている。

図表 38 Q16.【情報ツール等を用いた性暴力の経験別】最も深刻な性被害が始まったときの年齢・数値回答

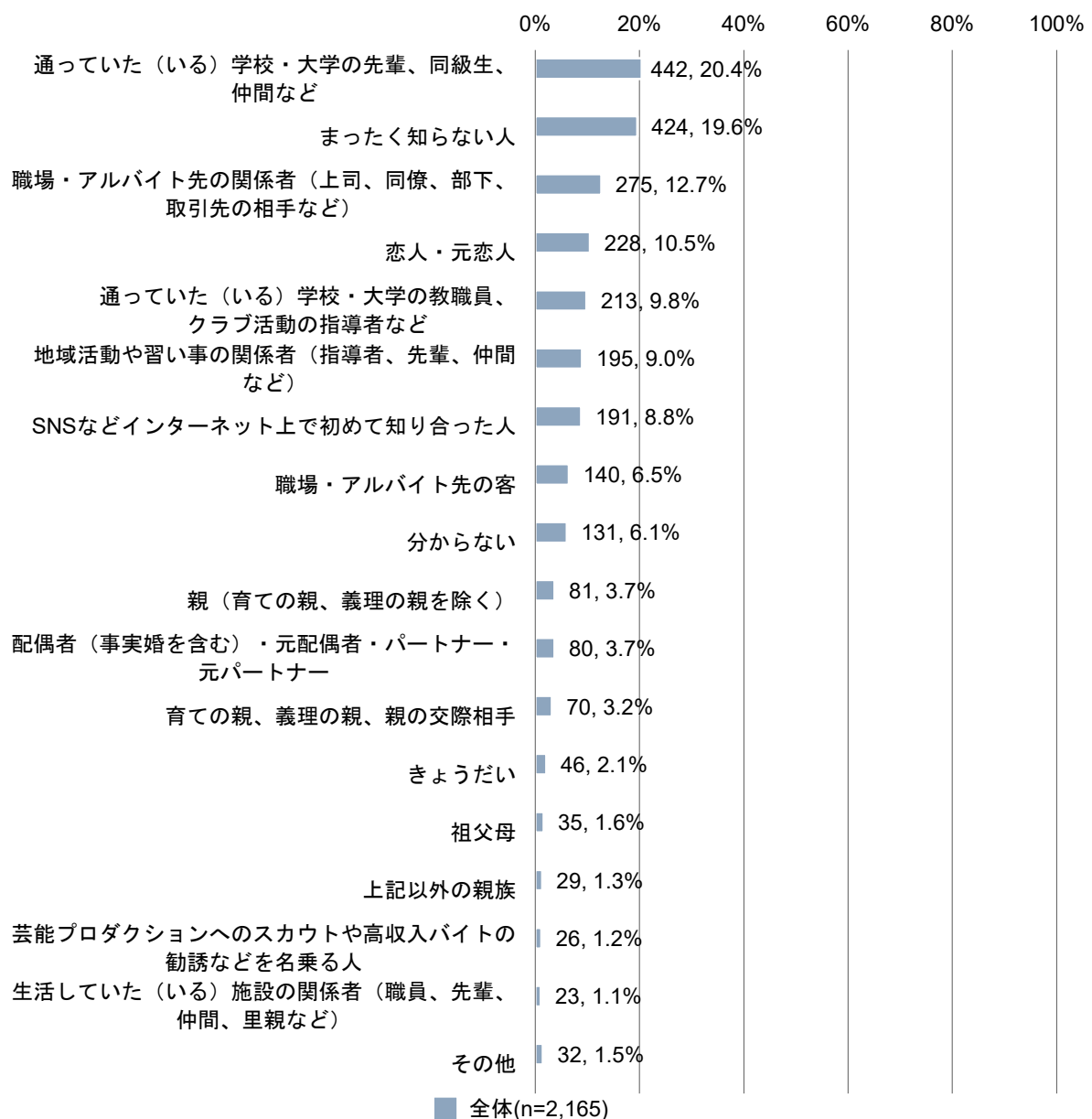


(※)「最も深刻な被害が『情報ツール等を用いた性暴力』」は、Q15 にて「情報ツール等を用いた性暴力」を回答した場合を指す。最も深刻な被害が『情報ツール等を用いた性暴力』以外』は、Q8 にていずれかの性暴力経験がある者のうち、Q15 にて最も深刻な性被害の内容が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

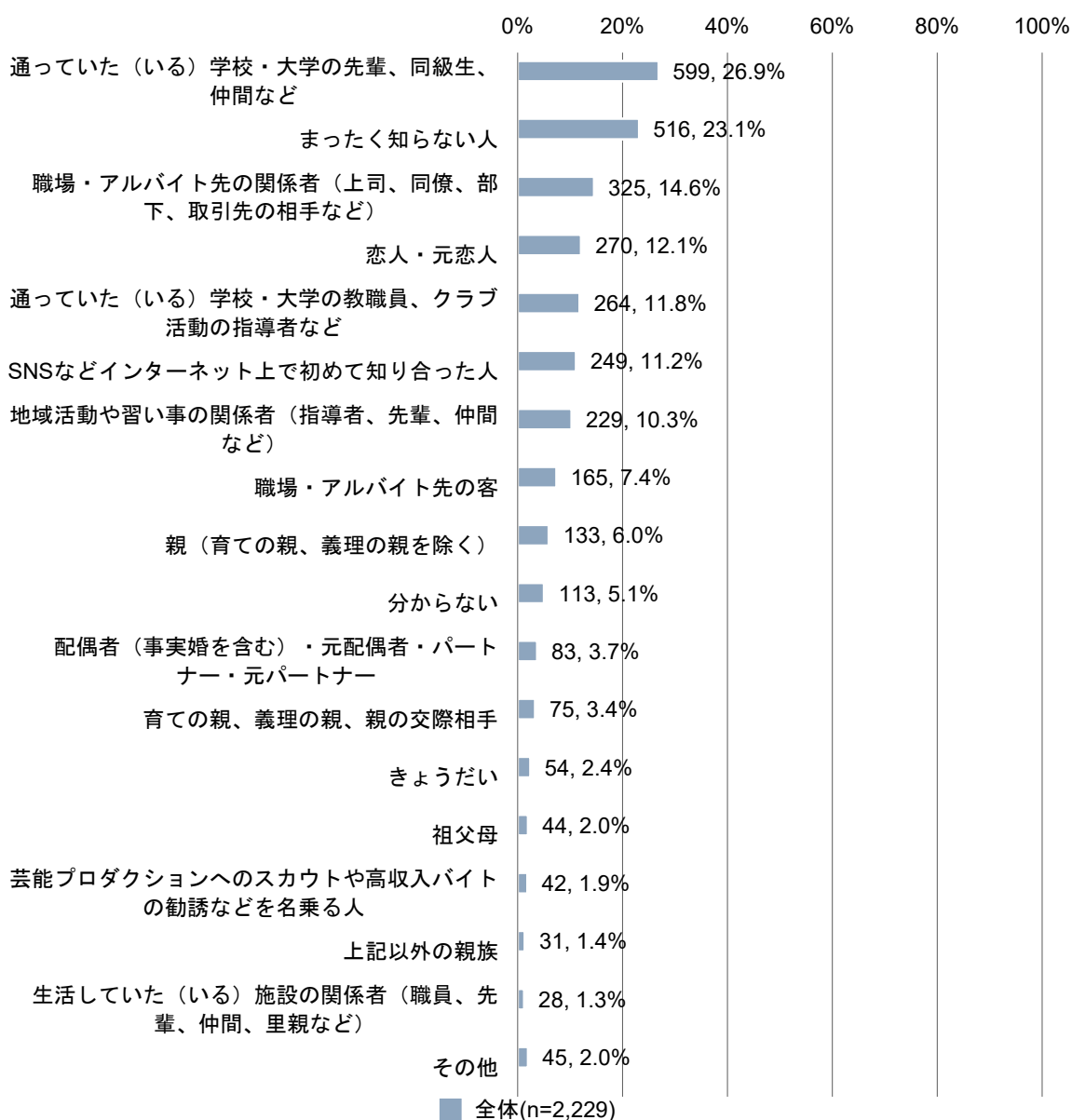
(3) Q17.最も深刻な性被害の加害者との関係性

「通っていた（いる）学校・大学の先輩、同級生、仲間など」が20.4%で最も割合が高く、次いで「まったく知らない人」が19.6%、「職場・アルバイト先の関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手など）」が12.7%となっている。Q11の「これまでに経験した被害の加害者との関係性」と同様の傾向となっている。

図表 39 Q17.最も深刻な性被害の加害者との関係性:複数回答

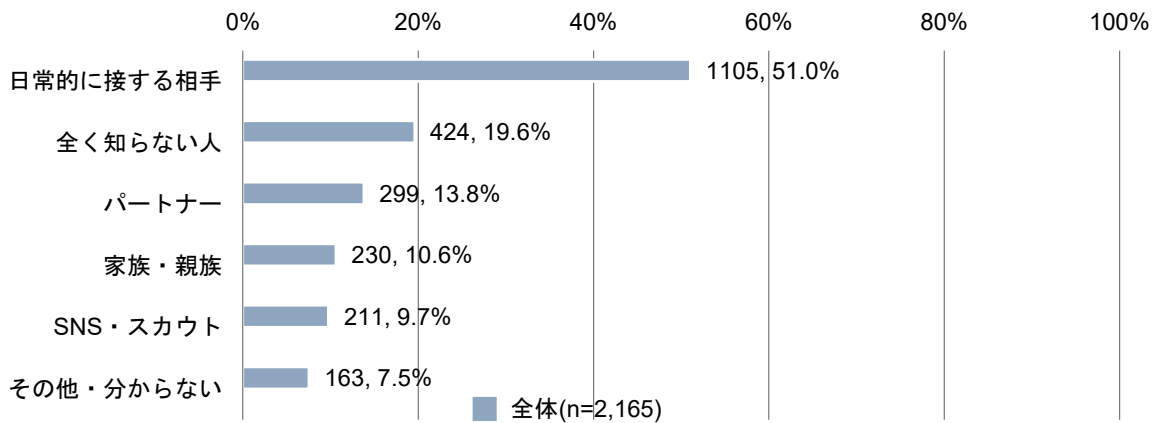


図表 40 【再掲】 Q11.これまでに経験した被害の加害者との関係性:複数回答



図表 39 の選択肢を「日常的に接する相手」「全く知らない人」「パートナー」「家族・親族」「SNS・スカウト」「その他・分からない」に分類・集計したところ、「日常的に接する相手」が 51.0%と最も割合が高く、次いで「全く知らない人」が 19.6%、「パートナー」が 13.8%となっている。

図表 41 Q17.最も深刻な性被害の加害者との関係性 (6 カテゴリ) :複数回答



(※)グラフ内、「日常的に接する相手」は、調査票上では「通っていた(いる)学校・大学の教職員、クラブ活動の指導者など」、「通っていた(いる)学校・大学の先輩、同級生、仲間など」、「地域活動や習い事の関係者(指導者、先輩、仲間など)」、「職場・アルバイト先の関係者(上司、同僚、部下、取引先の相手など)」、「職場・アルバイト先の客」、「生活していた(いる)施設の関係者(職員、先輩、仲間、里親など)」を指す。「全く知らない人」は調査票上の「まったく知らない人」を指す。「パートナー」は調査票上の「恋人・元恋人」、「配偶者(事実婚を含む)・元配偶者・パートナー・元パートナー」を指す。「家族・親族」は調査票上の「親(育ての親、義理の親を除く)」、「育ての親、義理の親、親の交際相手」、「祖父母」、「きょうだい」、「上記以外の親族」を指す。「その他・分からない」は、調査票上の「その他」、「分からない」を指す。以下、同様。

① 最も深刻な性被害の内容別

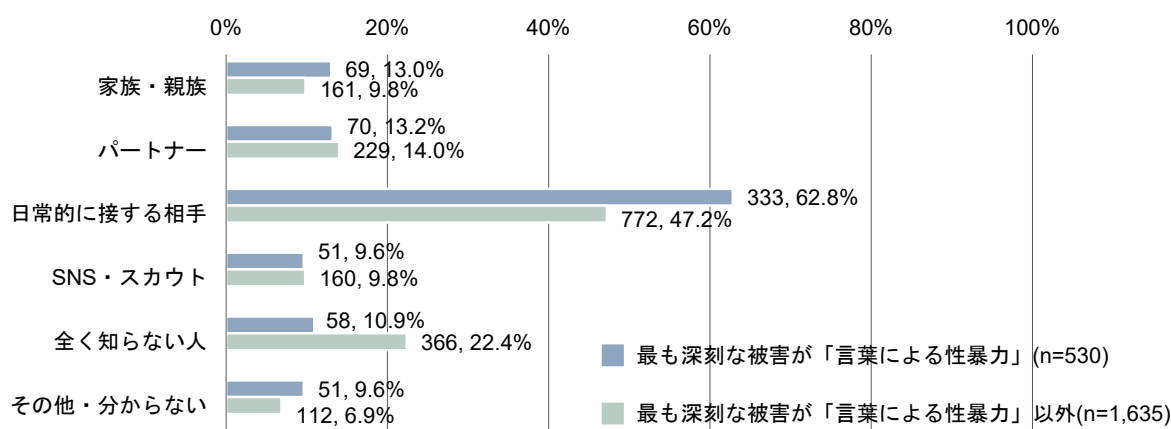
最も深刻な性被害の加害者との関係性 (6 カテゴリ) について、その内容 (Q15) 別に把握した。

(図表 42～図表 47)

<言葉による性暴力の経験>

「最も深刻な被害が「言葉による性暴力」」では、「日常的に接する相手」が62.8%で最も割合が高く、次いで「パートナー」が13.2%、「家族・親族」が13.0%となっている。「日常的に接する相手」について、「最も深刻な被害が「言葉による性暴力」以外」と比べると、15ポイント以上高い。

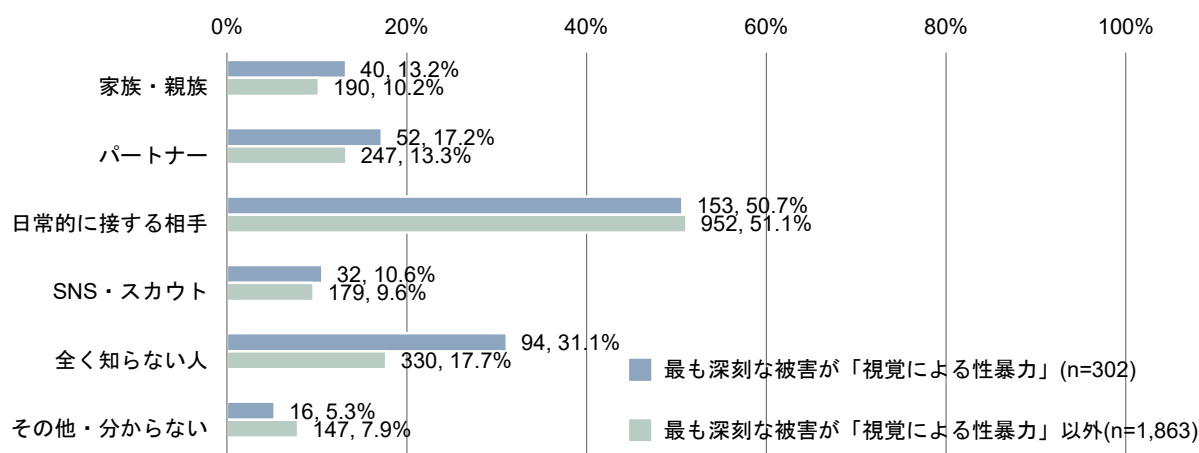
図表 42 Q17. 【言葉による性暴力の経験別】最も深刻だった性被害の加害者との関係性（6カテゴリ）：複数回答



<視覚による性暴力>

「最も深刻な被害が「視覚による性暴力」」では、「日常的に接する相手」が50.7%で最も割合が高く、次いで「全く知らない人」が31.1%、「パートナー」が17.2%となっている。「全く知らない人」について、「最も深刻な被害が「視覚による性暴力」以外」と比べると、13ポイント以上高い。

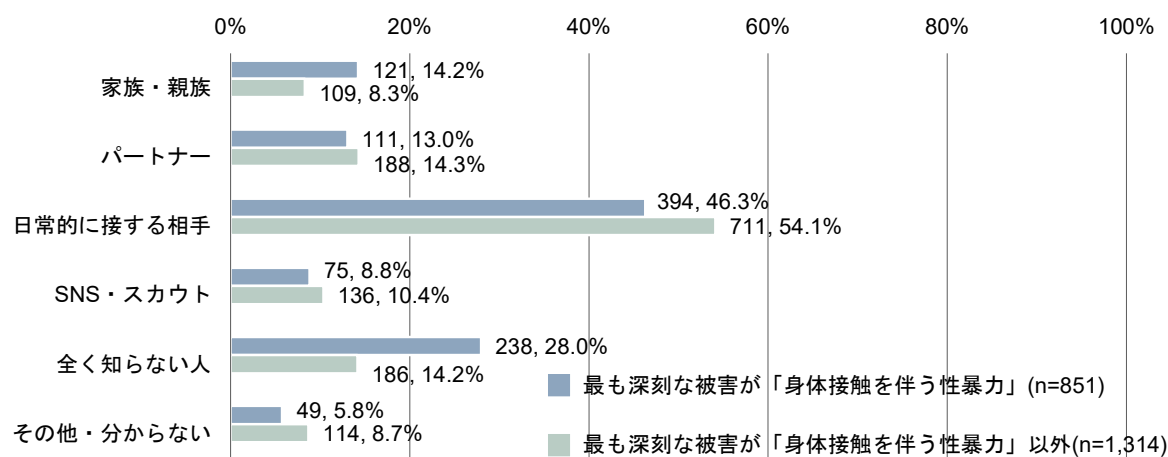
図表 43 Q17. 【視覚による暴力の経験別】最も深刻だった性被害の加害者との関係性（6カテゴリ）：複数回答



<身体接触を伴う性暴力>

「最も深刻な被害が「身体接触を伴う性暴力」」では、「日常的に接する相手」が46.3%で最も割合が高く、次いで「全く知らない人」が28.0%、「家族・親族」が14.2%となっている。「全く知らない人」について、「最も深刻な被害が「身体接触を伴う性暴力」以外」と比べると、13ポイント以上高い。

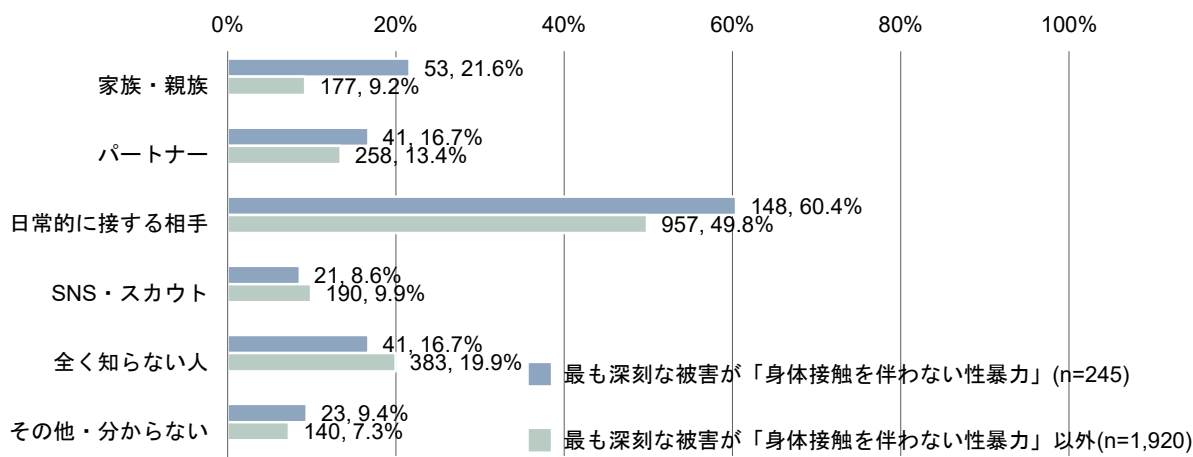
図表 44 Q17. 【身体接触を伴う性暴力の経験別】最も深刻だった性被害の加害者との関係性 (6カテゴリ):複数回答



<身体接触を伴わない性暴力>

「最も深刻な被害が「身体接触を伴わない性暴力」」では、「日常的に接する相手」が60.4%で最も割合が高く、次いで「家族・親族」が21.6%、「パートナー」「全く知らない人」が16.7%となっている。「家族・親族」および「日常的に接する相手」について、「最も深刻な被害が「身体接触を伴わない性暴力」以外」と比べると、10ポイント以上高い。

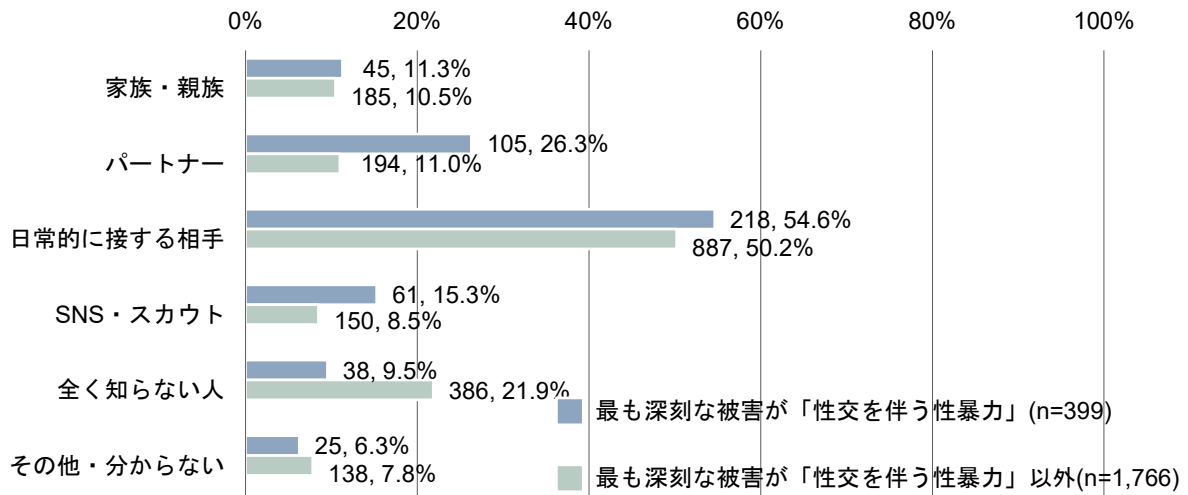
図表 45 Q17. 【身体接触を伴わない性暴力の経験別】最も深刻だった性被害の加害者との関係性 (6カテゴリ):複数回答



<性交を伴う性暴力>

「最も深刻な被害が「性交を伴う性暴力」」では、「日常的に接する相手」が54.6%で最も割合が高く、次いで「パートナー」が26.3%、「SNS・スカウト」が15.3%となっている。「パートナー」について、「最も深刻な被害が「性交を伴う性暴力」以外」と比べると、15ポイント以上高い。

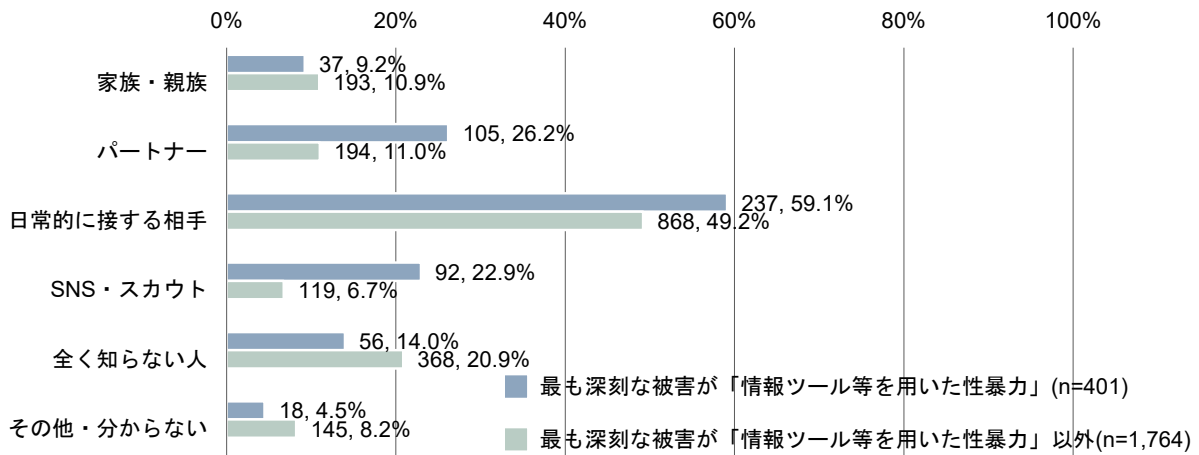
図表 46 Q17. 【性交を伴う性暴力の経験別】最も深刻だった性被害の加害者との関係性（6カテゴリ）：複数回答



<情報ツール等を用いた性暴力>

「最も深刻な被害が「情報ツール等を用いた性暴力」」では、「日常的に接する相手」が59.1%で最も割合が高く、次いで「パートナー」が26.2%、「SNS・スカウト」が22.9%となっている。「パートナー」および「SNS・スカウト」について、「最も深刻な被害が「情報ツール等を用いた性暴力」以外」と比べると、15ポイント以上高い。

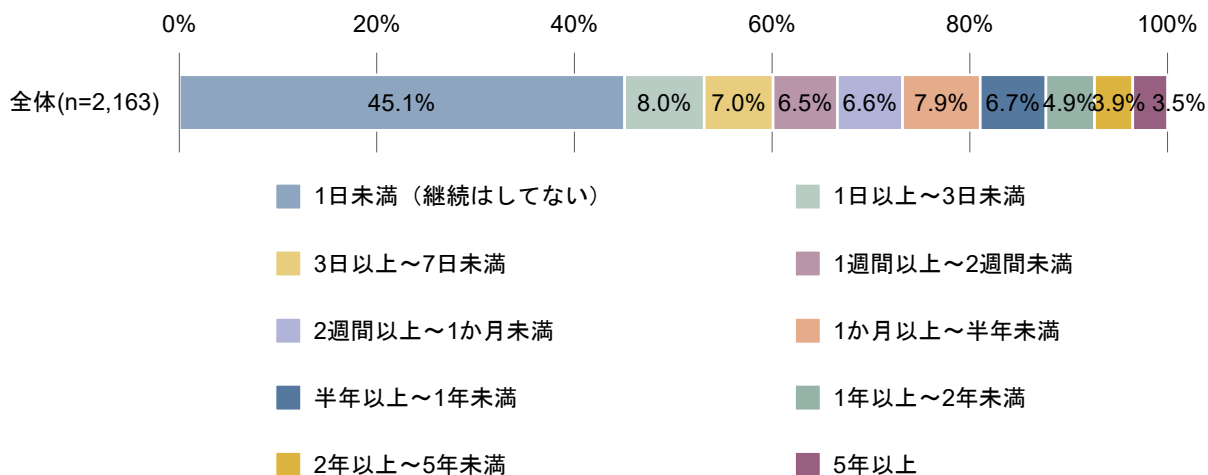
図表 47 Q17. 【情報ツール等を用いた性暴力の経験別】最も深刻だった性被害の加害者との関係性（6カテゴリ）：複数回答



(4) Q18.最も深刻な性被害の継続期間

「1日未満（継続はしてない）」が45.1%で最も割合が高い。次いで「1日以上～3日未満」が8.0%、「1か月以上～半年未満」が7.9%となっており、最も深刻な性被害が1日以上継続した人が半数以上を占めている。

図表 48 Q18.最も深刻な性被害の継続期間:単数回答



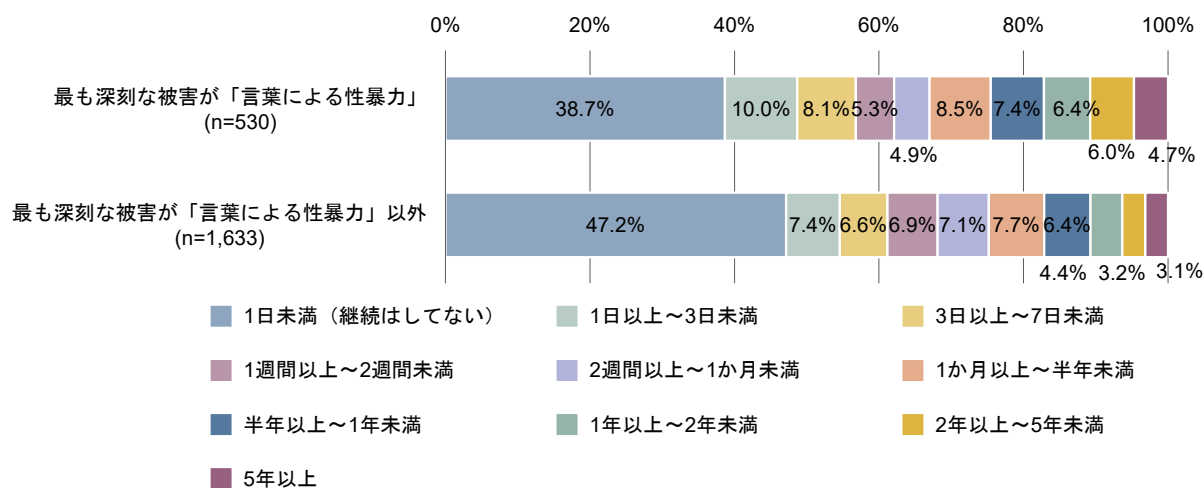
① 最も深刻な性被害の内容別

最も深刻な性被害の継続期間について、その内容（Q15）別に把握した。（図表 49～図表 54）

<言葉による性暴力>

「最も深刻な被害が「言葉による性暴力」」では、「1日未満（継続はしてない）」が38.7%で最も割合が高く、次いで「1日以上～3日未満」が10.0%、「1か月以上～半年未満」が8.5%となっている。「1日未満（継続はしてない）」について、「最も深刻な被害が「言葉による性暴力」以外」と比べると、8ポイント以上低い。

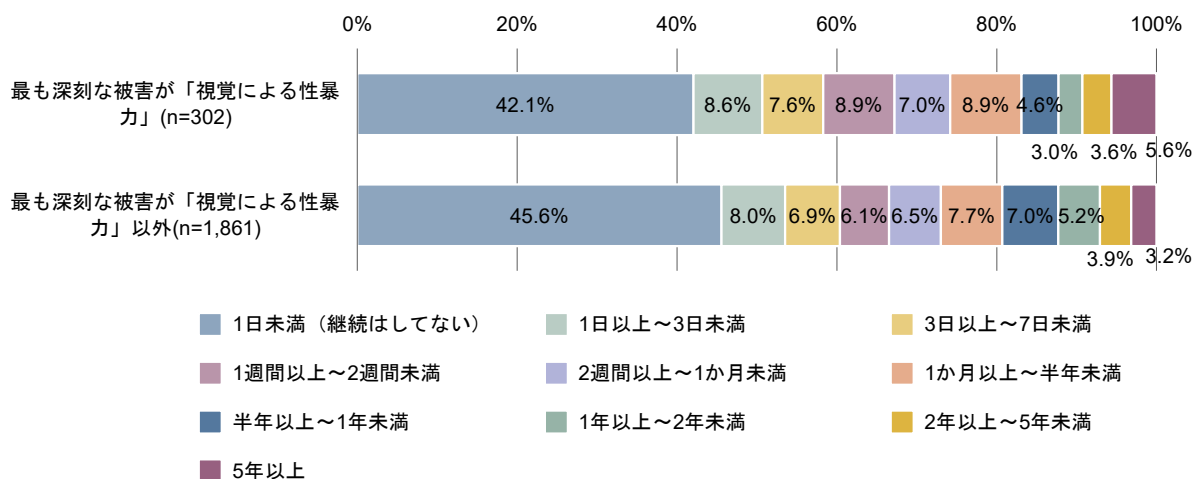
図表 49 Q18.【言葉による性暴力の経験別】最も深刻な性被害の継続期間:単数回答



<視覚による性暴力>

「最も深刻な被害が「視覚による性暴力」では、「1日未満（継続はしてない）」が42.1%で最も割合が高く、次いで「1週間以上～2週間未満」「1か月以上～半年未満」が8.9%、「1日以上～3日未満」が8.6%となっている。

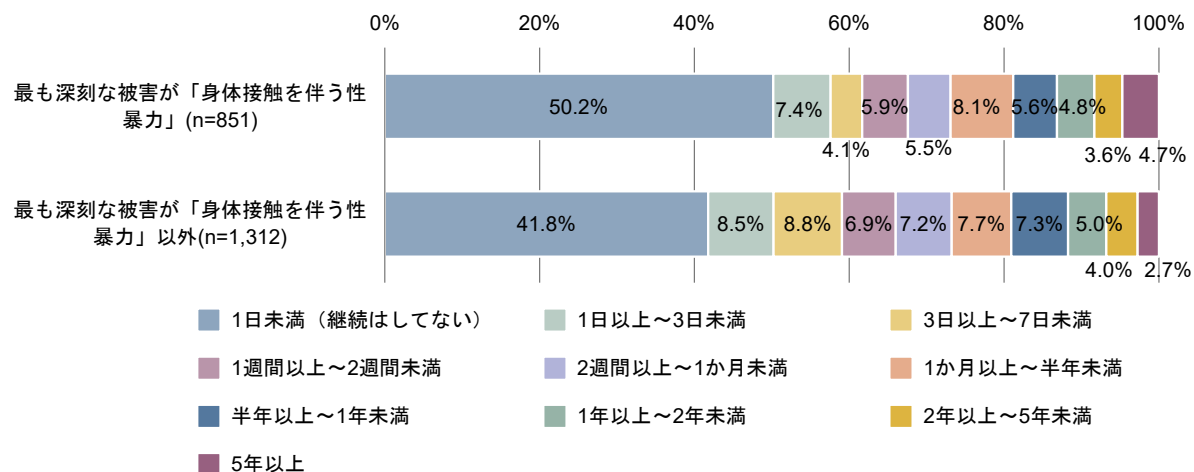
図表 50 Q18. 【視覚による暴力の経験別】最も深刻な性被害の継続期間:単数回答



<身体接触を伴う性暴力>

「最も深刻な被害が「身体接触を伴う性暴力」では、「1日未満（継続はしてない）」が50.2%で最も割合が高く、次いで「1か月以上～半年未満」が8.1%、「1日以上～3日未満」が7.4%となっている。「1日未満（継続はしてない）」について、「最も深刻な被害が「身体接触を伴う性暴力」以外」と比べると、8ポイント以上高い。

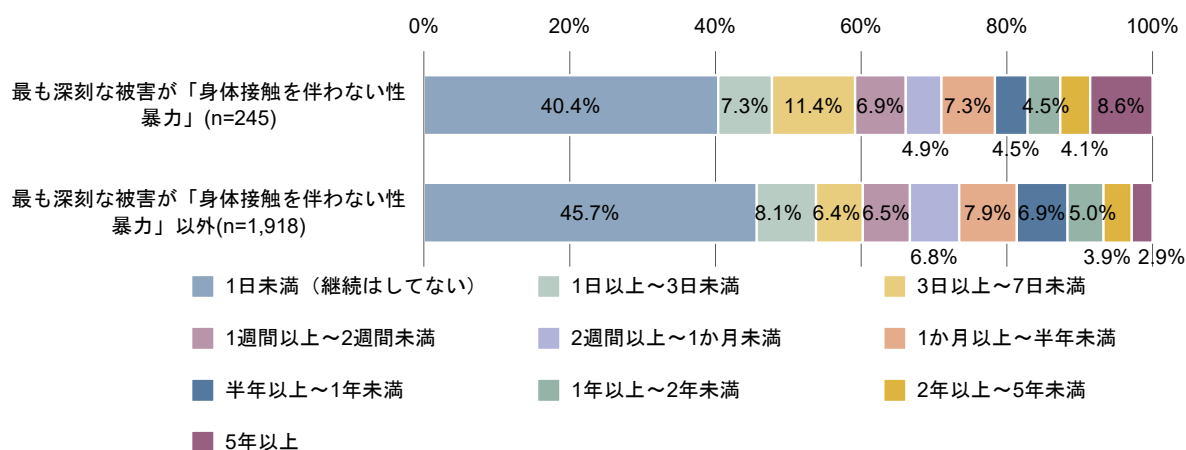
図表 51 Q18. 【身体接触を伴う性暴力の経験別】最も深刻な性被害の継続期間:単数回答



<身体接触を伴わない性暴力>

「最も深刻な被害が「身体接触を伴わない性暴力」」では、「1日未満(継続はしてない)」が40.4%で最も割合が高く、次いで「3日以上～7日未満」が11.4%、「5年以上」が8.6%となっている。「1日未満(継続はしてない)」について、「最も深刻な被害が「身体接触を伴わない性暴力」以外」と比べると5ポイント程度低い。

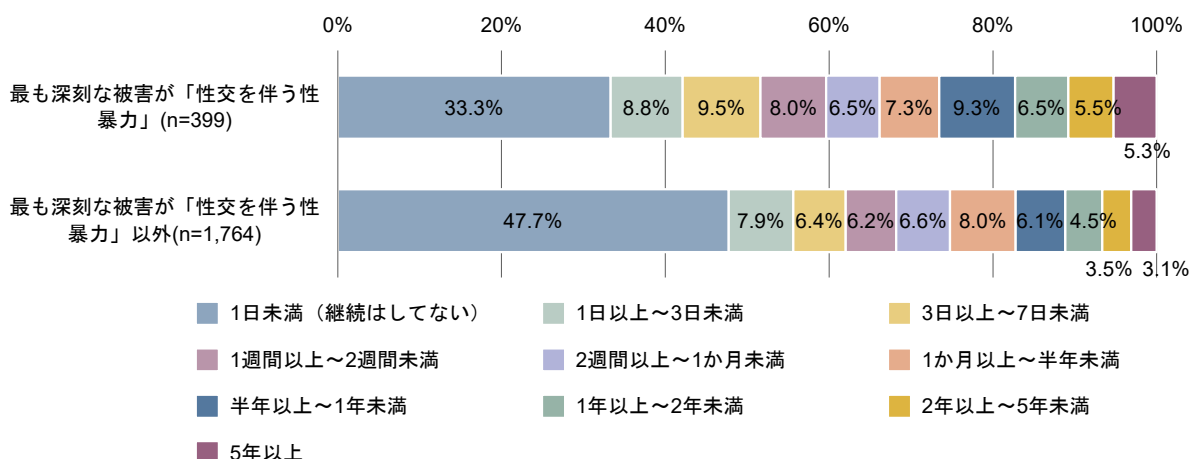
図表 52 Q18. 【身体接触を伴わない性暴力の経験別】最も深刻な性被害の継続期間:単数回答



<性交を伴う性暴力>

「最も深刻な被害が「性交を伴う性暴力」」では、「1日未満(継続はしてない)」が33.3%で最も割合が高く、次いで「3日以上～7日未満」が9.5%、「半年以上～1年未満」が9.3%となっている。「1日未満(継続はしてない)」について、「最も深刻な被害が「性交を伴う性暴力」以外」と比べると、14ポイント以上低い。

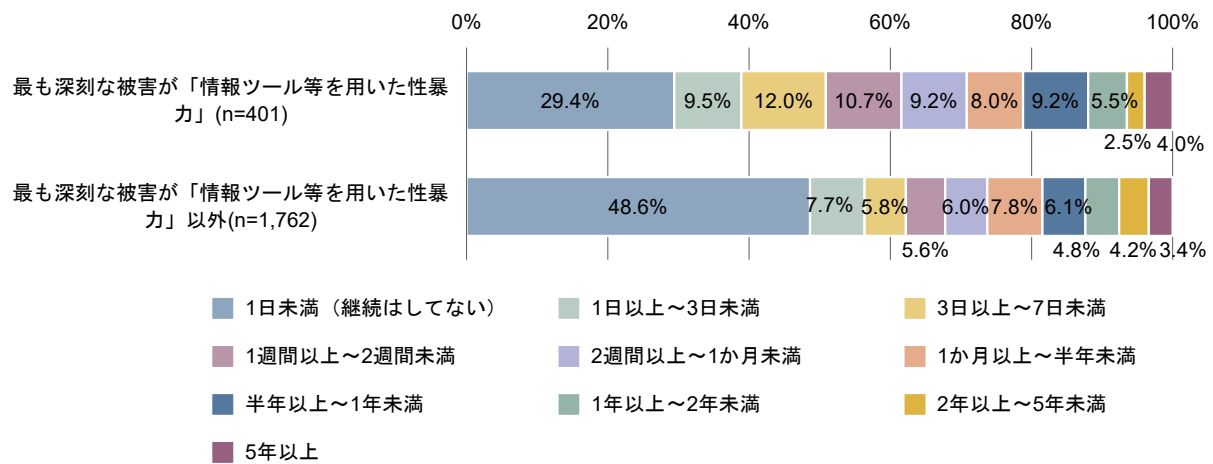
図表 53 Q18. 【性交を伴う性暴力の経験別】最も深刻な性被害の継続期間:単数回答



<情報ツール等を用いた性暴力>

「最も深刻な被害が「情報ツール等を用いた性暴力」」では、「1日未満（継続はしてない）」が29.4%で最も割合が高く、次いで「3日以上～7日未満」が12.0%、「1週間以上～2週間未満」が10.7%となっている。「1日未満（継続はしてない）」について、「最も深刻な被害が「情報ツール等を用いた性暴力」以外」と比べると、19ポイント以上低い。

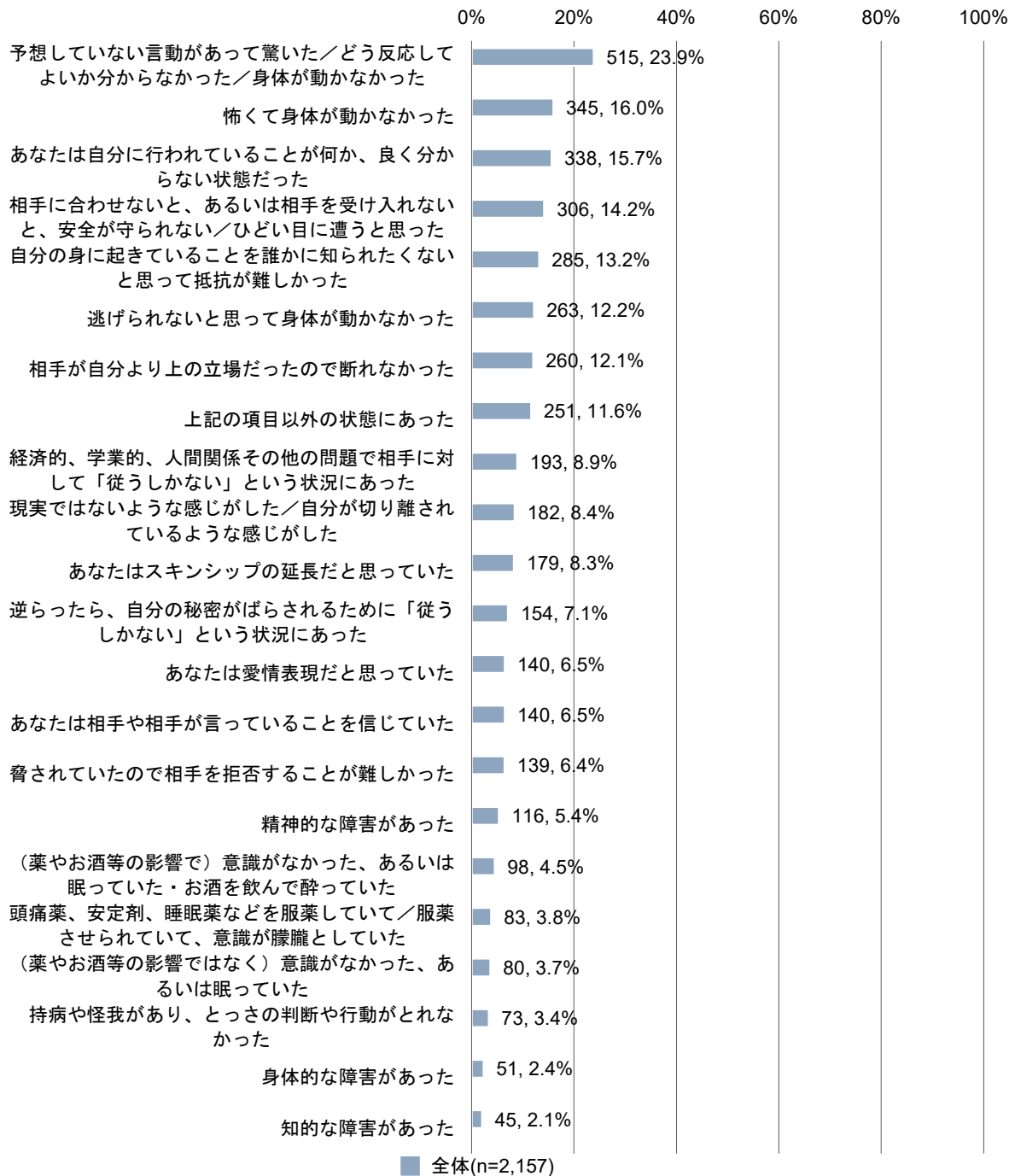
図表 54 Q18. 【情報ツール等を用いた性暴力の経験別】最も深刻な性被害の継続期間:単数回答



(5) Q19.最も深刻な性被害に遭ったときの感情

「予想していない言動があって驚いた／どう反応してよいか分からなかった／身体が動かなかった」が23.9%で最も割合が高く、次いで「怖くて身体が動かなかった」が16.0%、「あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった」が15.7%となっている。

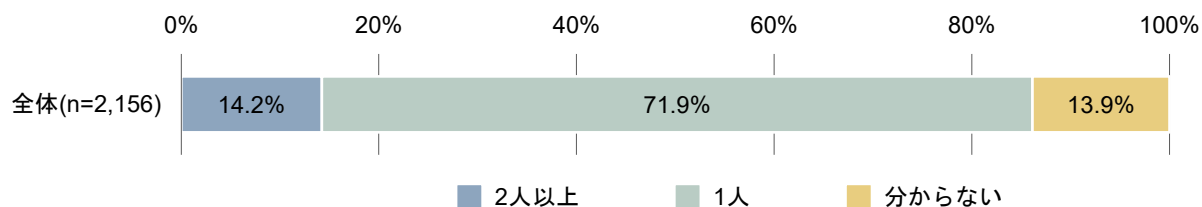
図表 55 Q19.最も深刻な性被害に遭ったときの感情:複数回答



(6) Q20.最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無

「1人」が71.9%で最も割合が高く、次いで「2人以上」が14.2%、「分からない」が13.9%となっている。

図表 56 Q20.最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無:単数回答



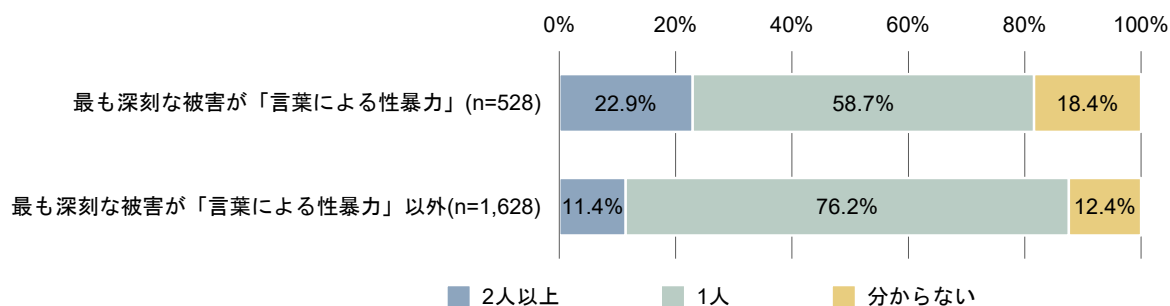
① 最も深刻な性被害の内容別

最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験について、その内容(Q15)別に把握した。(図表 57~図表 62)

<言葉による性暴力>

「最も深刻な被害が「言葉による性暴力」」では、「1人」が58.7%で最も割合が高く、次いで「2人以上」が22.9%、「分からない」が18.4%となっている。「2人以上」について、「最も深刻な被害が「言葉による性暴力」以外」と比べると、11ポイント以上高い。

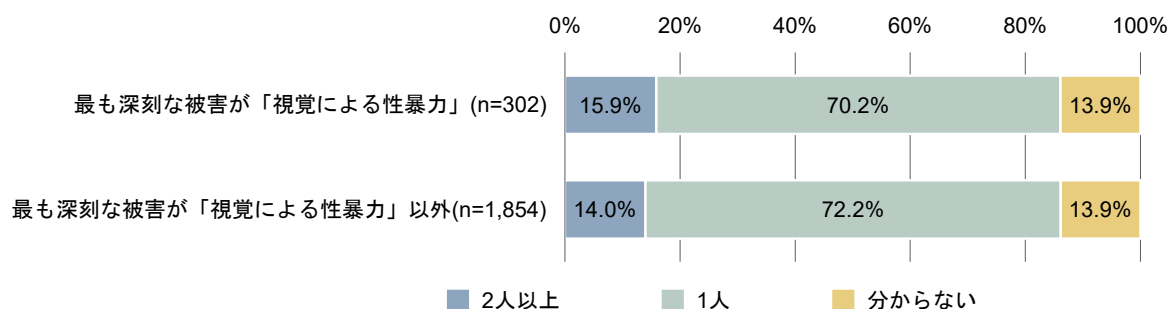
図表 57 Q20.【言葉による性暴力の経験別】最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無:単数回答



<視覚による性暴力>

「最も深刻な被害が「視覚による性暴力」」では、「1人」が70.2%で最も割合が高く、次いで「2人以上」が15.9%、「分からない」が13.9%となっている。

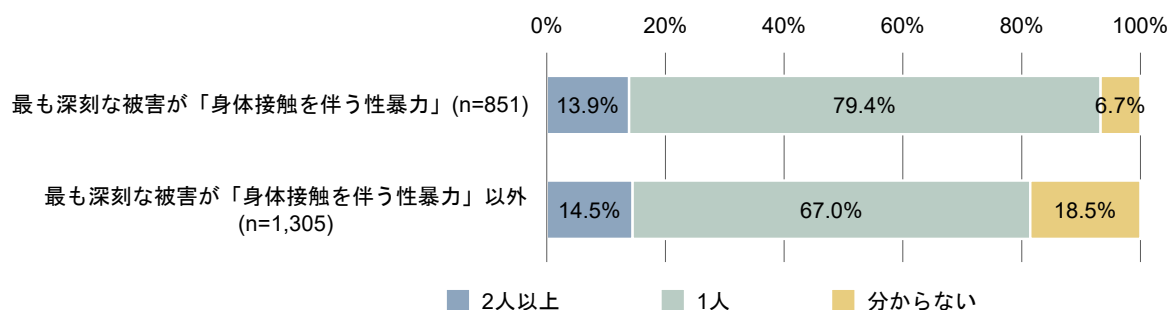
図表 58 Q20. 【視覚による暴力の経験別】最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無:単数回答



<身体接触を伴う性暴力>

「最も深刻な被害が「身体接触を伴う性暴力」」では、「1人」が79.4%で最も割合が高く、次いで「2人以上」が13.9%、「分からない」が6.7%となっている。

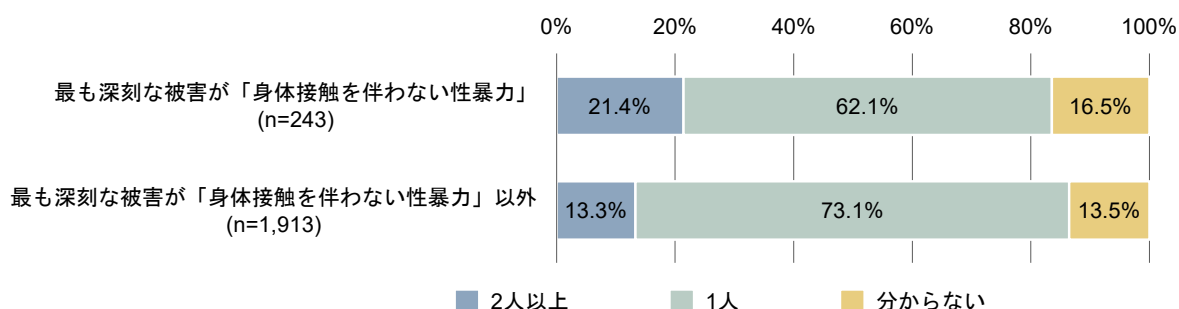
図表 59 Q20. 【身体接触を伴う性暴力の経験別】最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無:単数回答



<身体接触を伴わない性暴力>

「最も深刻な被害が「身体接触を伴わない性暴力」」では、「1人」が62.1%で最も割合が高く、次いで「2人以上」が21.4%、「分からない」が16.5%となっている。「2人以上」について、「最も深刻な被害が「身体接触を伴わない性暴力」以外」と比べると、8ポイント程度高い。

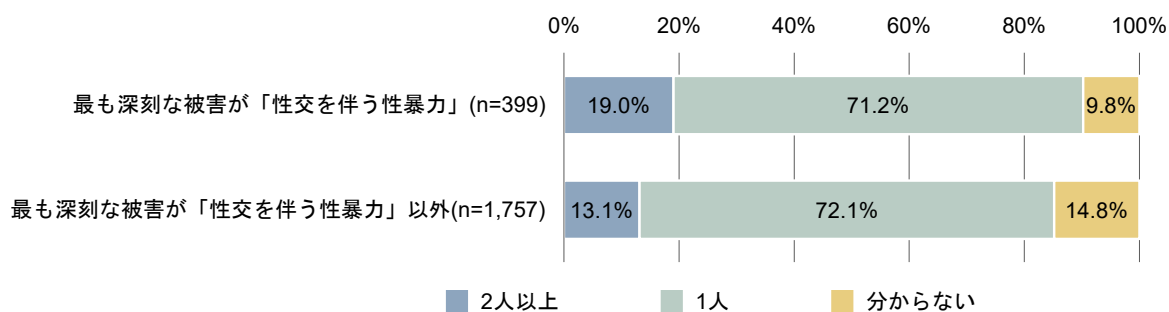
図表 60 Q20. 【身体接触を伴わない性暴力の経験別】最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無:単数回答



<性交を伴う性暴力>

「最も深刻な被害が「性交を伴う性暴力」」では、「1人」が71.2%で最も割合が高く、次いで「2人以上」が19.0%、「分からない」が9.8%となっている。「2人以上」について、「最も深刻な被害が「性交を伴う性暴力」以外」と比べると、6ポイント程度高い。

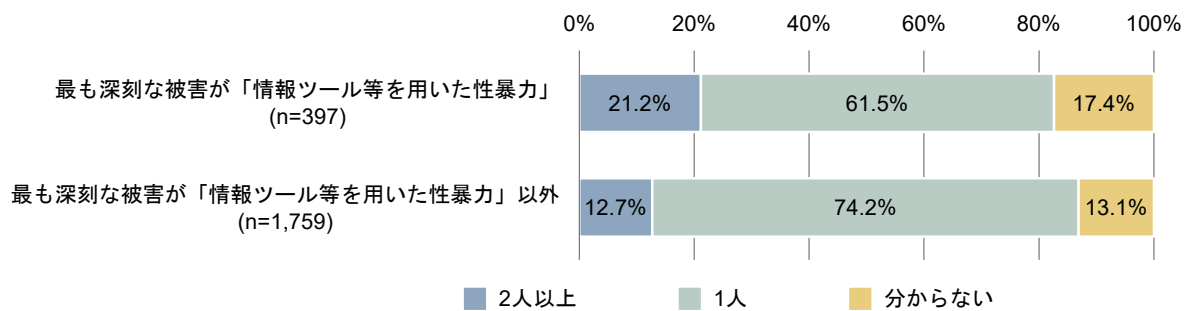
図表 61 Q20. 【性交を伴う性暴力の経験別】最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無:単数回答



<情報ツール等を用いた性暴力>

「最も深刻な被害が「情報ツール等を用いた性暴力」」では、「1人」が61.5%で最も割合が高く、次いで「2人以上」が21.2%、「分からない」が17.4%となっている。「2人以上」について、「最も深刻な被害が「情報ツール等を用いた性暴力」以外」と比べると、8ポイント以上高い。

図表 62 Q20. 【情報ツール等を用いた性暴力の経験別】最も深刻な性被害の2人以上の加害者から被害を受けた経験の有無:単数回答

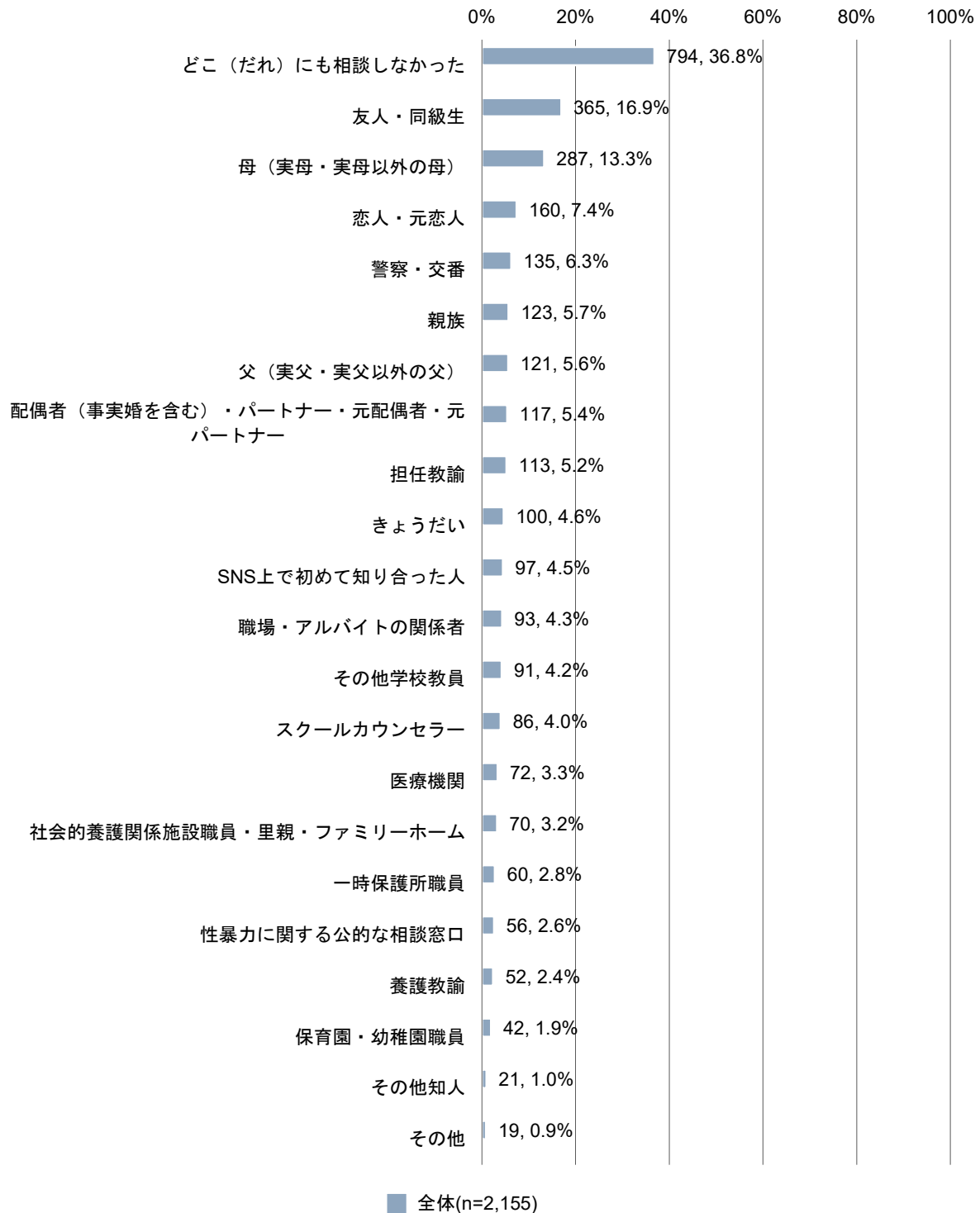


4. 性暴力被害後の援助要請

(1) Q21.性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が36.8%で最も割合が高く、次いで「友人・同級生」が16.9%、「母（実母・実母以外の母）」が13.3%となっている。

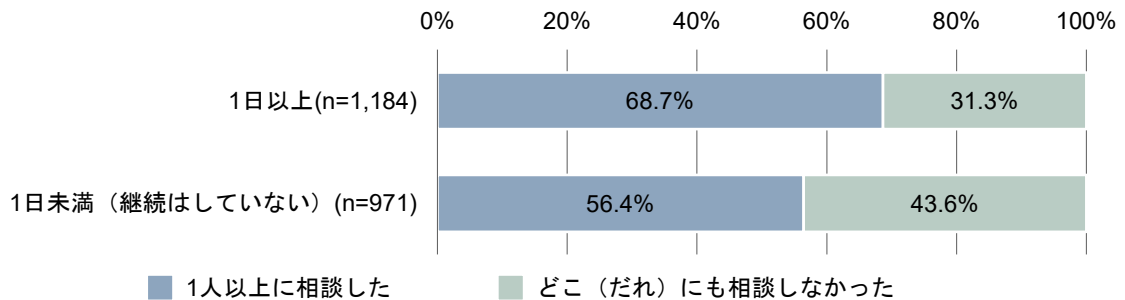
図表 63 Q21.性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手:複数回答



① 最も深刻な性被害の継続期間別

最も深刻な性被害の継続期間別に性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手の有無をみると、「1人以上に相談した」の割合は、「1日以上」で68.7%、「1日未満（継続はしていない）」で56.4%となっている。

図表 64 Q21. 【最も深刻な性被害の継続期間別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手



(※)グラフ内、「どこ(だれ)にも相談しなかった」は Q21 で「どこ(だれ)にも相談しなかった」を選択した者、「1人以上に相談した」はそれ以外の選択肢を1つ以上選択した者を示す。以下、同様。

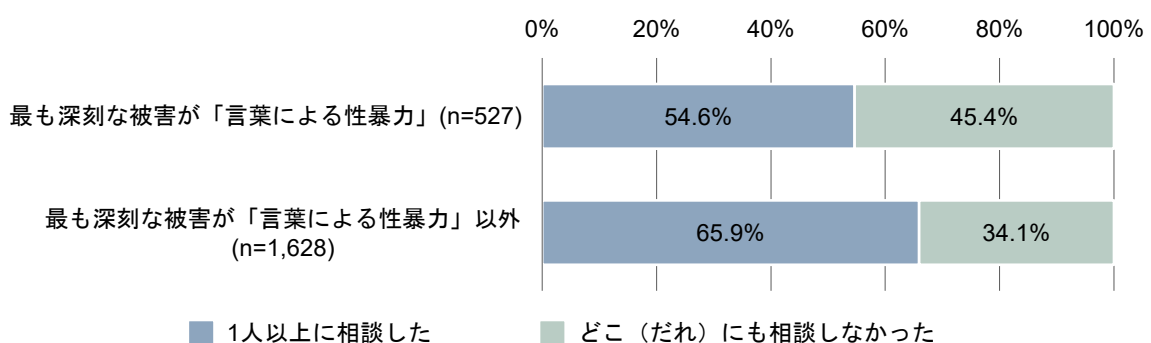
② 最も深刻な性被害の内容別

性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手について、最も深刻な性被害の内容 (Q15) 別に把握した。(図表 65～図表 70)

<言葉による性暴力>

「1人以上に相談した」の割合は、「最も深刻な被害が「言葉による性暴力」」で54.6%、「最も深刻な被害が「言葉による性暴力」以外」で65.9%となっている。

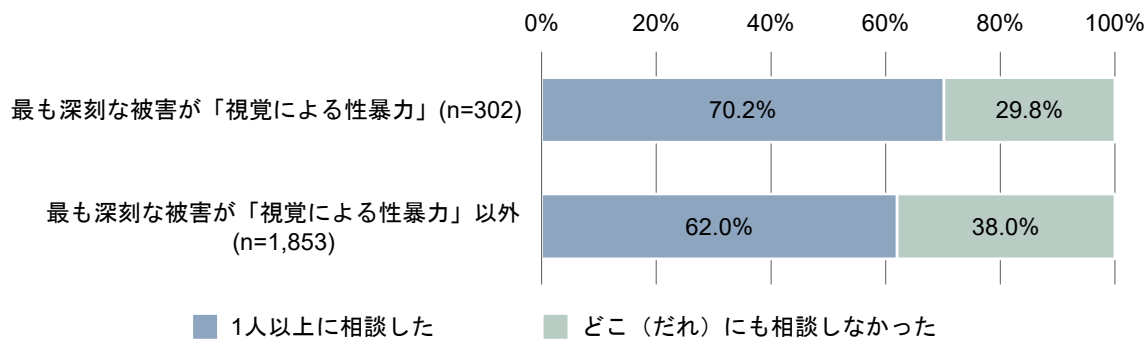
図表 65 Q21. 【言葉による性暴力の経験別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手



<視覚による性暴力>

「1人以上に相談した」の割合は、「最も深刻な被害が「視覚による性暴力」」で70.2%、「最も深刻な被害が「視覚による性暴力」以外」で62.0%となっている。

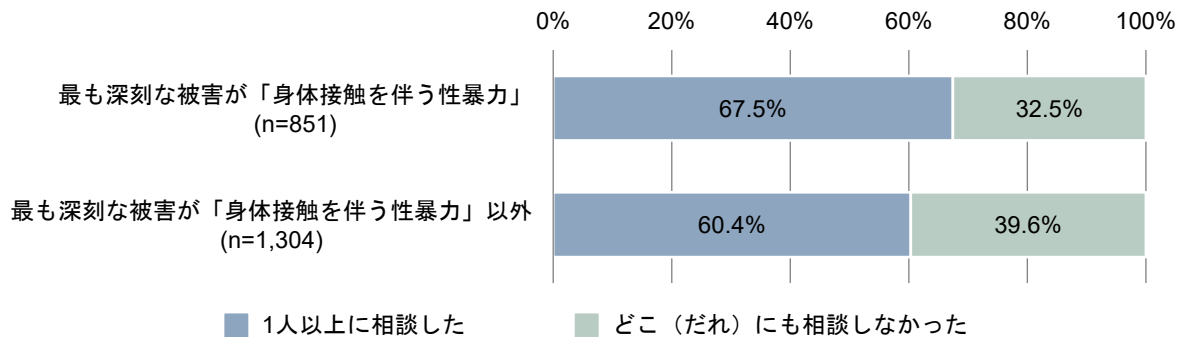
図表 66 Q21. 【視覚による暴力の経験別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手



<身体接触を伴う性暴力>

「1人以上に相談した」の割合は、「最も深刻な被害が「身体接触を伴う性暴力」」で67.5%、「最も深刻な被害が「身体接触を伴う性暴力」以外」で60.4%となっている。

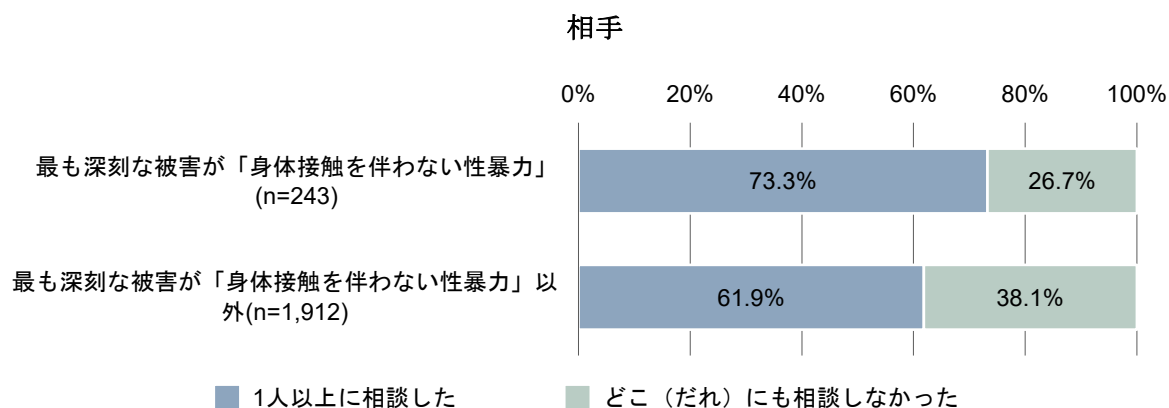
図表 67 Q21. 【身体接触を伴う性暴力の経験別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手



<身体接触を伴わない性暴力>

「1人以上に相談した」の割合は、「最も深刻な被害が「身体接触を伴わない性暴力」」で73.3%、「最も深刻な被害が「身体接触を伴わない性暴力」以外」で61.9%となっている。

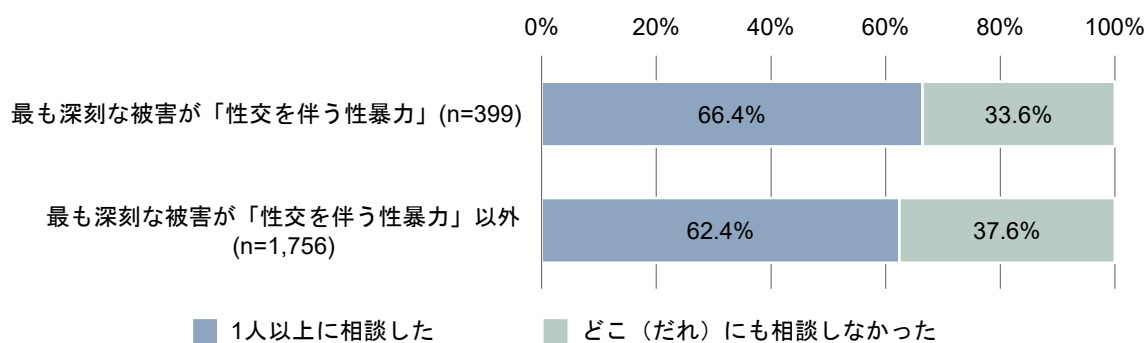
図表 68 Q21. 【身体接触を伴わない性暴力の経験別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手



<性交を伴う性暴力>

「1人以上に相談した」の割合は、「最も深刻な被害が「性交を伴う性暴力」」で66.4%、「最も深刻な被害が「性交を伴う性暴力」以外」で62.4%となっている。

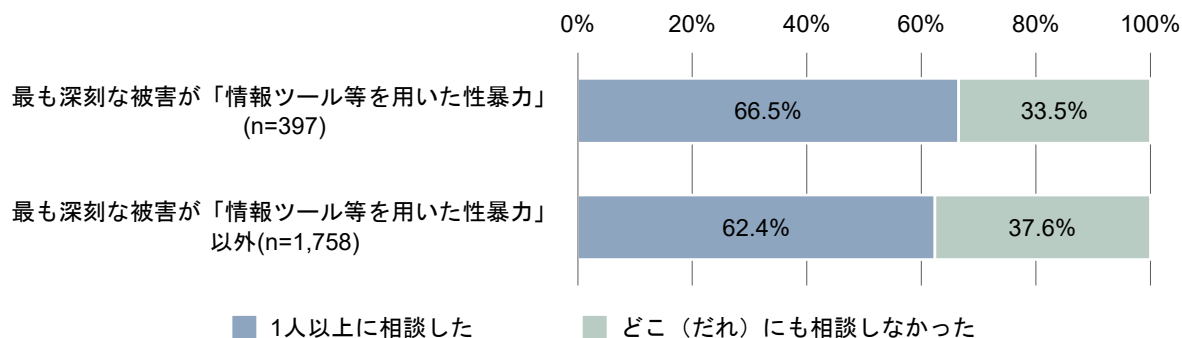
図表 69 Q21. 【性交を伴う性暴力の経験別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手



<情報ツール等を用いた性暴力>

「1人以上に相談した」の割合は、「最も深刻な被害が「情報ツール等を用いた性暴力」」で66.5%、「最も深刻な被害が「情報ツール等を用いた性暴力」以外」で62.4%となっている。

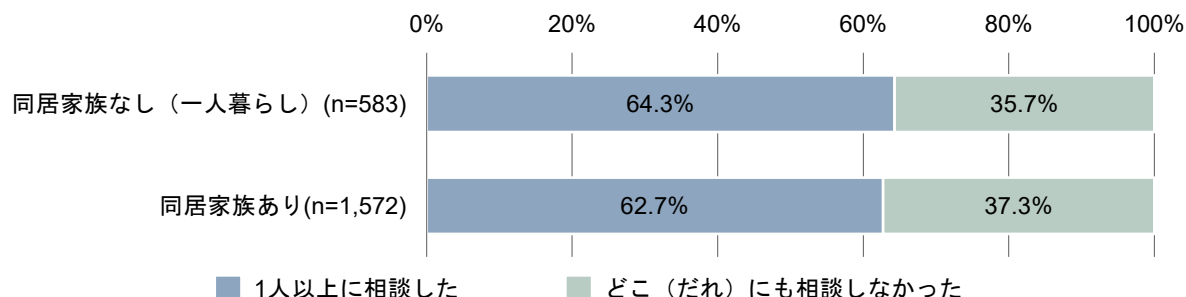
図表 70 Q21. 【情報ツール等を用いた性暴力の経験別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手



③ 同居家族の有無別

同居家族の有無別にみると、「1人以上に相談した」の割合は、「同居家族なし（一人暮らし）」で64.3%、「同居家族あり」で62.7%となっている。

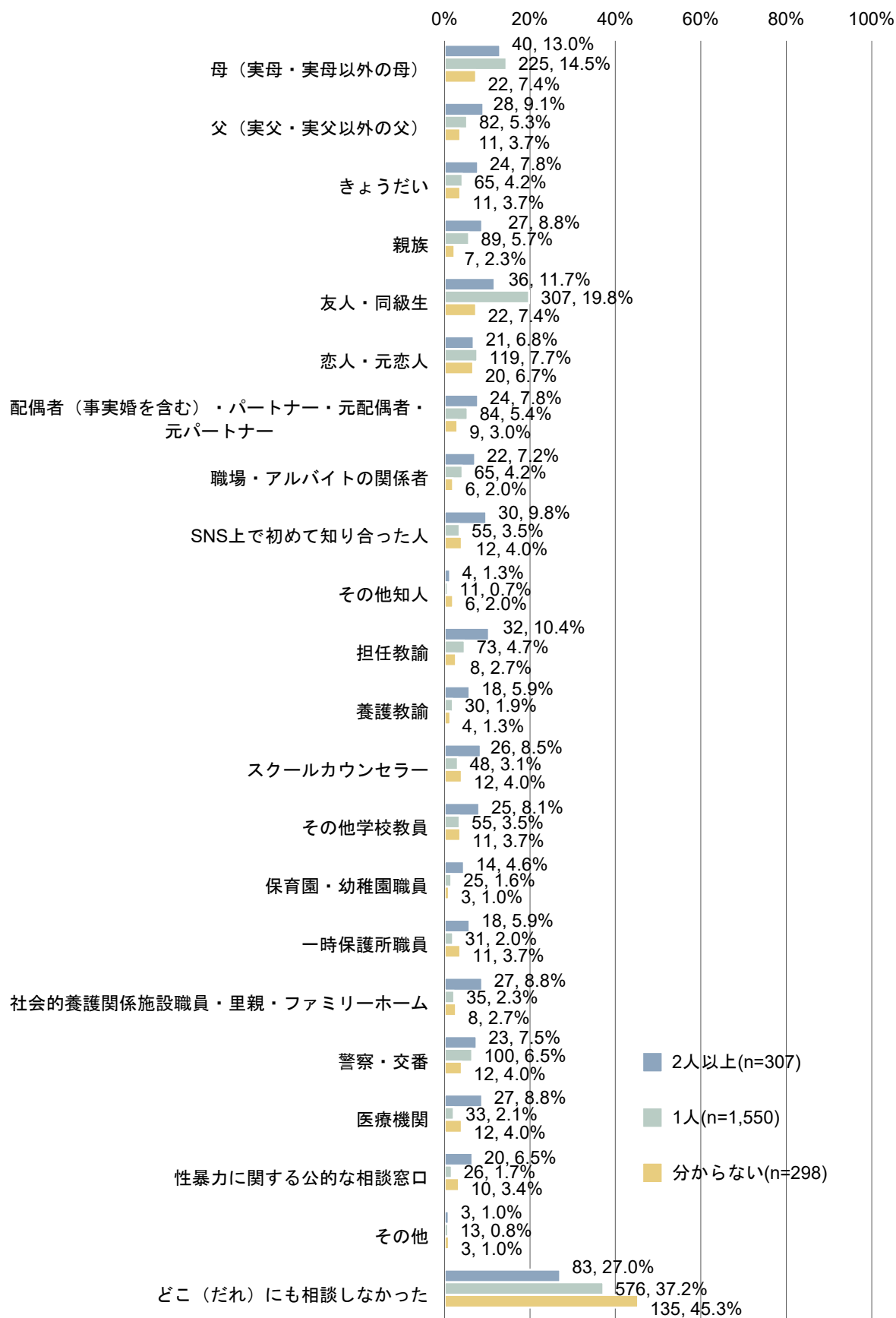
図表 71 Q21. 【同居家族の有無別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手



④ 最も深刻な性被害の加害者数別

加害者数が「2人以上」の場合は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が27.0%で最も割合が高く、次いで「母（実母・実母以外の母）」が13.0%、「友人・同級生」が11.7%となっている。加害者数が「1人」の場合は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が37.2%で最も割合が高く、次いで「友人・同級生」が19.8%、「母（実母・実母以外の母）」が14.5%となっている。加害者数が「分からない」場合は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が45.3%で最も割合が高く、次いで「母（実母・実母以外の母）」「友人・同級生」が7.4%、「恋人・元恋人」が6.7%となっている。

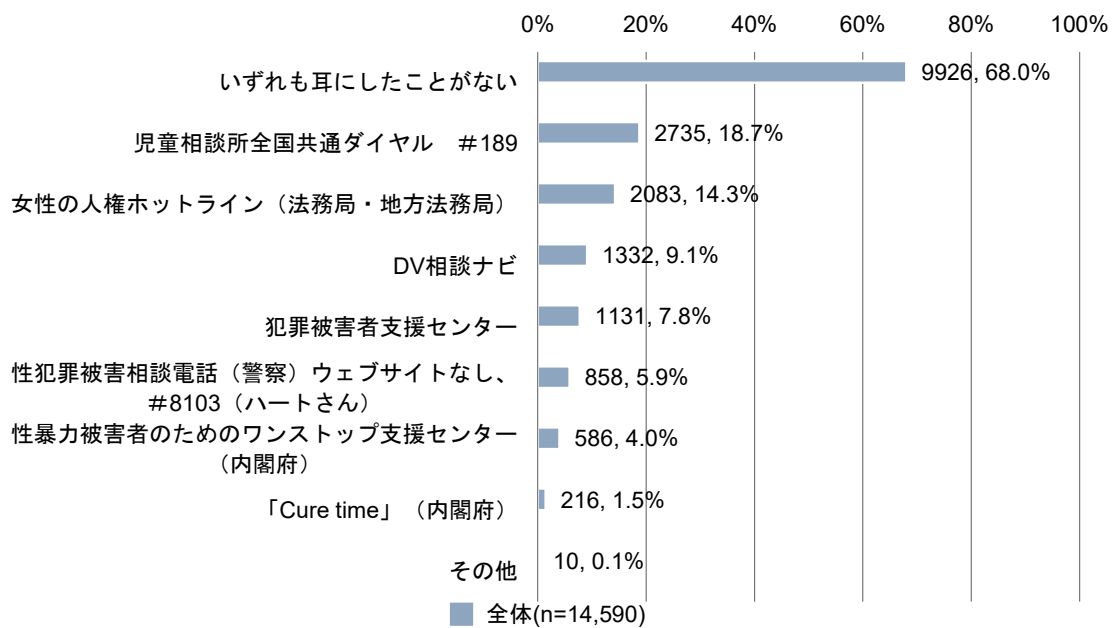
図表 72 Q21. 【最も深刻な性被害の加害者数別】性暴力被害後に打ち明けた・相談した相手：
複数回答



(2) Q22.性暴力被害に関する現状の支援の認知度

回答者全員を対象に、性暴力被害に関する現状の支援サービスの認知度を把握した。その結果、「いずれも耳にしたことがない」が68.0%で最も割合が高く、次いで「児童相談所全国共通ダイヤル#189」が18.7%、「女性の人権ホットライン（法務局・地方法務局）」が14.3%となっている。

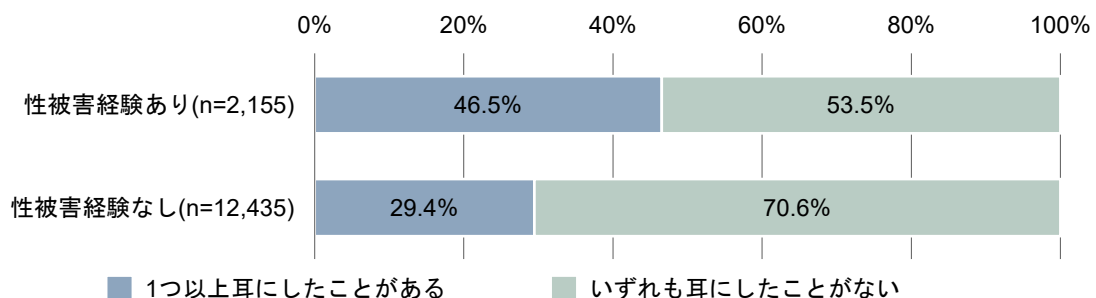
図表 73 Q22.性暴力被害に関する現状の支援の認知度:複数回答



① 性被害経験の有無別

性被害経験の有無別にみると、「1つ以上耳にしたことがある」の割合は、「性被害経験あり」で46.5%、「性被害経験なし」で29.4%となっている。両者の差は17ポイント以上となっている。

図表 74 Q22.【性被害経験の有無別】性暴力被害に関する現状の支援の認知度

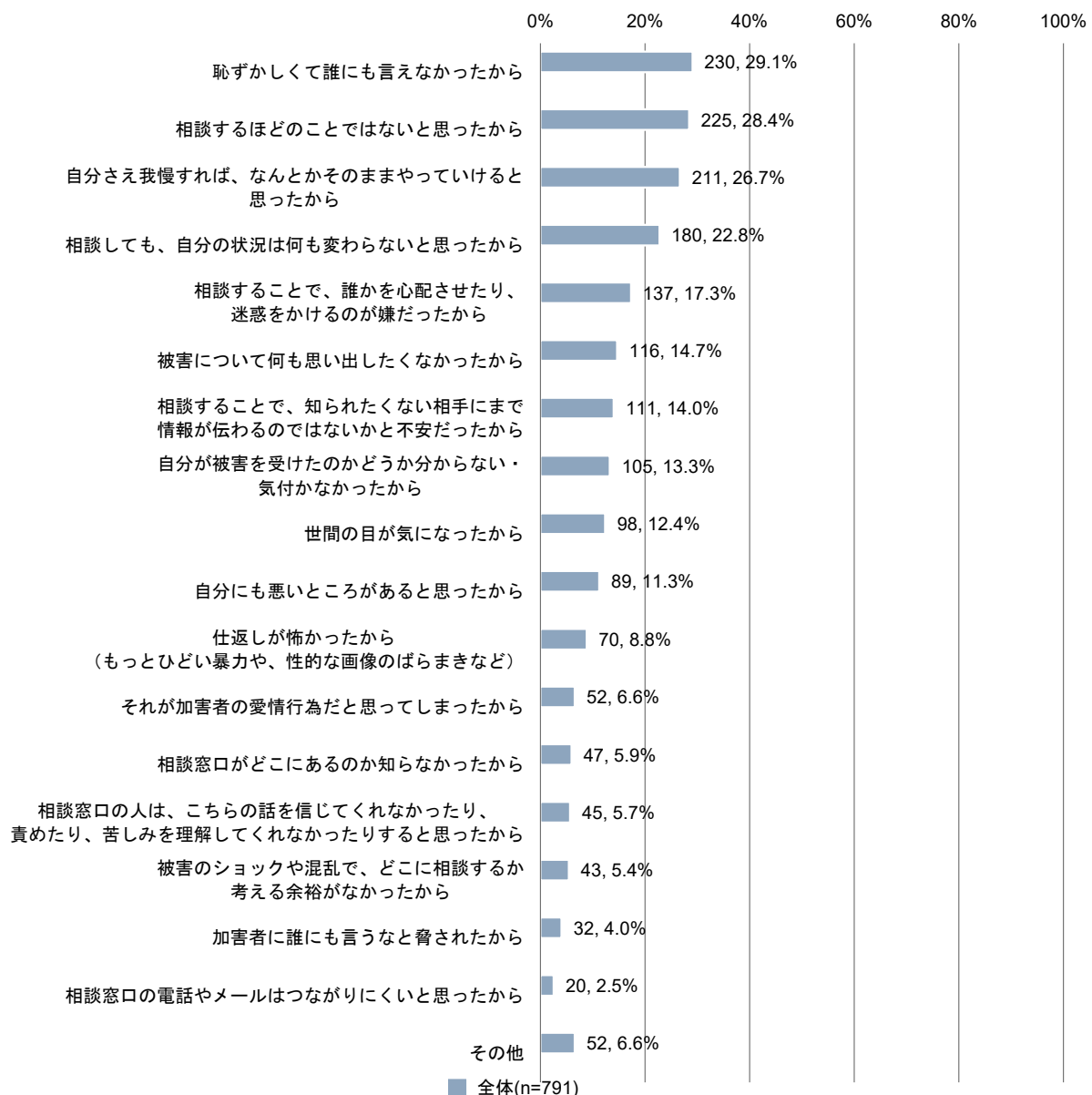


(※)グラフ内、「いずれも耳にしたことがない」は Q22 で「いずれも耳にしたことがない」を選択した者、「1つ以上耳にしたことがある」はそれ以外の選択肢を1つ以上選択した者を示す。

(3) Q23.性暴力被害について誰にも相談しなかった理由

Q21で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した者にその理由を把握した。「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が29.1%で最も割合が高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が28.4%、「自分さえ我慢すれば、なんとかそのままやっていけると思ったから」が26.7%となっている。

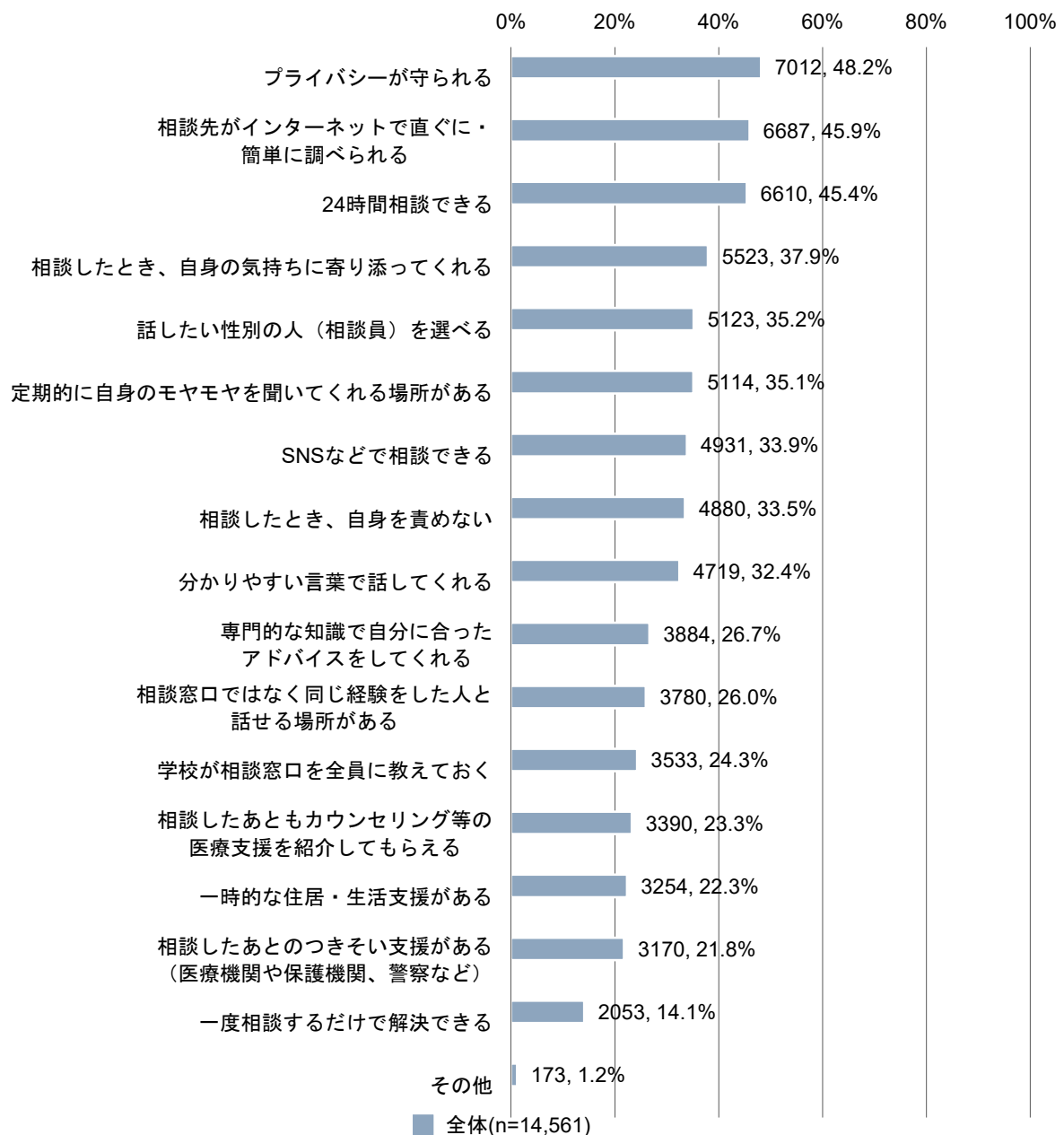
図表 75 Q23.性暴力被害について誰にも相談しなかった理由:複数回答



(4) Q24.性被害に遭ったときに利用しやすい／利用を勧めたいサービス

自分や友人・知人が性被害にあったとき、利用しやすい、または利用を勧めたいサービスについて全員を対象に把握した。その結果、「プライバシーが守られる」が48.2%で最も割合が高く、次いで「相談先がインターネットで直ぐに・簡単に調べられる」が45.9%、「24時間相談できる」が45.4%となっている。

図表 76 Q24.性被害に遭ったときに利用しやすい／利用を勧めたいサービス:複数回答



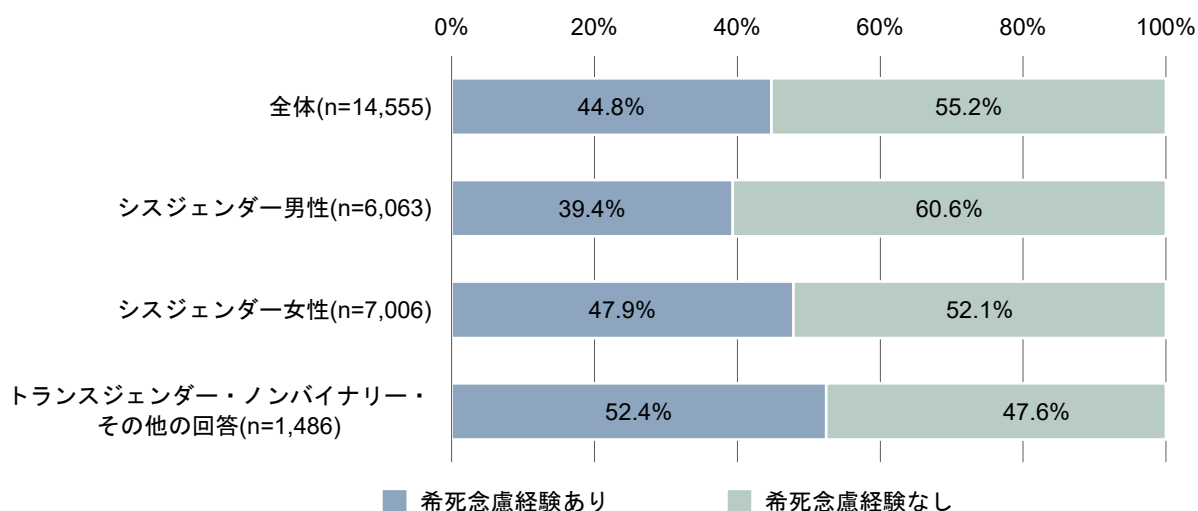
5. 希死念慮・自殺未遂・自殺準備経験

(1) Q25.希死念慮の有無

① 全体・性自認別

全体では、「希死念慮経験あり」が44.8%となっている。性自認別にみると、「シスジェンダー男性」では39.4%、「シスジェンダー女性」では47.9%、「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」では52.4%となっている。

図表 77 Q25.【性自認別】希死念慮の有無



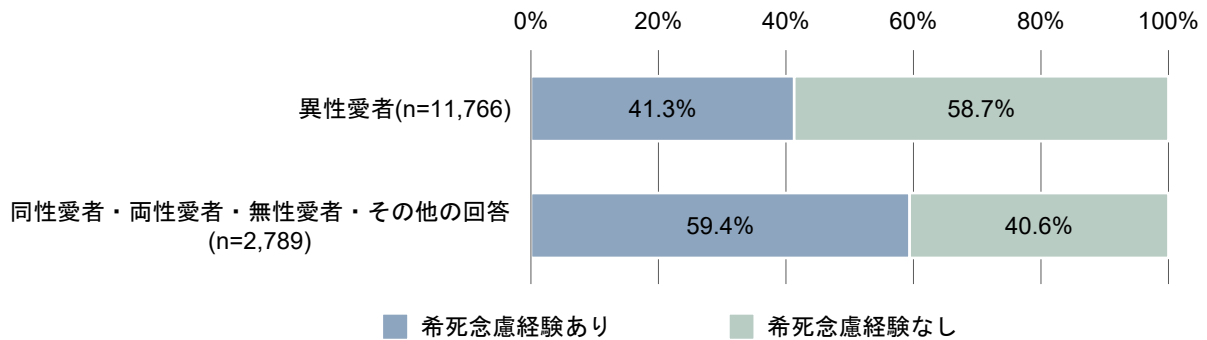
(※1)「あなたはこれまでに死ねたらと本気で思った、または自死の可能性を本気で考えたことがありますか。ある方は、そう思ったのはいつですか。」との設問に、「小学校入学前」「小学生」「中学生」「高校生(16～18歳になる年)」「大学生・専門学校生(19～22歳になる年)」「23歳以上」「時期は覚えていないが、ほとんどいつもこの状況である」「時期は覚えていないが、この状況になったことがある」を選択した者を「希死念慮経験あり」、「いずれもない」を選択した者を「希死念慮経験なし」と分類している。

(※2)グラフ内、「シスジェンダー男性」は Q1(調査票上「あなたの性別をお答えください。(出生時の戸籍・出生届の性別)」にて「男性」、Q2(調査票上「あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(Q1で選択したもの)と同じだととらえていますか。))にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、「シスジェンダー女性」は Q1にて「女性」、Q2にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」は Q2で「別の性別だととらえている」「違和感がある」「答えたくない」を選択した者を示す。

② 性的指向別

性的指向別にみると、「希死念慮経験あり」は「異性愛者」で41.3%、「同性愛者・両性愛者・無性愛者・その他の回答」で59.4%となっている。両者では18.1ポイントの差が生じている。

図表 78 Q8.【性的指向別】希死念慮の有無

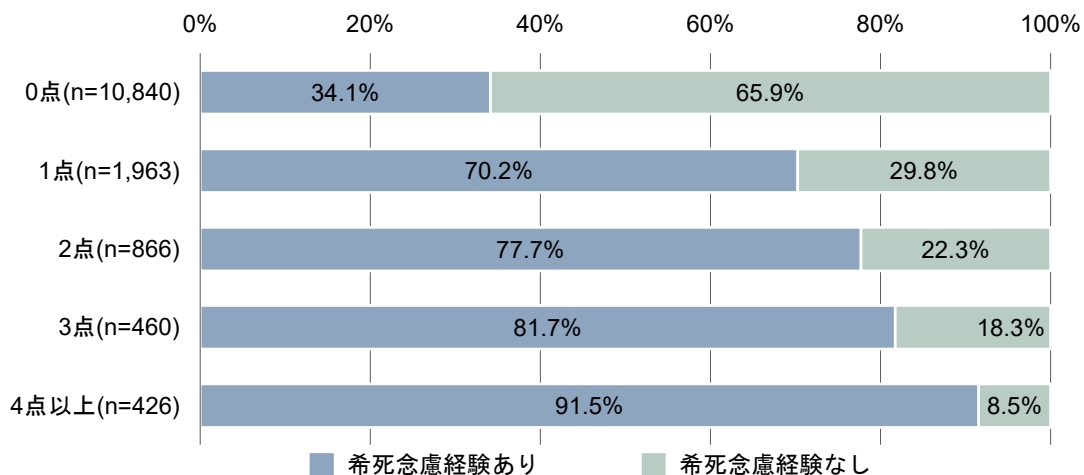


(※)グラフ内、「異性愛者」は Q4(調査票上「あなたの今の状況にもっとも近いものをお答えください」)にて「異性が好き」を選択した者、「同性愛者・両性愛者・無性愛者・その他の回答」は Q4にて「同性が好き」「両性(男性・女性ともに)が好き」「好きになる性はない」「分からない」「上記に該当しない」「答えたくない」を選択した者を示す。

③ ACE スコア別

ACE スコア別にみると、「希死念慮経験あり」は、「0点」で34.1%、「1点」で70.2%、「2点」で77.7%、「3点」で81.7%、「4点以上」で91.5%となっている。「0点」と「4点以上」は、57.4ポイントの差が生じている。

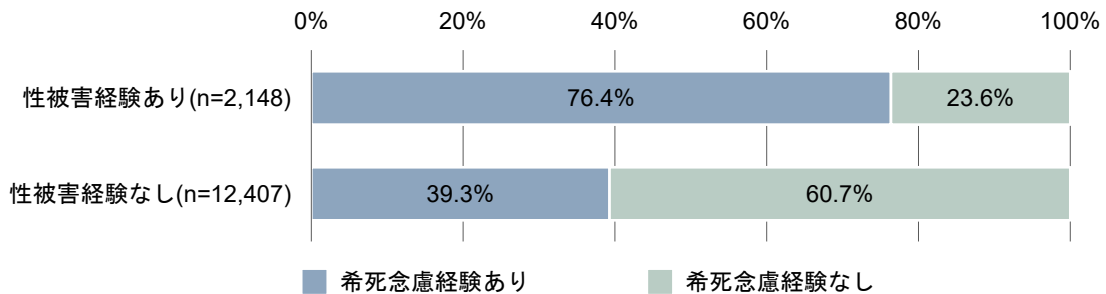
図表 79 Q25.【ACE スコア別】希死念慮の有無



④ 性被害経験の有無別

性被害経験の有無別にみると、「希死念慮経験あり」は、「性被害経験あり」で76.4%、「希死念慮経験なし」で39.3%となっており、37ポイント以上の開きとなっている。

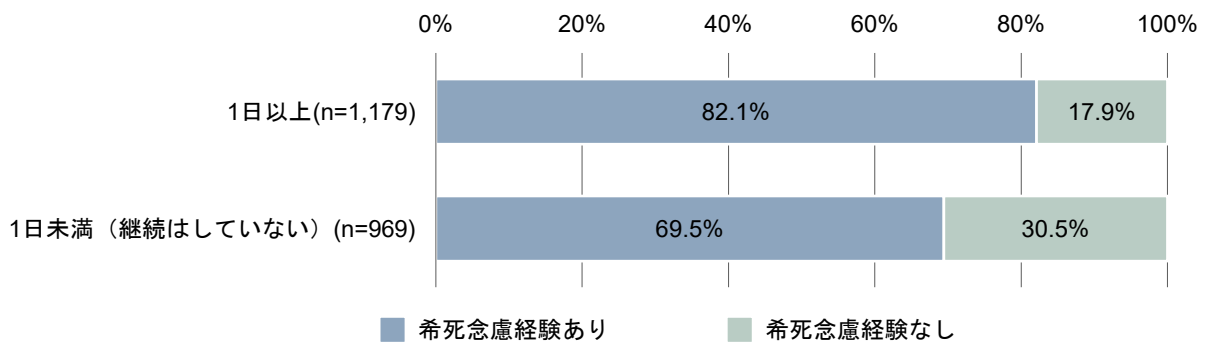
図表 80 Q25.【性被害経験の有無別】希死念慮の有無



⑤ 最も深刻な性被害の継続期間別

最も深刻な性被害の継続期間別にみると、「希死念慮経験あり」は、「1日以上」で82.1%、「1日未満（継続はしていない）」で69.5%となっている。

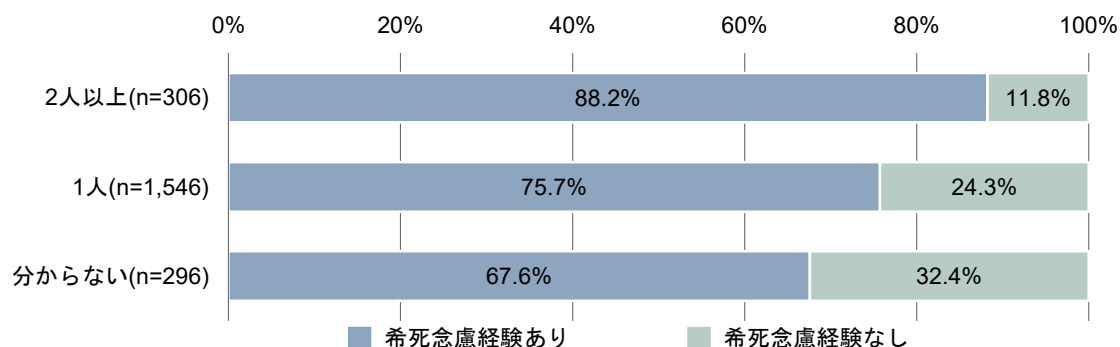
図表 81 Q25.【最も深刻な性被害の継続期間別】希死念慮の有無



⑥ 最も深刻な性被害の加害者数別

最も深刻な性被害の加害者数別にみると、「希死念慮経験あり」は、「2人以上」で88.2%、「1人」で75.7%、「分からない」で67.6%となっている。

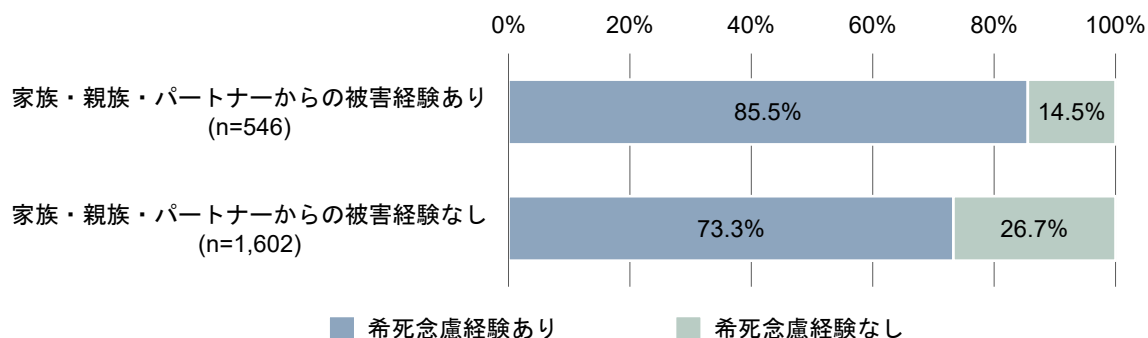
図表 82 Q25.【最も深刻な性被害の加害者数別】希死念慮の有無



⑦ 性被害経験ありのうち、家族・親族・パートナーからの被害経験の有無別

性被害経験のある回答者のうち、家族・親族・パートナーからの被害経験の有無別にみると、「希死念慮経験あり」は、「家族・親族・パートナーからの被害の経験あり」で85.5%、「家族・親族・パートナーからの被害の経験なし」で73.3%となっている。

図表 83 Q25.【家族・親族・パートナーからの被害経験の有無別】希死念慮の有無

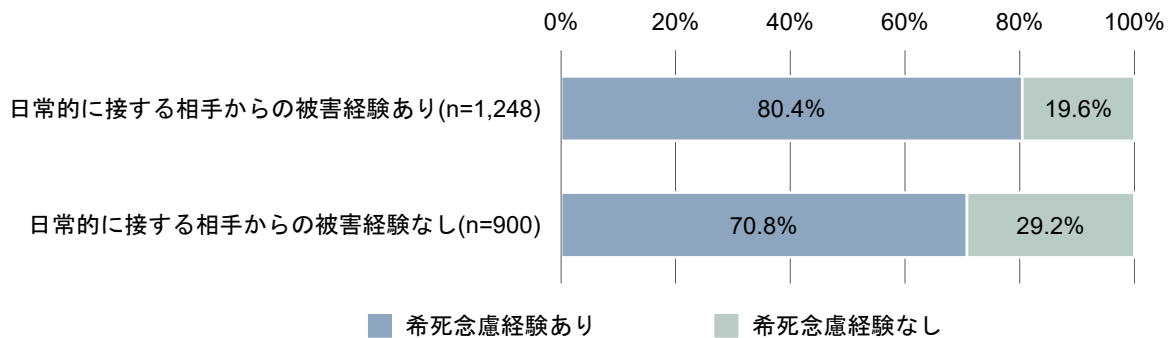


(※)「家族・親族・パートナーからの被害の経験あり」は、Q11にて「配偶者(事実婚を含む)・元配偶者・パートナー・元パートナー」「親(育ての親、義理の親を除く)」「育ての親、義理の親、親の交際相手」「祖父母」「きょうだい」「上記以外の親族」を回答した場合を指す。「家族・親族・パートナーからの被害の経験なし」は、Q8にていずれかの性暴力経験がある者のうち、加害者が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

⑧ 性被害経験ありのうち、日常的に接する相手からの被害経験の有無別

性被害経験のある回答者のうち、日常的に接する相手からの被害経験の有無別にみると、「希死念慮経験あり」は、「日常的に接する相手からの被害経験あり」で 80.4%、「日常的に接する相手からの被害経験なし」で 70.8%となっている。

図表 84 Q25.【日常的に接する相手からの被害経験の有無別】希死念慮の有無

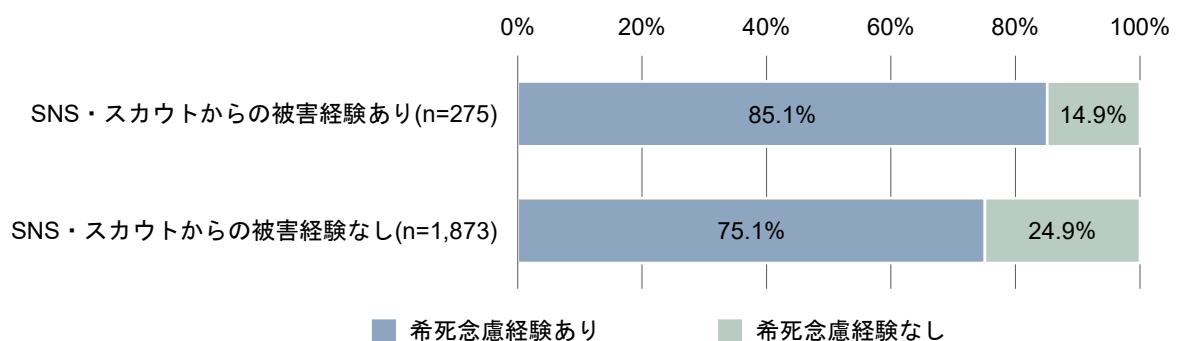


(※)「日常的に接する相手からの被害経験あり」は、Q11 にて「通っていた(いる)学校・大学の教職員、クラブ活動の指導者など」、「通っていた(いる)学校・大学の先輩、同級生、仲間など」、「地域活動や習い事の関係者(指導者、先輩、仲間など)」、「職場・アルバイト先の関係者(上司、同僚、部下、取引先の相手など)」、「職場・アルバイト先の客」、「生活していた(いる)施設の関係者(職員、先輩、仲間、里親など)」を回答した場合を指す。「日常的に接する相手からの被害経験なし」は、Q8 にていずれかの性暴力経験がある者のうち、加害者が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

⑨ 性被害経験ありのうち、SNS・スカウトからの被害経験の有無別

性被害経験のある回答者のうち、SNS・スカウトからの被害経験の有無別にみると、「希死念慮経験あり」は、「SNS・スカウトからの被害経験あり」で 85.1%、「SNS・スカウトからの被害経験なし」で 75.1%となっている。

図表 85 Q25.【SNS・スカウトからの被害経験の有無別】希死念慮の有無

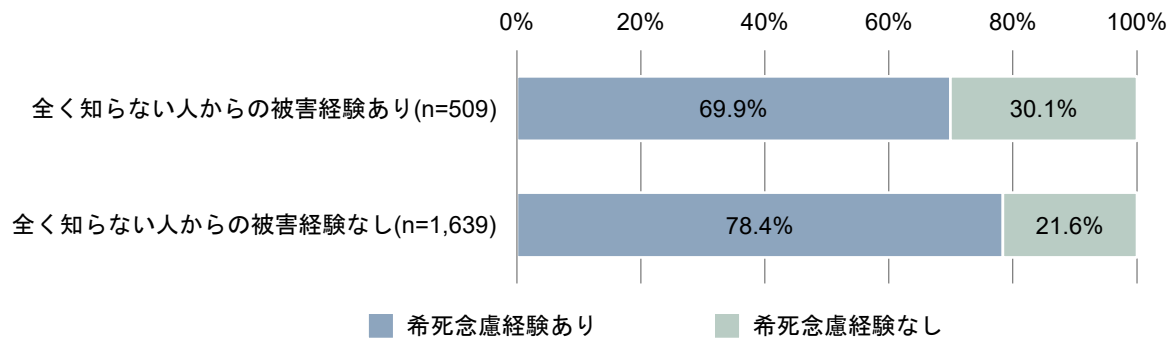


(※)「SNS・スカウトからの被害経験あり」は、Q11 にて「SNS などインターネット上で初めて知り合った人」、「芸能プロダクションへのスカウトや高収入バイトの勧誘などを名乗る人」を回答した場合を指す。「SNS・スカウトからの被害経験なし」は、Q8 にていずれかの性暴力経験がある者のうち、加害者が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

⑩ 性被害経験ありのうち、全く知らない人からの被害経験の有無別

性被害経験のある回答者のうち、全く知らない人からの被害経験の有無別にみると、「希死念慮経験あり」は、「全く知らない人からの被害経験あり」で 69.9%、「全く知らない人からの被害経験なし」で 78.4%となっている。

図表 86 Q25.【全く知らない人からの被害経験の有無別】希死念慮の有無



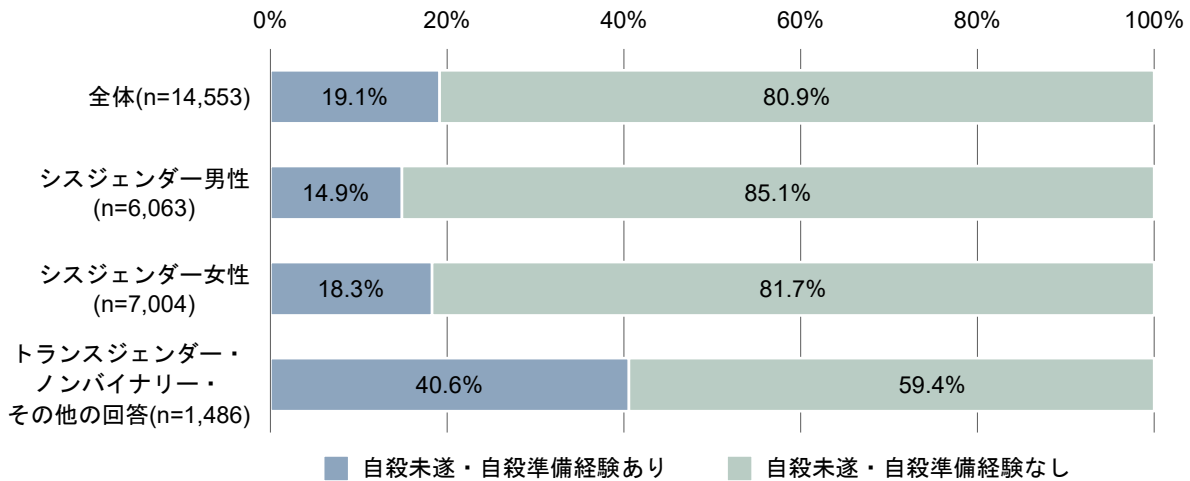
(※)「全く知らない人からの被害経験あり」は、Q11 にて「まったく知らない人」を回答した場合を指す。「全く知らない人からの被害経験なし」は、Q8 にていずれかの性暴力経験がある者のうち、加害者が上記以外だった場合を指す。以下、同様。

(2) Q26.自殺未遂・自殺準備経験の有無

① 全体・性自認別

全体では、「自殺未遂・自殺準備経験あり」が19.1%となっている。性自認別にみると、「シスジェンダー男性」では14.9%、「シスジェンダー女性」では18.3%、「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」では40.6%となっている。

図表 87 Q26.【性自認別】自殺未遂・自殺準備経験の有無

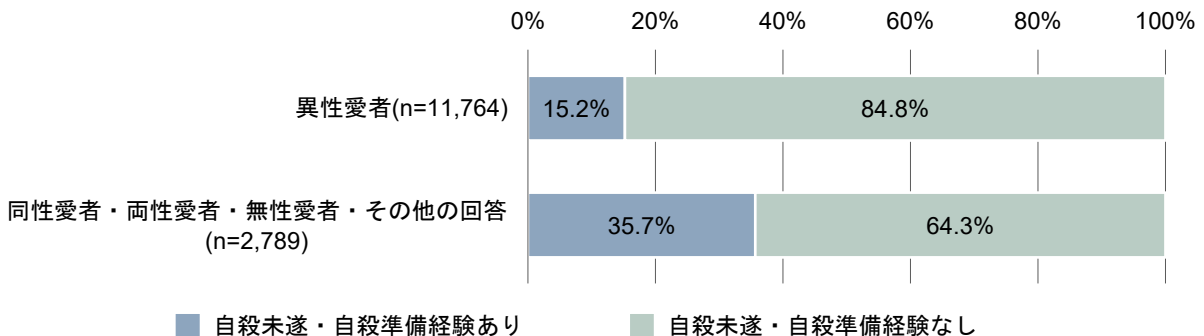


(※1)「あなたはこれまでに自殺を図った、または遺書を書くなどの自殺の準備をしたことがありますか。」との設問に、「小学校入学前」「小学生」「中学生」「高校生(16～18歳になる年)」「大学生・専門学校生(19～22歳になる年)」「23歳以上」「時期は覚えていないが、ほとんどいつもこの状況である」「時期は覚えていないが、この状況になったことがある」を選択した者を「自殺未遂・自殺準備経験あり」、「いずれもない」を選択した者を「自殺未遂・自殺準備経験なし」と分類している。
 (※2)グラフ内、「シスジェンダー男性」は Q1(調査票上「あなたの性別をお答えください。(出生時の戸籍・出生届の性別)」にて「男性」、Q2(調査票上「あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(Q1で選択したもの)と同じだととらえていますか。))にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、「シスジェンダー女性」は Q1にて「女性」、Q2にて「出生時の性別と同じ」を選択した者、「トランスジェンダー・ノンバイナリー・その他の回答」は Q2で「別の性別だととらえている」「違和感がある」「答えたくない」を選択した者を示す。

② 性的指向別

性的指向別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は「異性愛者」で15.2%、「同性愛者・両性愛者・無性愛者・その他の回答」で35.7%となっている。両者では20.5ポイントの差が生じている。

図表 88 Q8.【性的指向別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



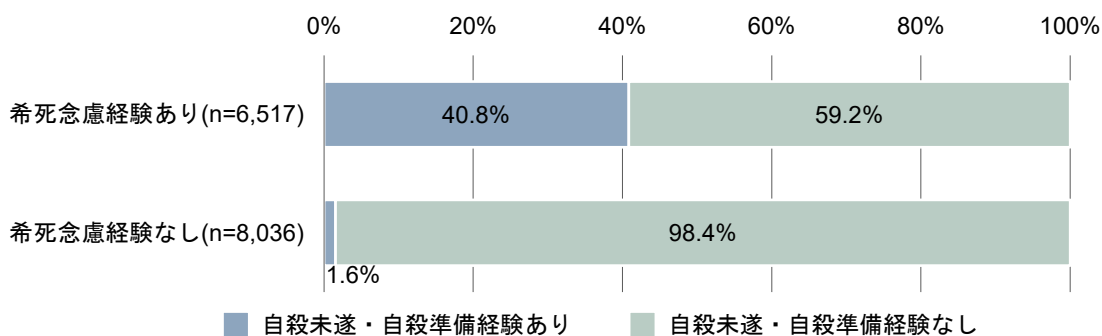
(※)グラフ内、「異性愛者」は Q4(調査票上「あなたの今の状況にもっとも近いものをお答えください」)にて「異性が好き」

を選択した者、「同性愛者・両性愛者・無性愛者・その他の回答」は Q4 にて「同性が好き」「両性(男性・女性ともに)が好き」「好きになる性はない」「分からない」「上記に該当しない」「答えたくない」を選択した者を示す。

③ 希死念慮の有無別

希死念慮の有無別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「希死念慮経験あり」で 40.8% となっている。

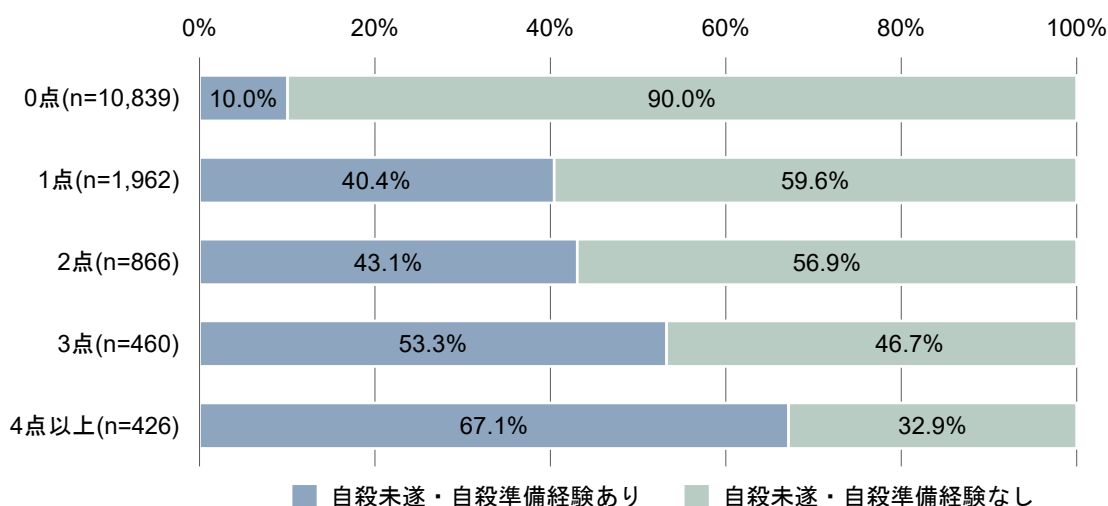
図表 89 Q26. 【希死念慮の有無別】 自殺未遂・自殺準備経験の有無



④ ACE スコア別

ACE スコア別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「0 点」で 10.0%、「1 点」で 40.4%、「2 点」で 43.1%、「3 点」で 53.3%、「4 点以上」で 67.1%となっている。「0 点」と「4 点以上」は、57.1 ポイントの差が生じている。

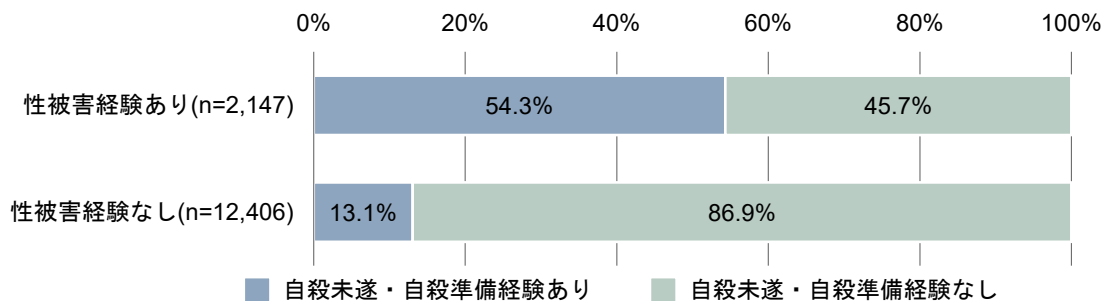
図表 90 Q26. 【ACE スコア別】 自殺未遂・自殺準備経験の有無



⑤ 性被害経験の有無別

性被害経験の有無別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「性被害経験あり」で54.3%、「性被害経験なし」で13.1%となっている。

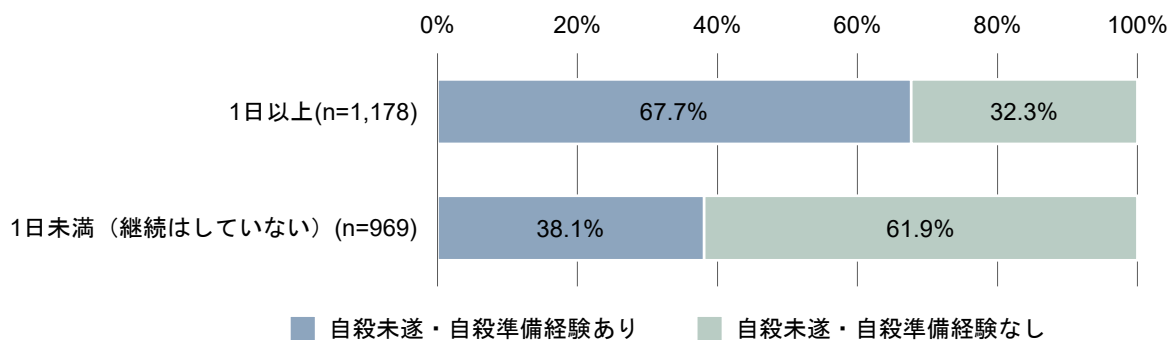
図表 91 Q26.【性被害経験の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



⑥ 最も深刻な性被害期間別

最も深刻な性被害期間別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「1日以上」で67.7%、「1日未満（継続はしていない）」で38.1%となっている。

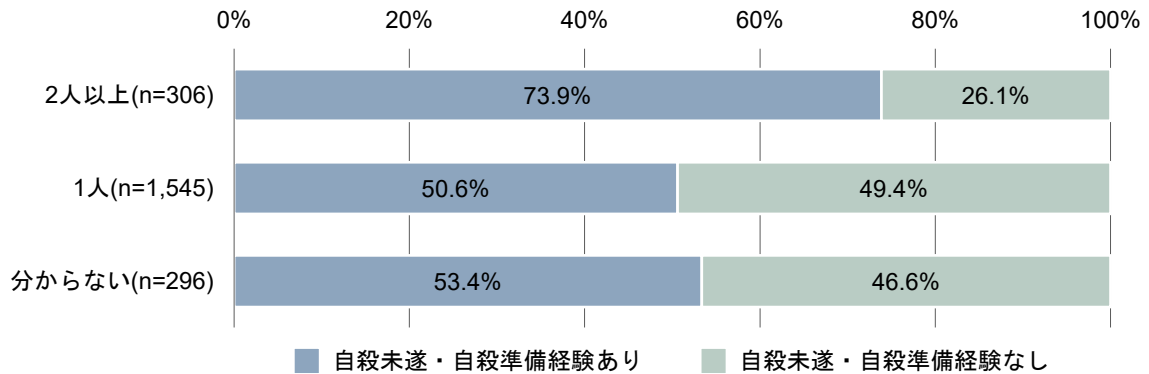
図表 92 Q26.【最も深刻な性被害の期間別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



⑦ 最も深刻な性被害の加害者数別

最も深刻な性被害の加害者数別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「2人以上」で73.9%、「1人」で50.6%、「分からない」で53.4%となっている。

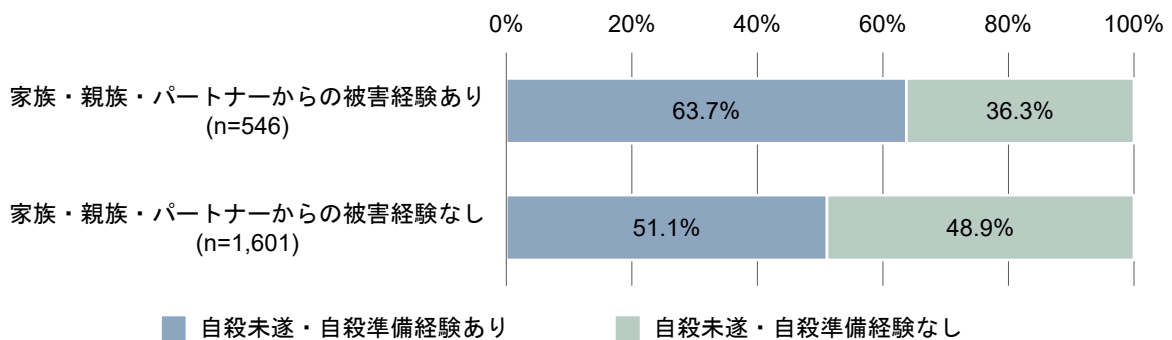
図表 93 Q26.【最も深刻な性被害の加害者数別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



⑧ 性被害経験ありのうち、家族・親族・パートナーからの被害経験の有無別

家族・親族・パートナーからの被害経験の有無別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「家族・親族・パートナーからの被害経験あり」で63.7%、「家族・親族・パートナーからの被害経験なし」で51.1%となっている。

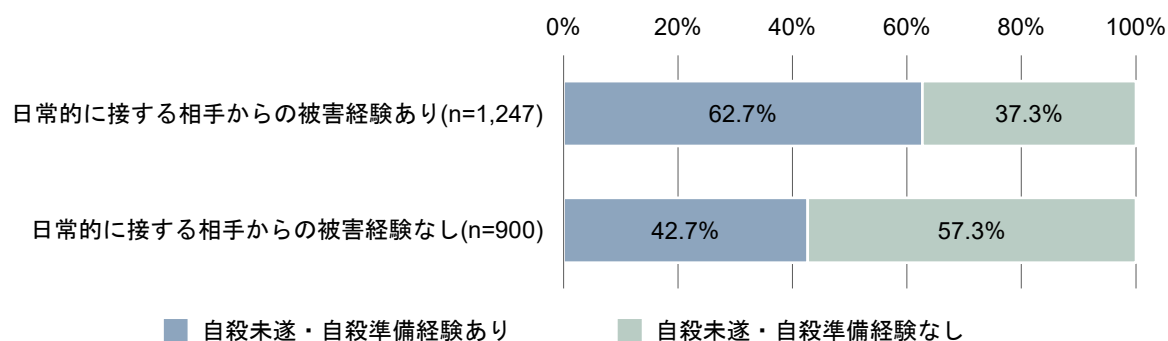
図表 94 Q26.【家族・親族・パートナーからの被害経験の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



⑨ 性被害経験ありのうち、日常的に接する相手からの被害経験の有無別

日常的に接する相手からの被害経験の有無別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「日常的に接する相手からの被害経験あり」で 62.7%、「日常的に接する相手からの被害経験なし」で 42.7%となっている。

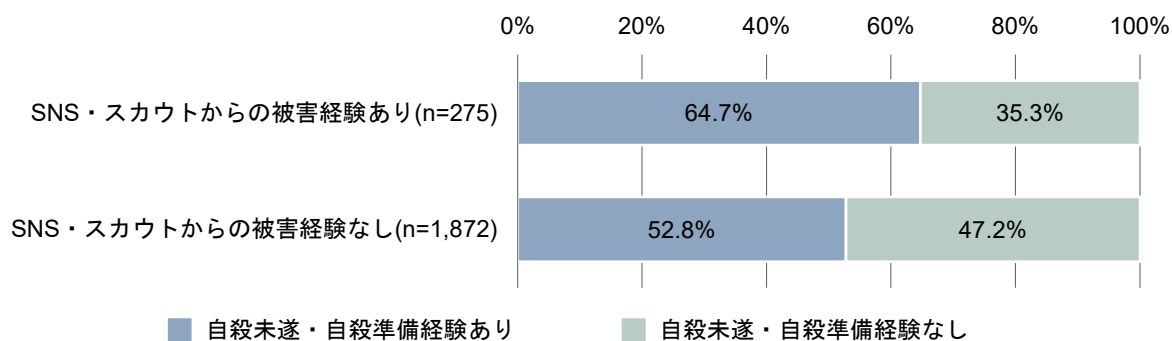
図表 95 Q26.【日常的に接する相手からの被害経験の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



⑩ 性被害経験ありのうち、SNS・スカウトからの被害経験の有無別

SNS・スカウトからの被害経験の有無別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「SNS・スカウトからの被害経験あり」で 64.7%、「SNS・スカウトからの被害経験なし」で 52.8%となっている。

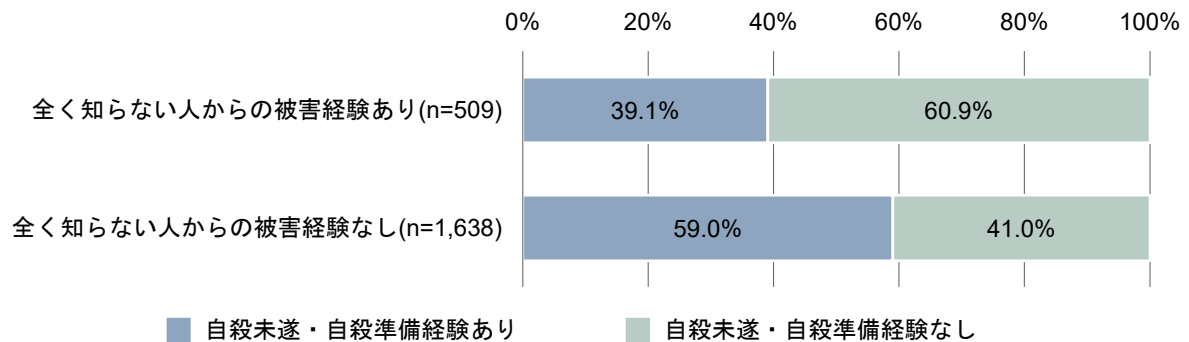
図表 96 Q26.【SNS・スカウトからの被害経験の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



⑪ 性被害経験ありのうち、全く知らない人からの被害経験の有無別

全く知らない人からの被害経験の有無別にみると、「自殺未遂・自殺準備経験あり」は、「全く知らない人からの被害経験あり」で 39.1%、「全く知らない人からの被害経験なし」で 59.0%となっている。

図表 97 Q26.【全く知らない人からの被害経験の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無

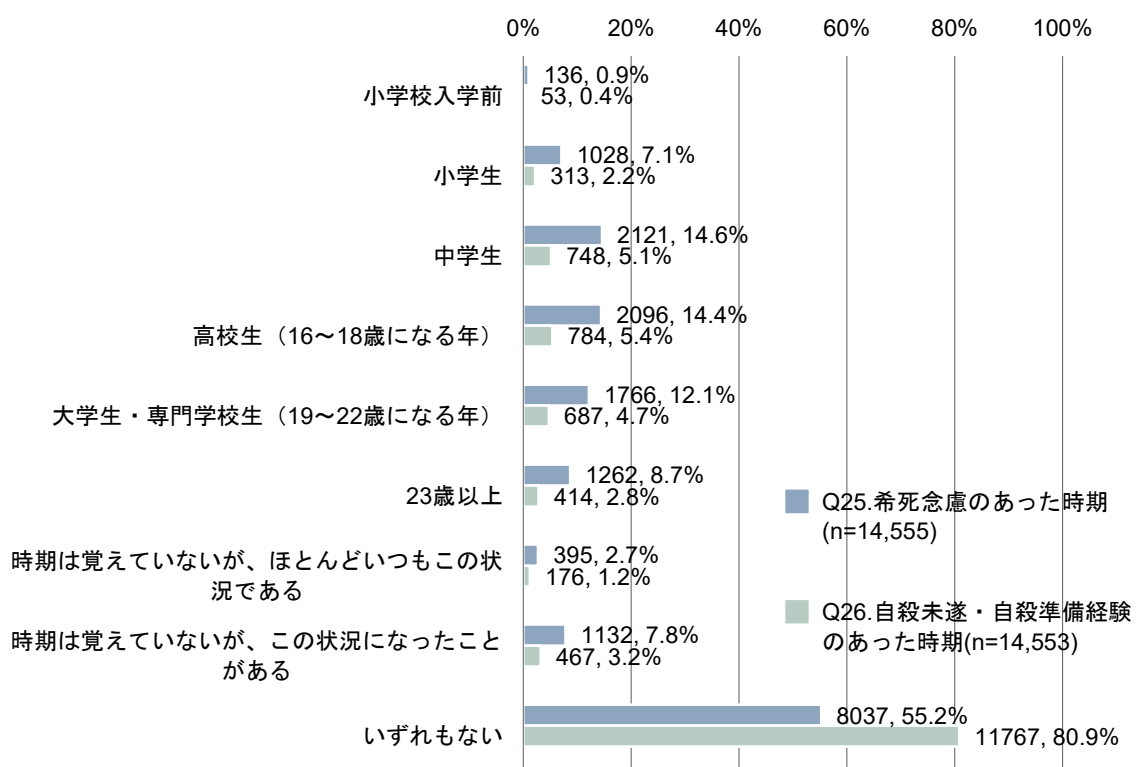


(3) Q25.Q26 希死念慮／自殺未遂・自殺準備のあった時期

希死念慮のあった時期をみると、「いずれもない」が 55.2%で最も割合が高く、次いで「中学生」が 14.6%、「高校生（16～18歳になる年）」が 14.4%となっている。

自殺未遂・自殺準備のあった時期をみると、「いずれもない」が 80.9%で最も割合が高く、次いで「高校生（16～18歳になる年）」が 5.4%、「中学生」が 5.1%となっている。

図表 98 Q25,Q26.希死念慮／自殺未遂のあった時期:複数回答



(4) Q27.希死念慮の要因になりうる経験

① 希死念慮の要因になり得る経験が最も深刻な時期

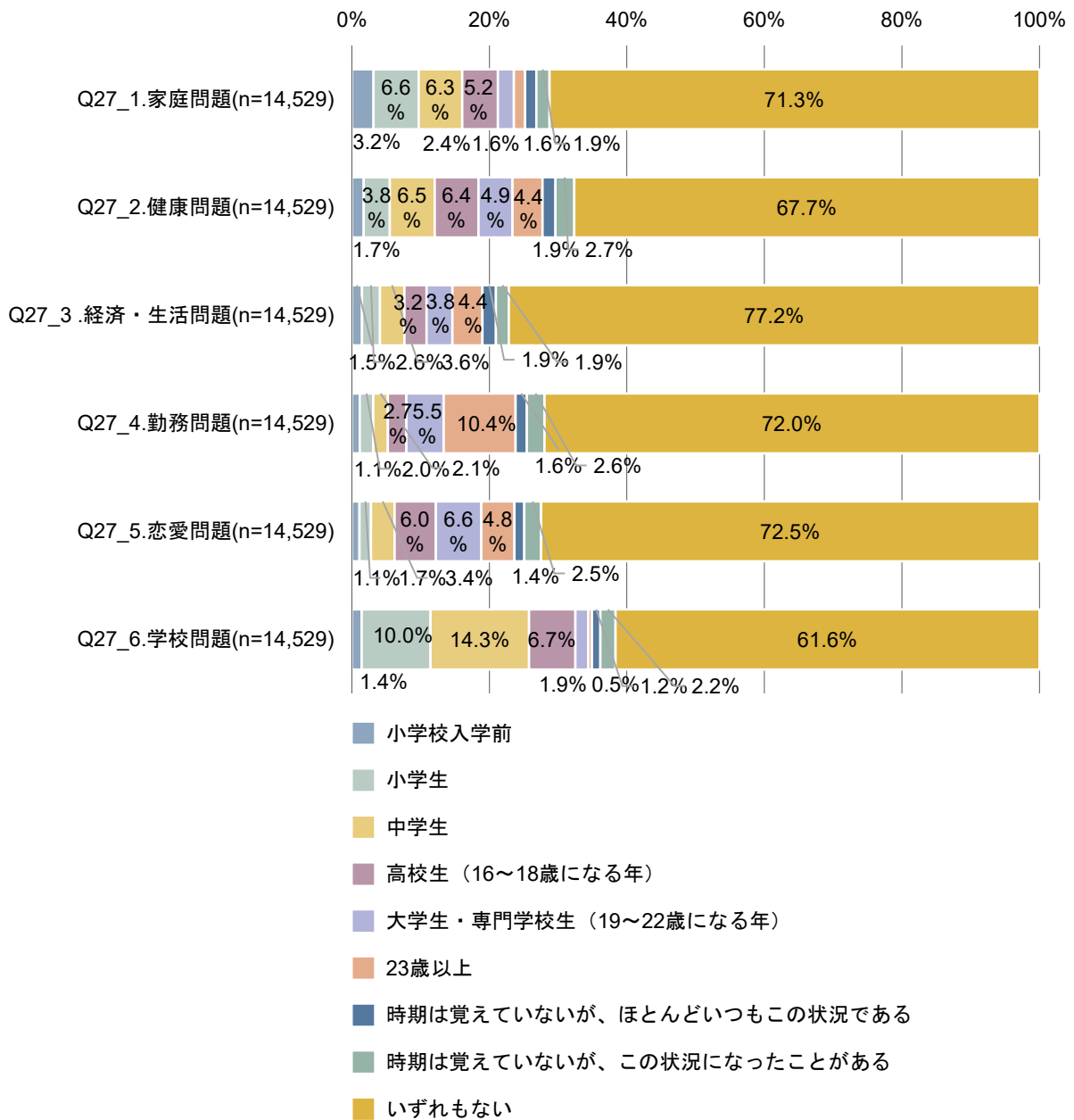
警視庁自殺統計⁹にて自殺の原因・動機として項目が立てられている「家庭問題」「健康問題」「経済・生活問題」「勤務問題」「男女問題」「学校問題」のそれぞれについて、経験の有無及び最も深刻な時期を把握した。なお、「男女問題」は日本財団調査チームの議論を踏まえ、回答者にとって理解しやすくするための観点から「恋愛問題」と表記した。

全区分別に見ると、「いずれもない」が最も低いのは「学校問題」で61.6%となり、次いで「健康問題」が67.7%となっている。「勤務問題」では「23歳以上」(10.4%)、「学校問題」では、「中学生」(14.3%)、「小学生」(10.0%)が最も深刻と回答する割合が高い傾向がみられる。「家庭問題」は「小学生」～「高校生(16～18歳になる年)」まで約5%ずつ回答がみられる。

⁹ 厚生労働省「自殺の統計：各年の状況」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jisatsu_year.html
(2023年2月21日最終確認)

図表 99 Q27.希死念慮の要因になりうる経験が最も深刻な時期:単数回答

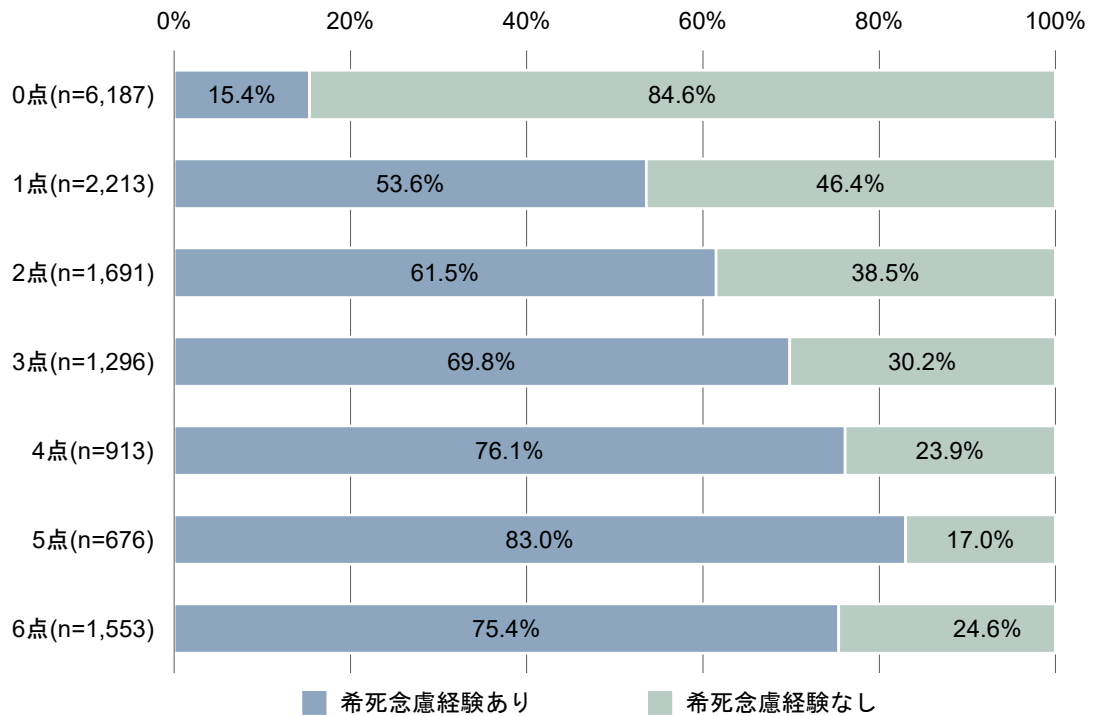


(※)調査票上では、「家庭問題(家庭関係の不和、子育て、家族の介護・看病 等)」、「健康問題(自分の病気の悩み、体の悩み 等)」、「経済・生活問題(貧困、倒産、事業不振、負債、失業 等)」、「勤務問題(転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働 等)」、「恋愛問題(失恋、結婚をめぐる悩み 等)」、「学校問題(いじめ、学業不振、教師との人間関係 等)」と記載した。以下、同様。

Q27の「家庭問題」～「学校問題」について、「いずれもない」以外を回答した場合を1点として、6点満点で得点化した。点数が高いほど、回答者本人が複合的な問題を抱えていることを示すが、この得点別に希死念慮経験及び自殺未遂・自殺準備経験の有無を把握したところ、「希死念慮経験あり」については、0点と1点で38.2ポイントの差が開いている。また「自殺未遂・自殺準備経験あり」については、得点が高いほど回答割合が高くなっている。

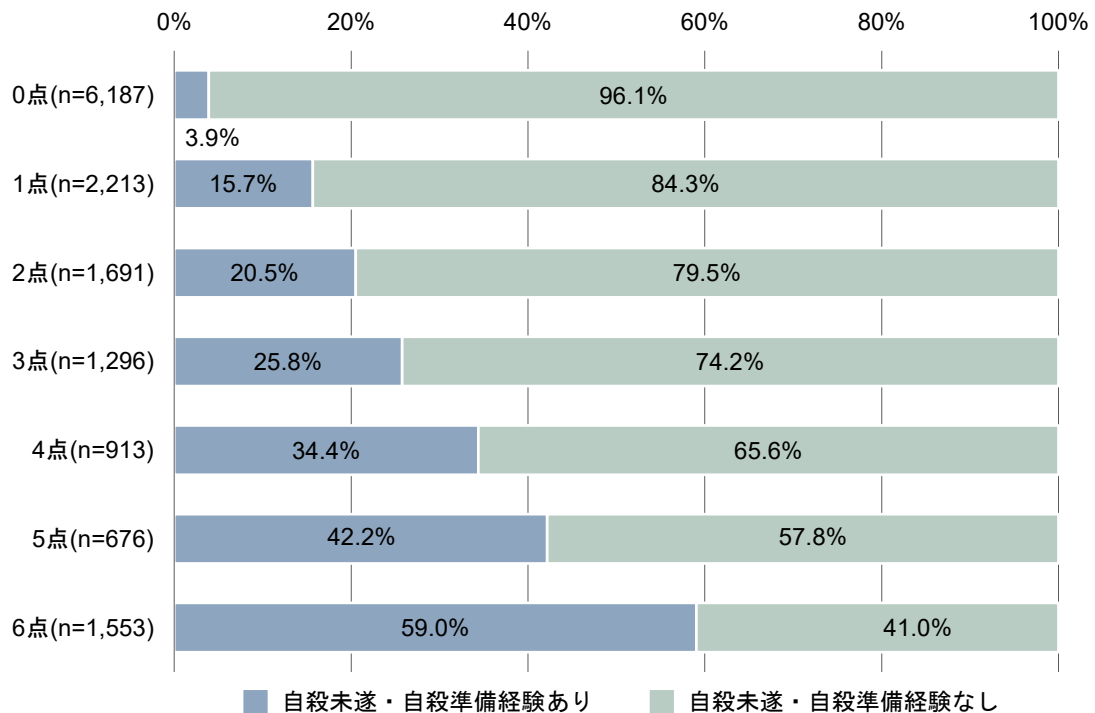
② 希死念慮の要因になりうる経験の得点別に見た希死念慮の状況

図表 100 【希死念慮の要因になりうる経験の得点別】希死念慮の有無



③ 希死念慮の要因になりうる経験の得点別に見た自殺未遂・自殺準備の状況

図表 101 【希死念慮の要因になりうる経験の得点別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



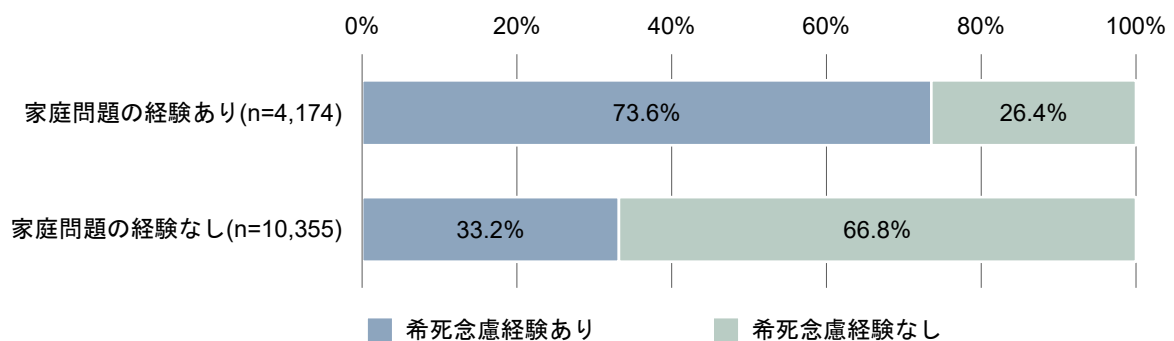
④ 希死念慮の要因になりうる経験別にみた希死念慮の状況

Q27の「家族問題」～「学校問題」について、それぞれ「小学校入学前」～「時期は覚えていないが、この状況になったことがある」を回答した者を「経験あり」、「いずれもない」を「経験なし」として、各経験別に希死念慮の有無を把握した。(図表 102～図表 107)

<家庭問題の有無別>

「希死念慮経験あり」の割合は、「家庭問題の経験あり」で73.6%、「家庭問題の経験なし」で33.2%となっている。

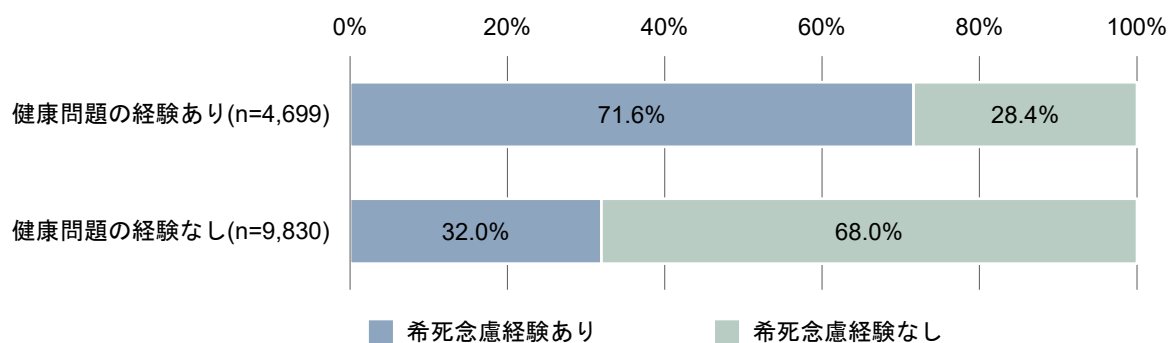
図表 102 Q27_1.【家庭問題の有無別】希死念慮の有無



<健康問題の有無別>

「希死念慮経験あり」の割合は、「健康問題の経験あり」で71.6%、「健康問題の経験なし」で32.0%となっている。

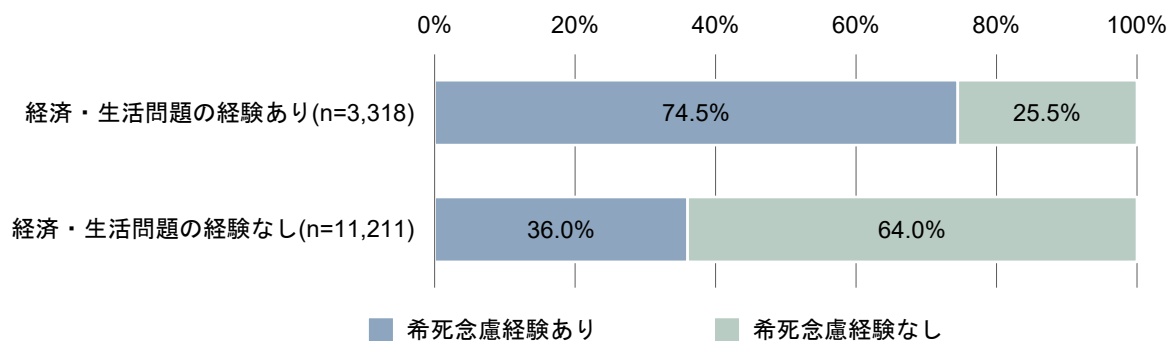
図表 103 Q27_2.【健康問題の有無別】希死念慮の有無



<経済・生活問題の有無別>

「希死念慮経験あり」の割合は、「経済・生活問題の経験あり」で74.5%、「経済・生活問題の経験なし」で36.0%となっている。

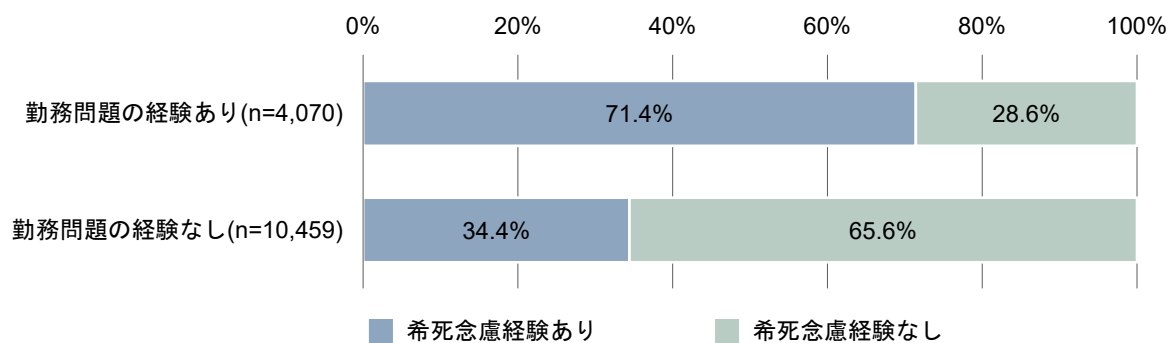
図表 104 Q27_3.【経済・生活問題の有無別】希死念慮の有無



<勤務問題の有無別>

「希死念慮経験あり」の割合は、「勤務問題の経験あり」で71.4%、「勤務問題の経験なし」で34.4%となっている。

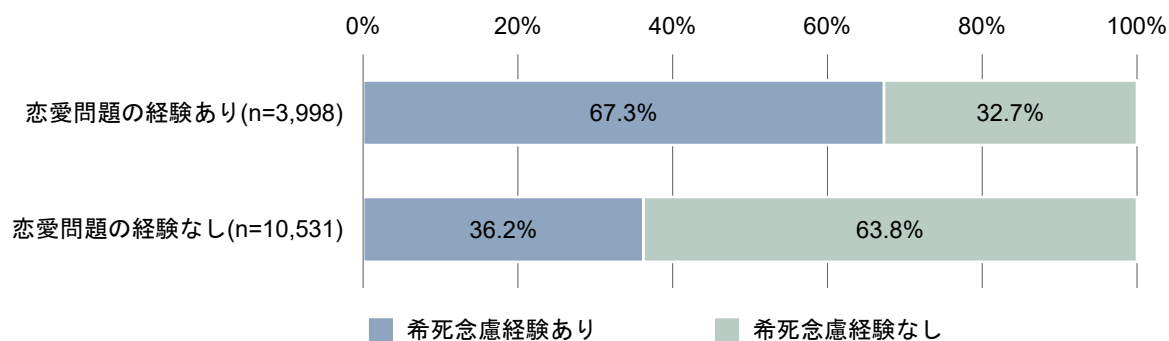
図表 105 Q27_4.【勤務問題の有無別】希死念慮の有無



<恋愛問題の有無別>

「希死念慮経験あり」の割合は、「恋愛問題の経験あり」で67.3%、「恋愛問題の経験なし」で36.2%となっている。

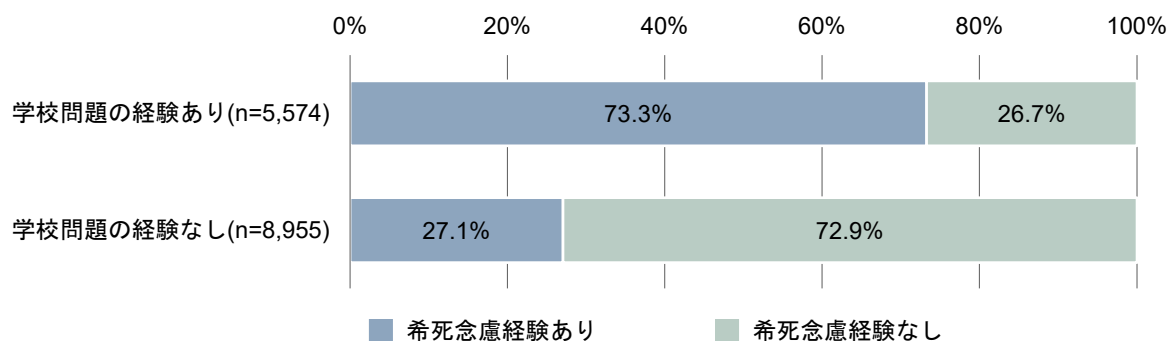
図表 106 Q27_5.【恋愛問題の有無別】希死念慮の有無



<学校問題の有無別>

「希死念慮経験あり」の割合は、「学校問題の経験あり」で73.3%、「学校問題の経験なし」で27.1%となっている。

図表 107 Q27_6.【学校問題の有無別】希死念慮の有無



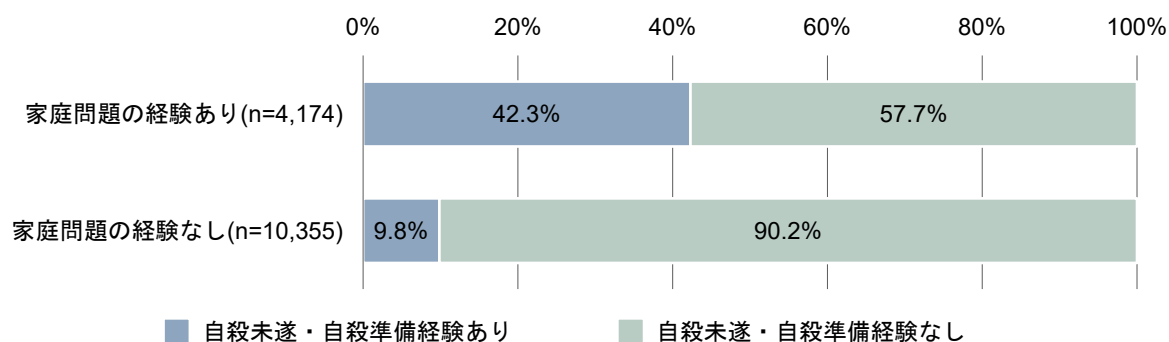
⑤ 希死念慮の要因になりうる経験別にみた自殺未遂・自殺準備経験の状況

同様に、Q27の「家族問題」～「学校問題」について、「小学校入学前」～「時期は覚えていないが、この状況になったことがある」を回答した者を「経験あり」、「いずれもない」を「経験なし」として、経験別に自殺未遂・自殺準備経験の有無を把握した。(図表 108～図表 113)

<家族問題の有無別>

「自殺未遂・自殺準備経験あり」の割合は、「家族問題の経験あり」で42.3%、「家族問題の経験なし」で9.8%となっている。

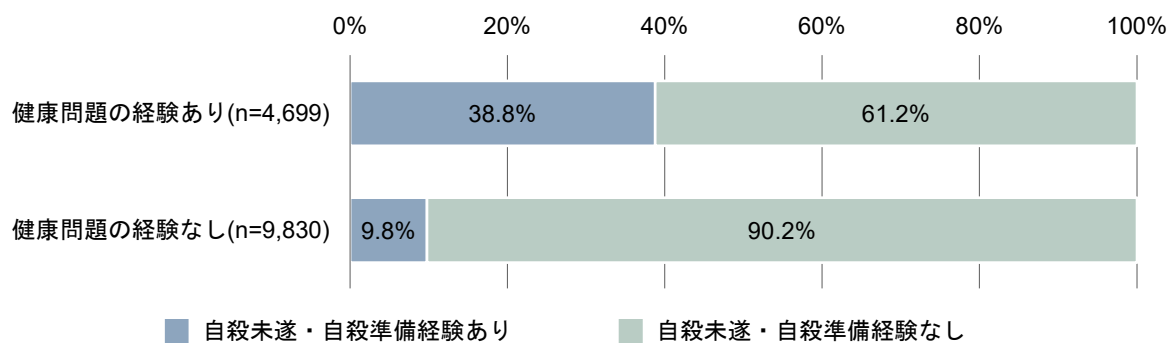
図表 108 Q27_1.【家族問題の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



<健康問題の有無別>

「自殺未遂・自殺準備経験あり」の割合は、「健康問題の経験あり」で38.8%、「健康問題の経験なし」で9.8%となっている。

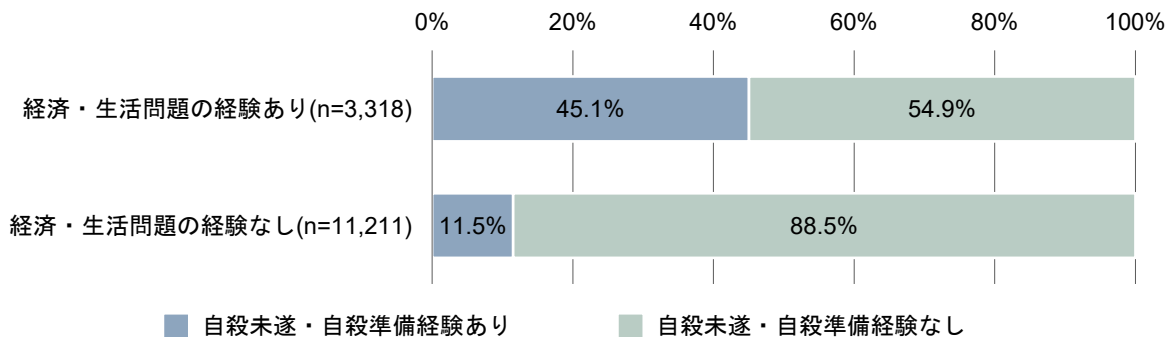
図表 109 Q27_2.【健康問題の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



<経済・生活問題の有無別>

「自殺未遂・自殺準備経験あり」の割合は、「経済・生活問題の経験あり」で45.1%、「経済・生活問題の経験なし」で11.5%となっている。

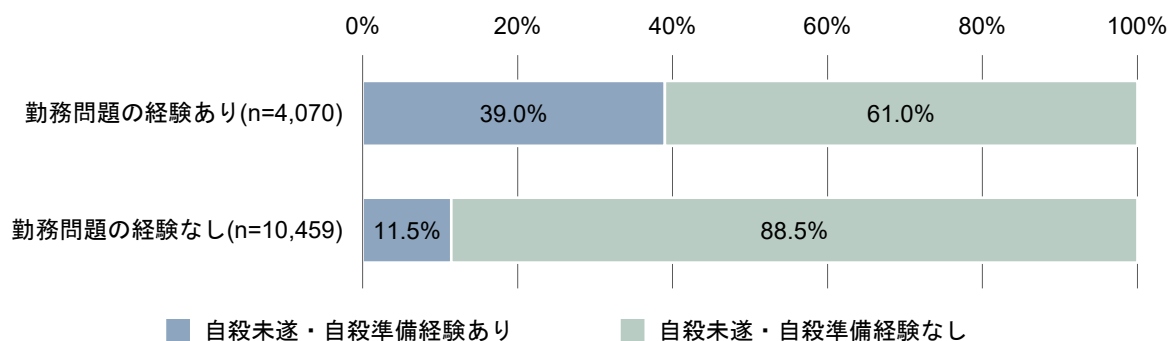
図表 110 Q27_3.【経済・生活問題の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



<勤務問題の有無別>

「自殺未遂・自殺準備経験あり」の割合は、「勤務問題の経験あり」で39.0%、「勤務問題の経験なし」で11.5%となっている。

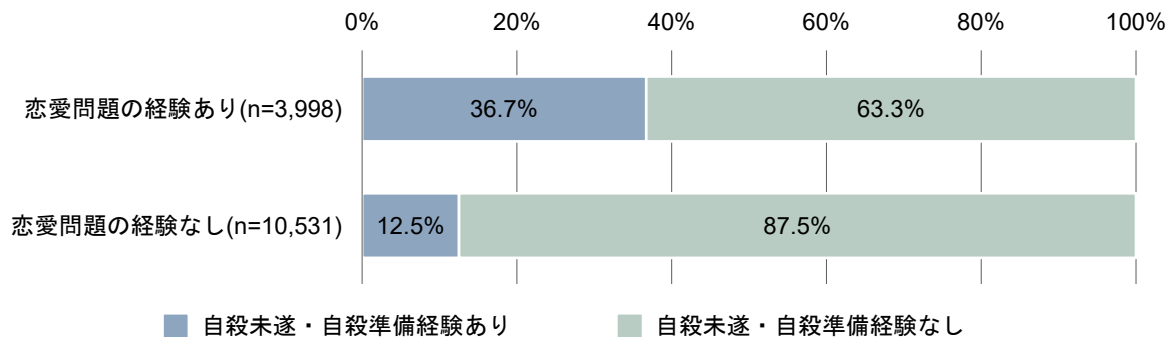
図表 111 Q27_4.【勤務問題の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



<恋愛問題の有無別>

「自殺未遂・自殺準備経験あり」の割合は、「恋愛問題の経験あり」で36.7%、「恋愛問題の経験なし」で12.5%となっている。

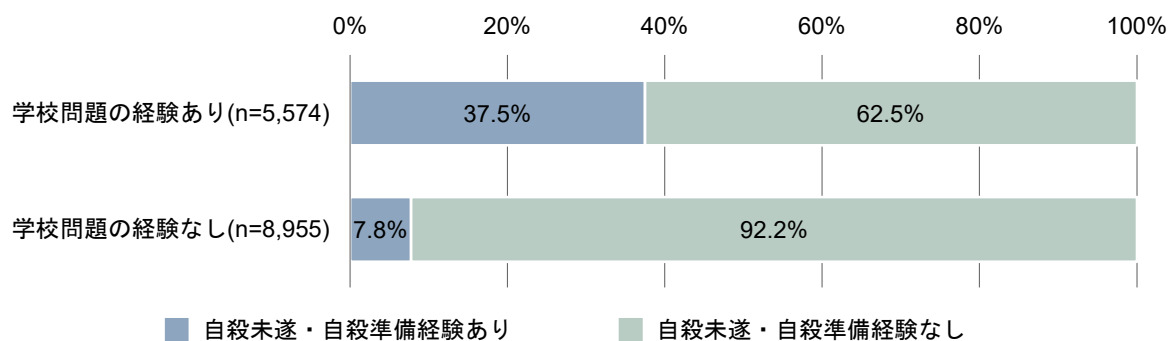
図表 112 Q27_5.【恋愛問題の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



<学校問題の有無別>

「自殺未遂・自殺準備経験あり」の割合は、「学校問題の経験あり」で37.5%、「学校問題の経験なし」で7.8%となっている。

図表 113 Q27_6.【学校問題の有無別】自殺未遂・自殺準備経験の有無



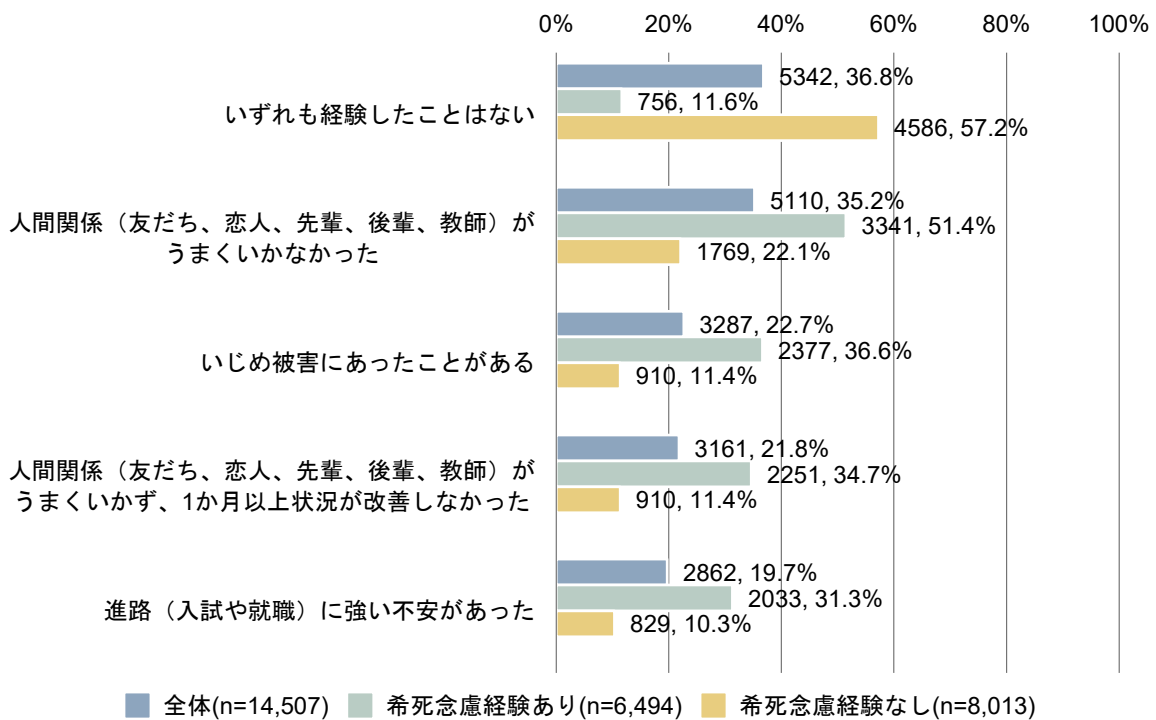
(5) Q28.希死念慮の要因になりうる経験（詳細）

Q27 の分類とは別に希死念慮の要因になりうる経験の詳細を把握することを目的に先行研究等¹⁰で希死念慮の要因として位置づけられている全 28 項目を設定した。その結果について、図表 114 にて上位 5 位を示した。全体において最も割合が高いのは、「いずれも経験したことはない」(36.8%)、次いで「人間関係(友だち、恋人、先輩、後輩、教師)がうまくいかなかった」が 35.2%、「いじめ被害にあったことがある」が 22.7%となっている。

なお、希死念慮の有無別に見ると、「希死念慮経験あり」では、「人間関係(友だち、恋人、先輩、後輩、教師)がうまくいかなかった」が 51.4%で最も割合が高く、次いで「いじめ被害にあったことがある」が 36.6%、「人間関係(友だち、恋人、先輩、後輩、教師)がうまくいかず、1 か月以上状況が改善しなかった」が 34.7%となっている。「希死念慮経験なし」では、「いずれも経験したことはない」が 57.2%で最も割合が高く、次いで「人間関係(友だち、恋人、先輩、後輩、教師)がうまくいかなかった」が 22.1%、「いじめ被害にあったことがある」「人間関係(友だち、恋人、先輩、後輩、教師)がうまくいかず、1 か月以上状況が改善しなかった」が 11.4%となっている。

¹⁰ 主に日本財団における自殺意識調査（特に第3回補充調査（18～22歳））の結果および令和元年（平成31年）及び令和2年（暫定値）における児童生徒の自殺者数の原因・動機別表（令和2年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集（R3.2）（文部科学省））、「わが国における都会の若者の自殺未遂経験割合とその関連要因に関する研究—大阪の繁華街での街頭調査の結果から—」（2001）（日高庸晴 他）を基に、日本財団調査チームでの協議により、人間関係、死別・離別、いじめ、暴力・虐待（性暴力を除く）、不登校、学業成績、仕事・その他の分類を設定。

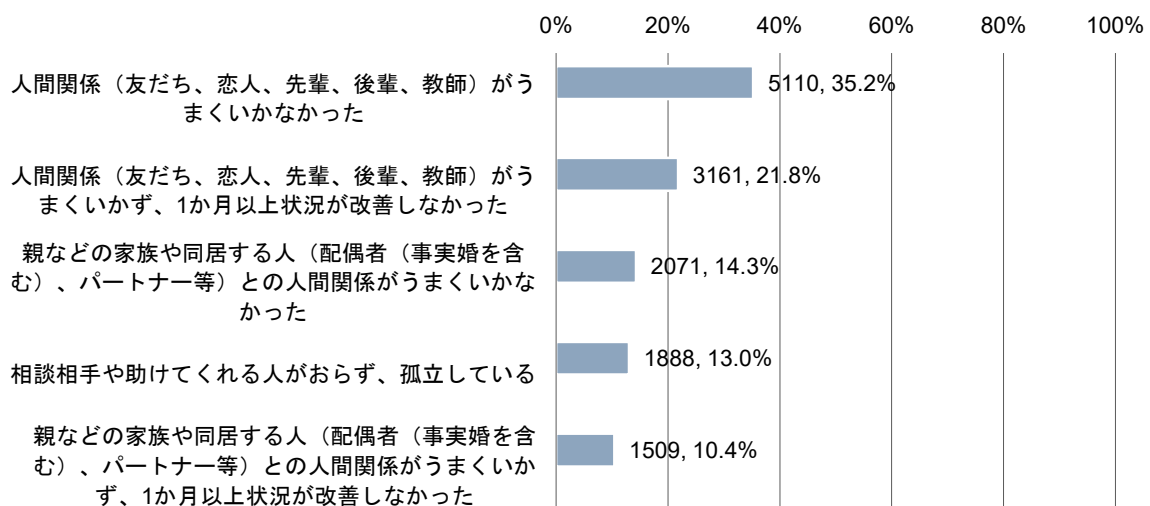
図表 114 Q28.【希死念慮の有無別・上位5位】希死念慮の要因になりうる経験の有無
:複数回答



以下、図表 115～図表 121 では、Q28 の全項目について「人間関係」「死別・離別」「いじめ」「暴力、虐待」「不登校」「学業成績」「仕事、その他」の7カテゴリごとに結果を示している。

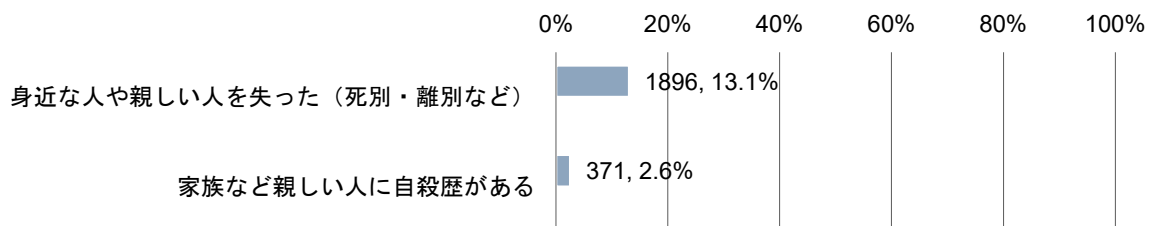
① 人間関係

図表 115 Q28.【人間関係】希死念慮の要因になりうる経験:複数回答



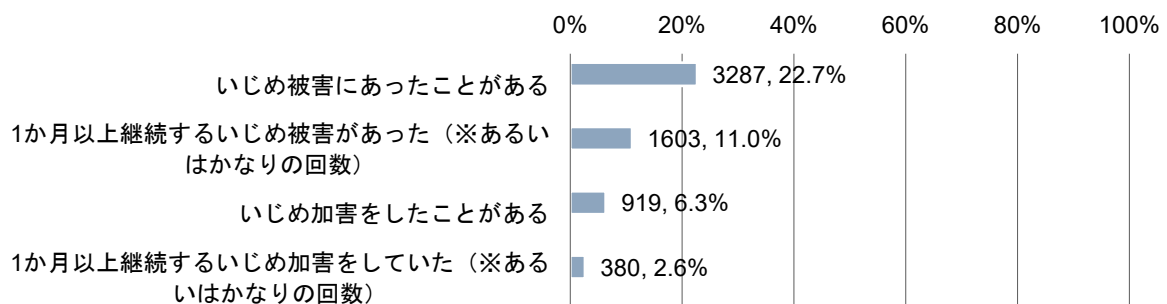
② 死別・離別

図表 116 Q28.【死別・離別】希死念慮の要因になりうる経験:複数回答



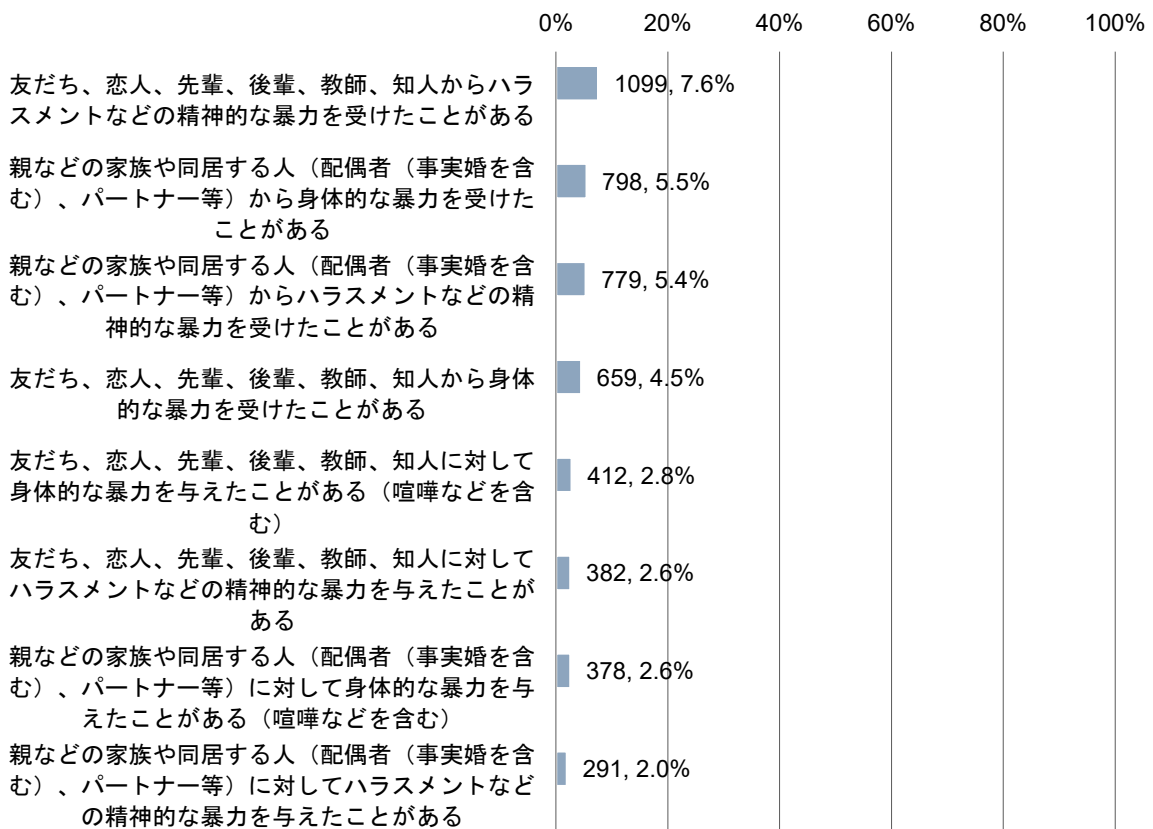
③ いじめ

図表 117 Q28.【いじめ】希死念慮の要因になりうる経験:複数回答



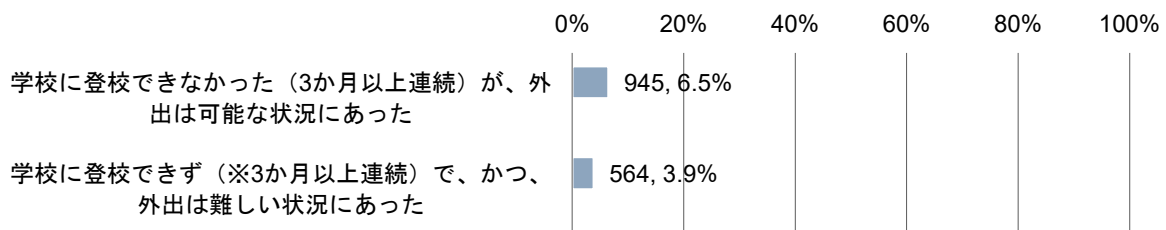
④ 暴力、虐待

図表 118 Q28.【暴力、虐待】希死念慮の要因になりうる経験:複数回答



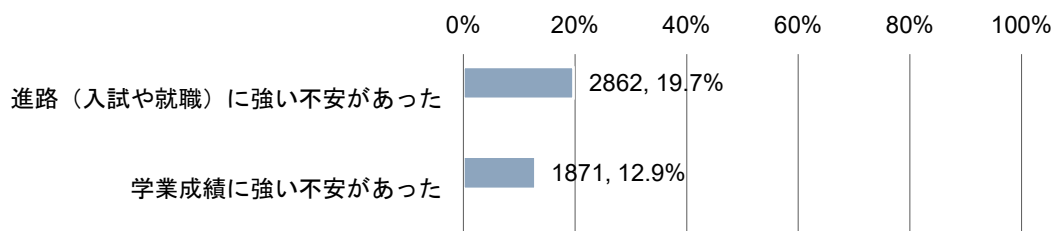
⑤ 不登校

図表 119 Q28. 【不登校】 希死念慮の要因になりうる経験:複数回答



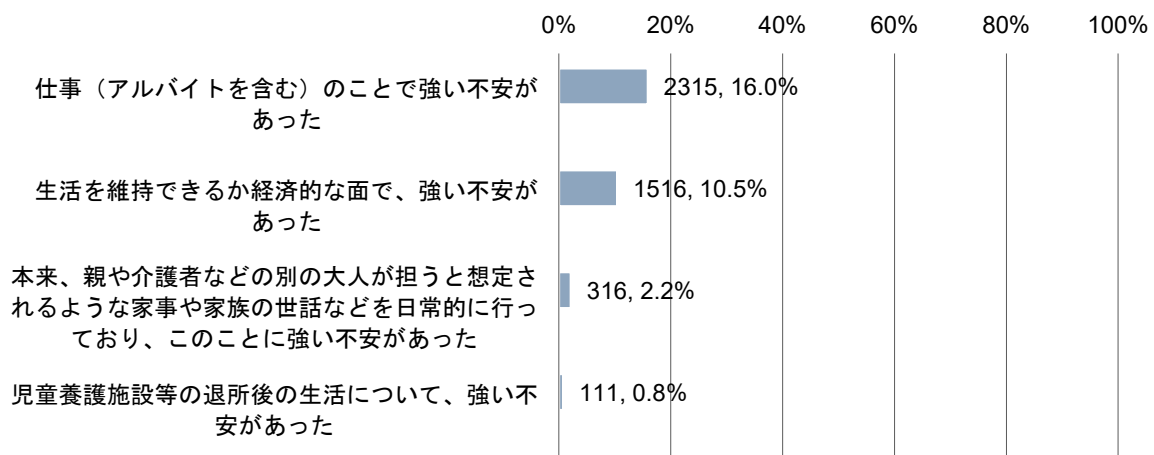
⑥ 学業成績

図表 120 Q28. 【学業成績】 希死念慮の要因になりうる経験:複数回答



⑦ 仕事、その他

図表 121 Q28. 【仕事、その他】 希死念慮の要因になりうる経験:複数回答

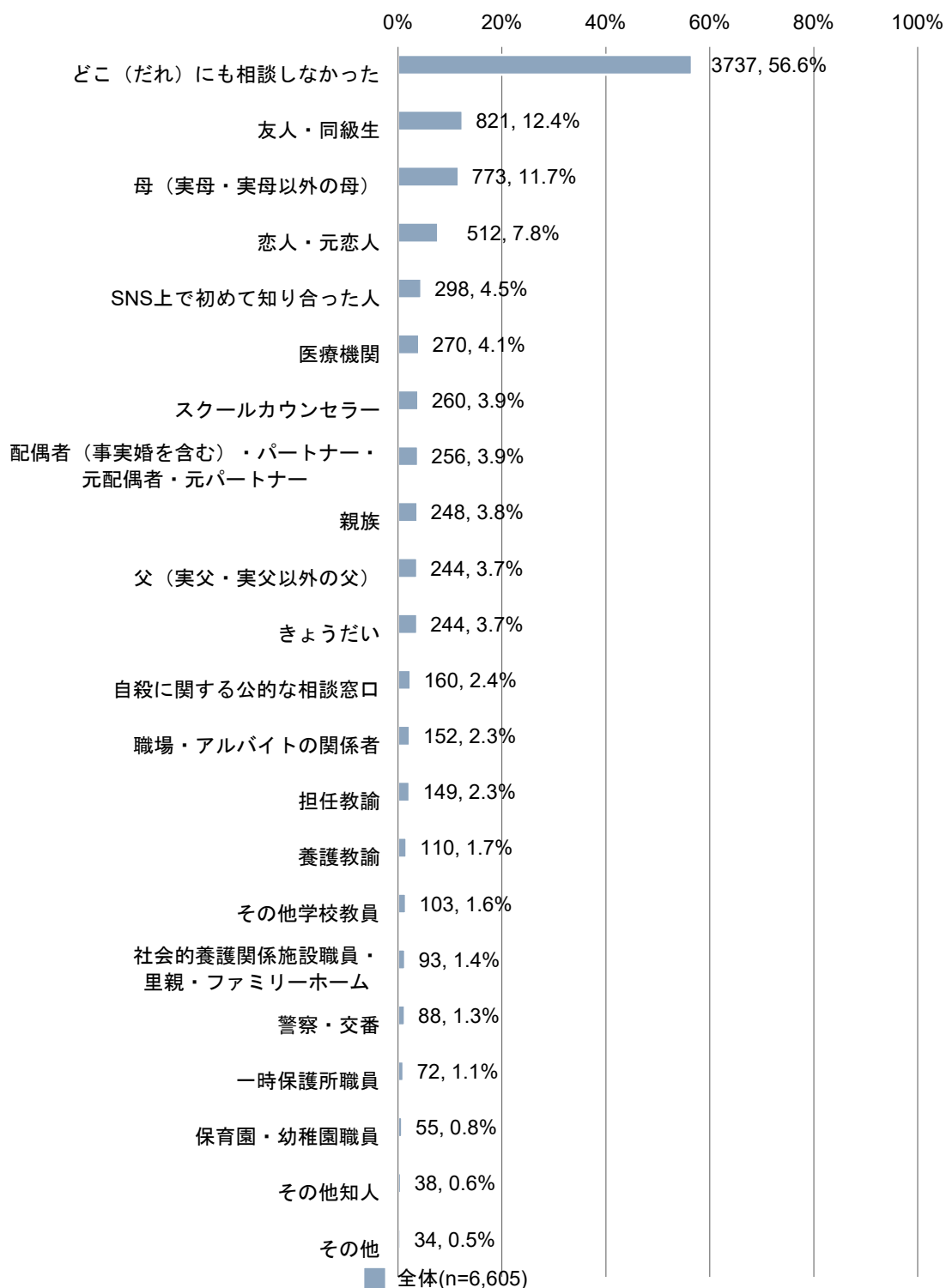


6. 希死念慮や自殺未遂・自殺準備に関する援助要請

(1) Q30. 希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が56.6%で最も割合が高く、次いで「友人・同級生」が12.4%、「母（実母・実母以外の母）」が11.7%となっている。

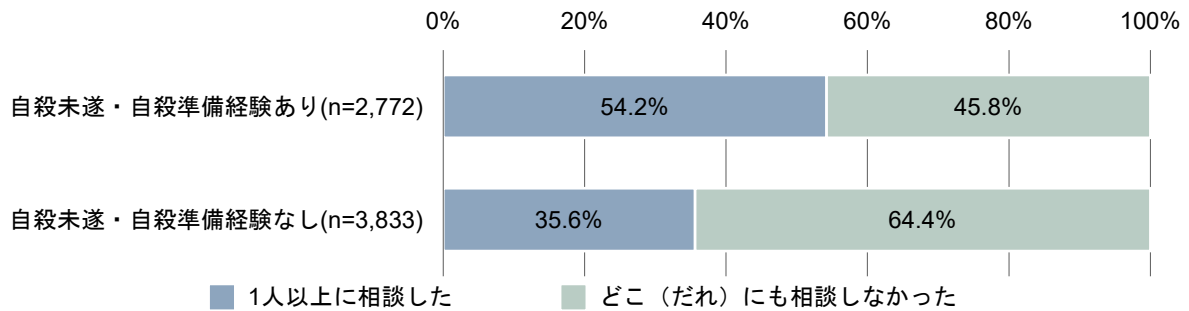
図表 122 Q30. 希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手:複数回答



① 自殺未遂・自殺準備経験の有無別

自殺未遂・自殺準備経験の有無別にみると、「1人以上に相談した」の割合は、「自殺未遂・自殺準備経験あり」で54.2%、「自殺未遂・自殺準備経験なし」で35.6%となっている。

図表 123 Q30.【自殺未遂・自殺準備経験の有無別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手

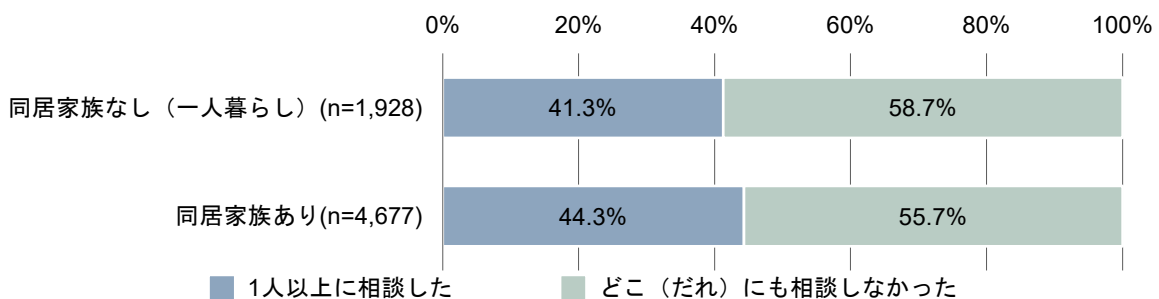


(※)グラフ内、「どこ(だれ)にも相談しなかった」は Q30 で「どこ(だれ)にも相談しなかった」を選択した者、「1人以上に相談した」はそれ以外の選択肢を1つ以上選択した者を示す。以下、同様。

② 同居家族の有無別

同居家族の有無別にみると、「1人以上に相談した」の割合は、「同居家族なし(一人暮らし)」で41.3%、「同居家族あり」で44.3%となっている。

図表 124 Q30.【同居家族の有無別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手



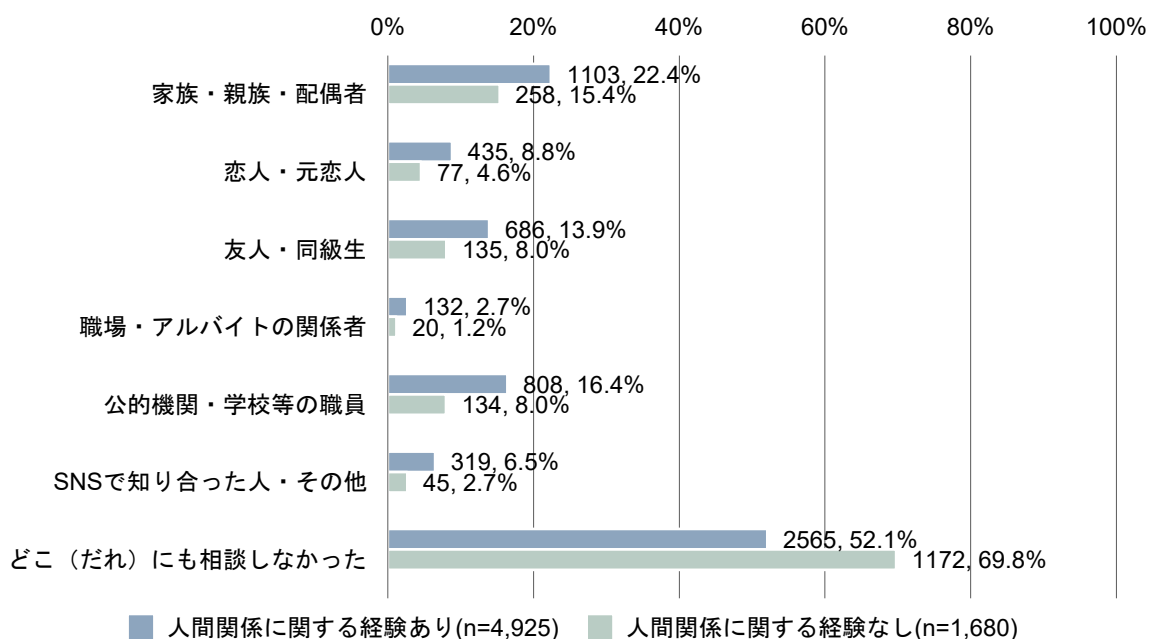
③ 希死念慮の要因になりうる経験の有無別

Q30における「母（実母・実母以外の母）」、「父（実父・実父以外の父）」、「きょうだい」、「親族」「配偶者（事実婚を含む）・パートナー・元配偶者・元パートナー」を「家族・親族・配偶者」と分類、「担任教諭」、「養護教諭」、「スクールカウンセラー」、「その他学校教員」、「保育園・幼稚園職員」、「一時保護所職員」、「社会的養護関係施設職員・里親・ファミリーホーム」「警察・交番」「医療機関」「自殺に関する公的な相談窓口」を「公的機関・学校などの職員」と分類、「SNS上で初めて知り合った人」、「その他知人」、「その他」を「SNSで知り合った人・その他」と分類し、全7カテゴリに分類した。その上で、Q28における希死念慮の要因になりうる経験に関するカテゴリ（「人間関係」「死別・離別」「いじめ」「暴力、虐待」「不登校」「学業成績」「仕事、その他」）に関する経験の有無別に希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手を把握している。なお、以下、各経験別グラフにおける「経験なし」はQ28のいずれかのカテゴリに関する経験がある者のうち、経験した内容が当該設問の経験以外だった場合を指す。（図表 125～図表 131）

<人間関係に関する経験別>

「人間関係に関する経験あり」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が52.1%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が22.4%、「公的機関・学校等の職員」が16.4%となっている。「人間関係に関する経験なし」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が69.8%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が15.4%、「友人・同級生」が8.0%となっている。

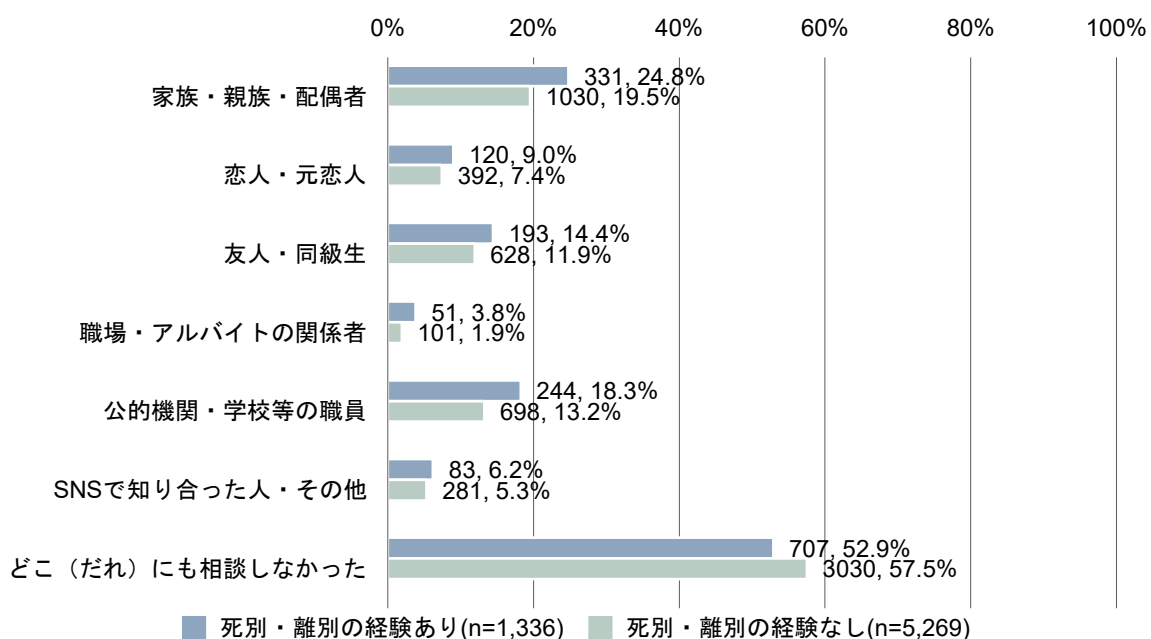
図表 125 Q30.【人間関係に関する経験別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手（7カテゴリ）：複数回答



<死別・離別の経験別>

「死別・離別の経験あり」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が52.9%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が24.8%、「公的機関・学校等の職員」が18.3%となっている。「死別・離別の経験なし」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が57.5%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が19.5%、「公的機関・学校等の職員」が13.2%となっている。

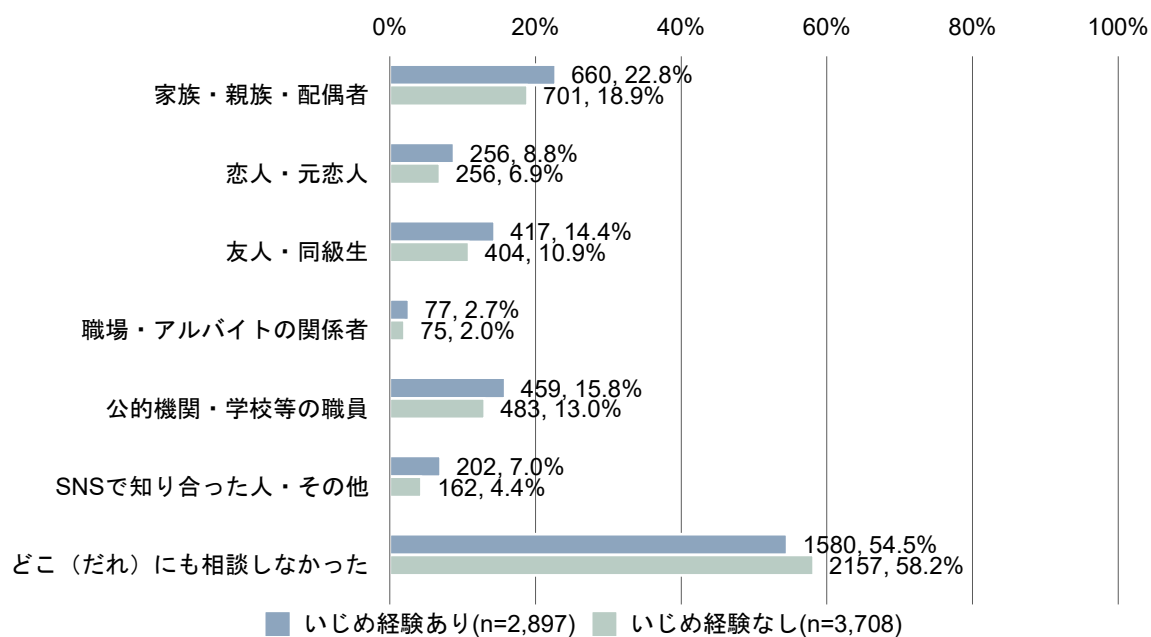
図表 126 Q30.【死別・離別の経験別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手（7カテゴリ）：複数回答



<いじめの経験別>

「いじめ経験あり」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が54.5%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が22.8%、「公的機関・学校等の職員」が15.8%となっている。「いじめ経験なし」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が58.2%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が18.9%、「公的機関・学校等の職員」が13.0%となっている。

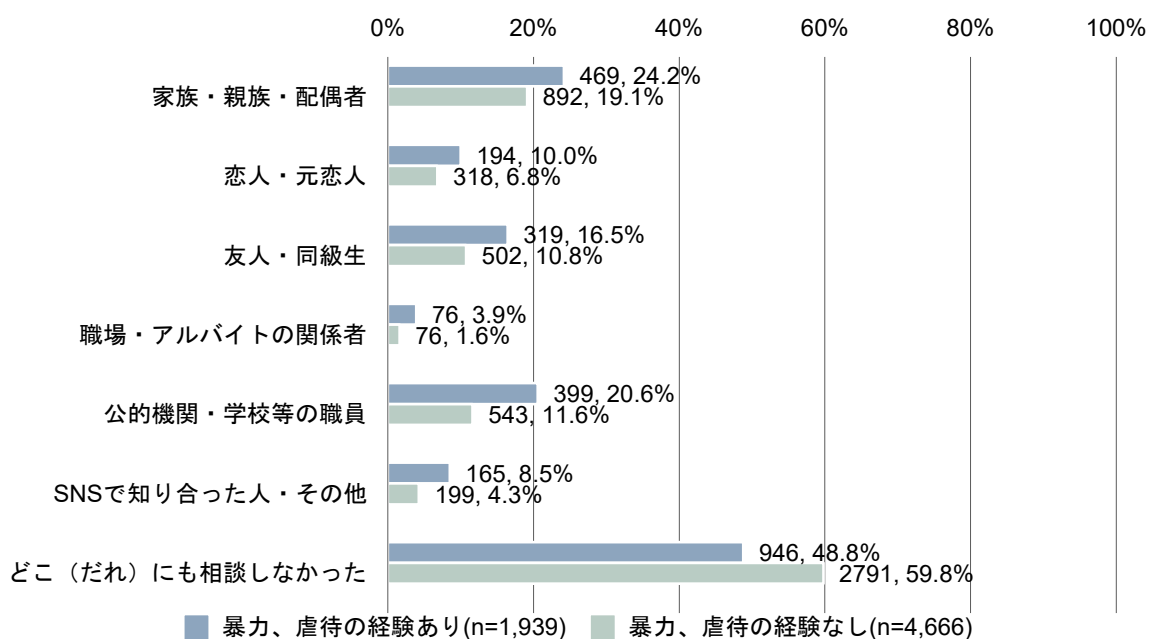
図表 127 Q30. 【いじめの経験別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手（7カテゴリ）：複数回答



<暴力、虐待の経験別>

「暴力、虐待の経験あり」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が48.8%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が24.2%、「公的機関・学校等の職員」が20.6%となっている。「暴力、虐待の経験なし」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が59.8%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が19.1%、「公的機関・学校等の職員」が11.6%となっている。

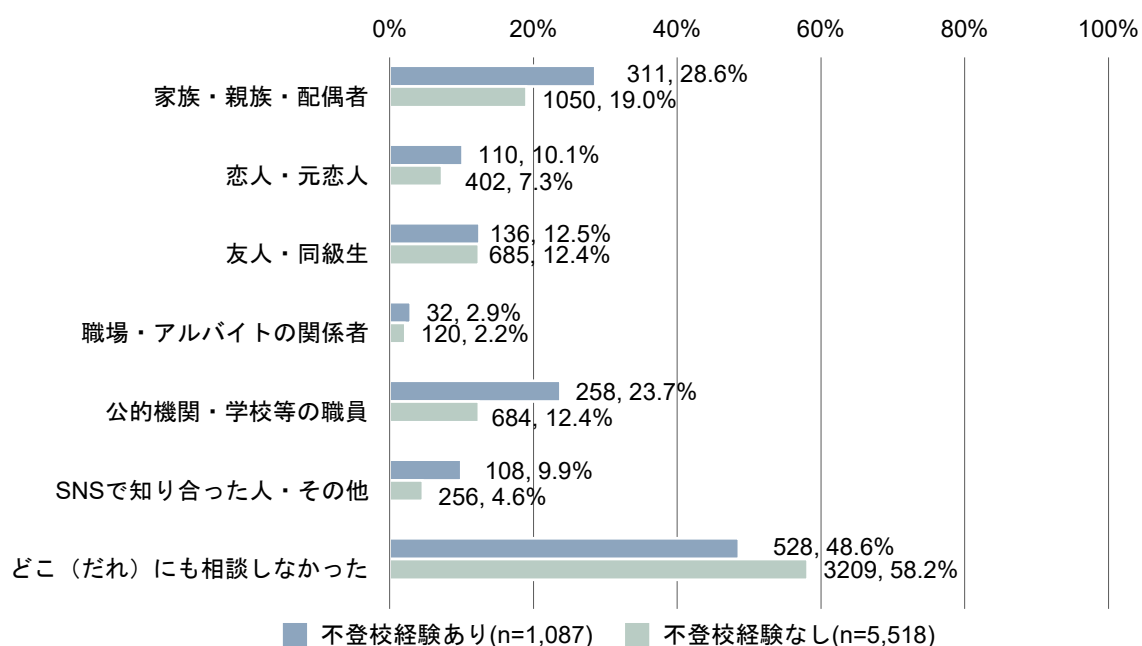
図表 128 Q30.【暴力、虐待の経験別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手（7カテゴリ）：複数回答



<不登校経験別>

「不登校経験あり」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が48.6%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が28.6%、「公的機関・学校等の職員」が23.7%となっている。「不登校経験なし」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が58.2%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が19.0%、「友人・同級生」が12.4%となっている。

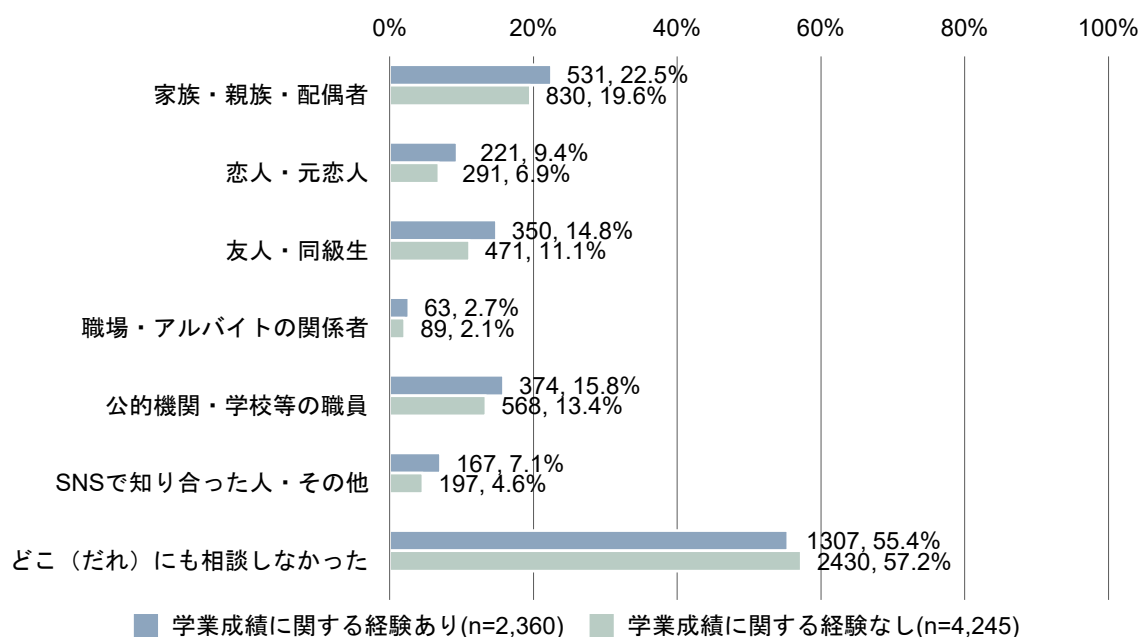
図表 129 Q30.【不登校経験別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手（7カテゴリ）：複数回答



<学業成績に関する経験別>

「学業成績に関する経験あり」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が55.4%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が22.5%、「公的機関・学校等の職員」が15.8%となっている。「学業成績に関する経験なし」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が57.2%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が19.6%、「公的機関・学校等の職員」が13.4%となっている。

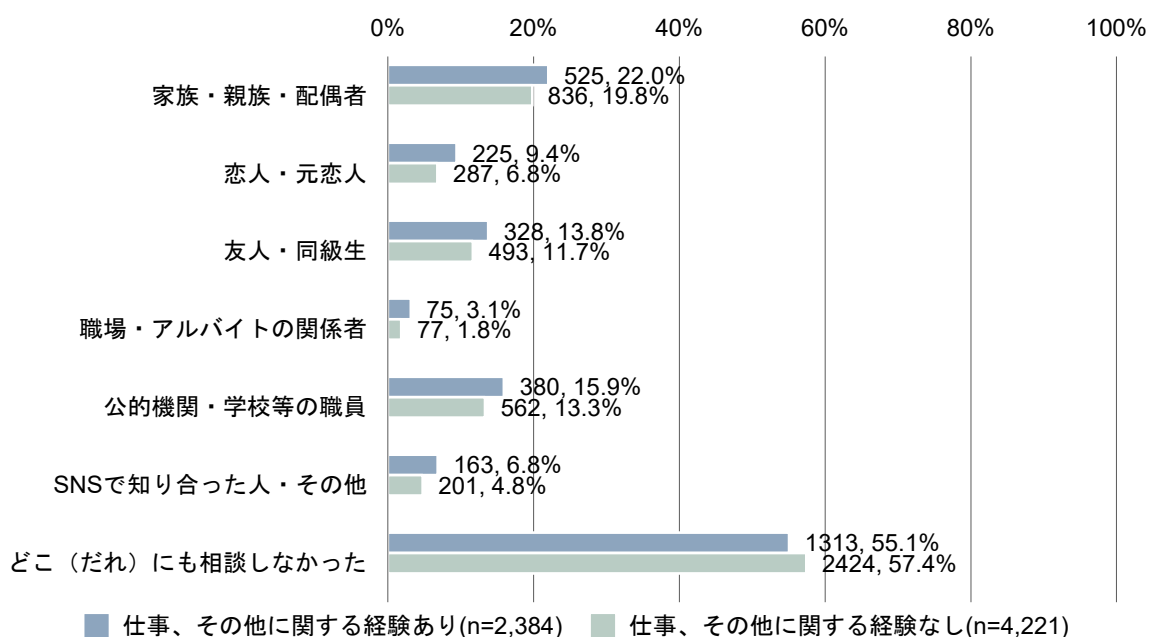
図表 130 Q30.【学業成績に関する経験別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手
(7カテゴリ) :複数回答



<仕事、その他に関する経験別>

「仕事、その他に関する経験あり」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が55.1%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が22.0%、「公的機関・学校等の職員」が15.9%となっている。「仕事、その他に関する経験なし」では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が57.4%で最も割合が高く、次いで「家族・親族・配偶者」が19.8%、「公的機関・学校等の職員」が13.3%となっている。

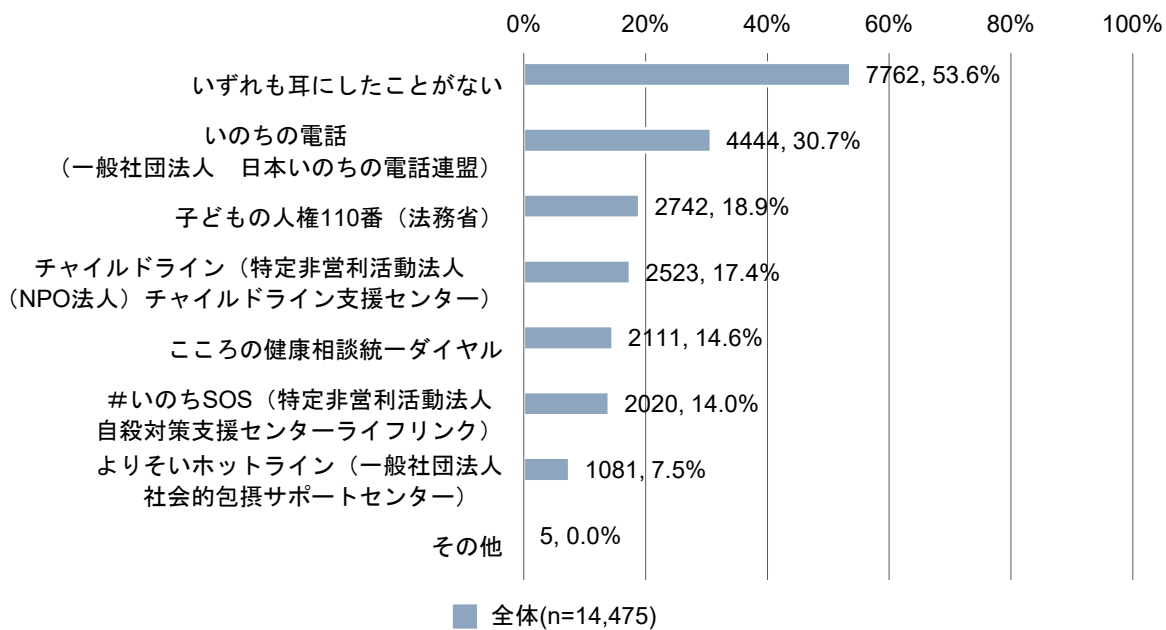
図表 131 Q30.【仕事、その他に関する経験別】希死念慮が生じた際に打ち明けた・相談した相手（7カテゴリ）：複数回答



(2) Q31.自殺に関する現状の支援の認知度

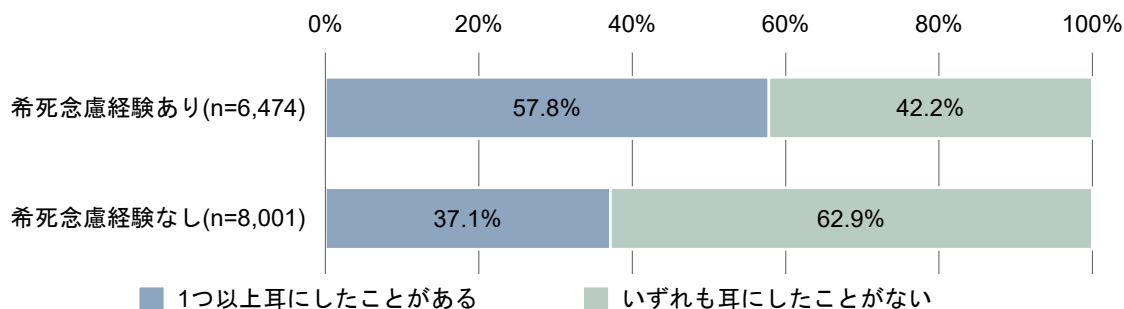
全員を対象に、自殺に関する現状の支援サービスの認知度を把握した。「いずれも耳にしたことがない」が53.6%で最も割合が高く、次いで「いのちの電話（一般社団法人 日本いのちの電話連盟）」が30.7%、「子どもの人権110番（法務省）」が18.9%となっている。

図表 132 Q31.自殺に関する現状の支援の認知度:複数回答



なお、希死念慮の有無別に自殺に関する現状の支援の認知度を比較すると、「1つ以上耳にしたことがある」の割合は、「希死念慮経験あり」で57.8%、「希死念慮経験なし」で37.1%となっている。

図表 133 Q31.【希死念慮の有無別】自殺に関する現状の支援の認知度

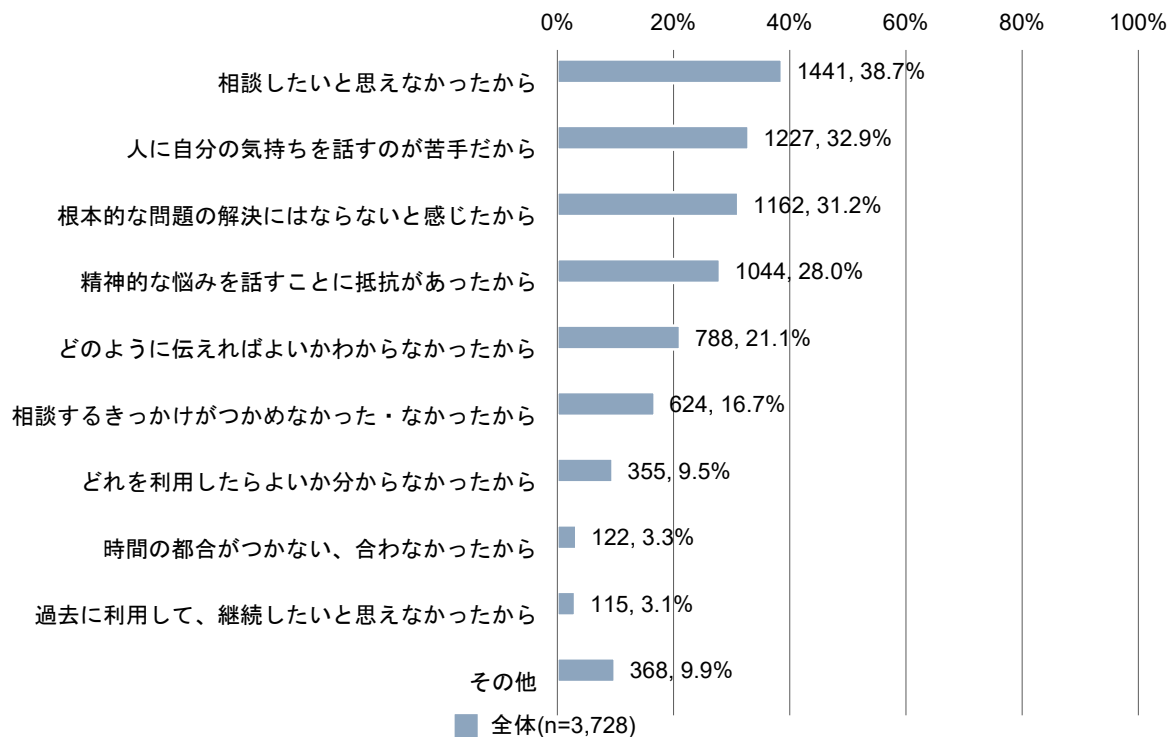


(※)グラフ内、「いづれも耳にしたことがない」は Q31 で「いづれも耳にしたことがない」を選択した者、「1つ以上耳にしたことがある」はそれ以外の選択肢を1つ以上選択した者を示す。

(3) Q32. 希死念慮が生じた際に誰にも相談しなかった理由

Q30で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した者にその理由を把握した。「相談したいと思えなかったから」が38.7%で最も割合が高く、次いで「人に自分の気持ちを話すのが苦手だから」が32.9%、「根本的な問題の解決にはならないと感じたから」が31.2%となっている。

図表 134 Q32. 希死念慮が生じた際に誰にも相談しなかった理由:複数回答



(4) Q33. 希死念慮が生じた際に利用しやすい／利用を勧めたいサービス

自分や友人・知人に希死念慮が生じたときに、利用しやすい、または利用を勧めたいサービスについて全員を対象に把握した。「プライバシーが守られる」が44.5%で最も割合が高く、次いで「24時間相談できる」が42.8%、「相談先がインターネットで直ぐに・簡単に調べられる」が38.6%となっている。

図表 135 Q33. 希死念慮が生じた際に利用しやすい／利用を勧めたいサービス:複数回答

